

大阪大学医学部附属病院 専門研修プログラム

2022 年度専攻医募集



大阪大学医学部附属病院
卒後教育開発センター



卷之三

CONTENTS

病院長ごあいさつ

募集概要

大阪大学医学部附属病院の概要

募集定員

専門研修プログラム

○内科専門研修プログラム	1
内科基本コース	3
サブスペシャルティ重点コース	5
循環器内科コース	8
腎臓内科コース	11
消化器内科コース	14
糖尿病・内分泌・代謝内科コース	17
呼吸器内科コース	19
免疫内科コース	22
血液・腫瘍内科コース	25
神経内科・脳卒中科コース	27
老年・総合内科コース	29
○外科専門研修プログラム	
外科共通コース	33
サブスペシャルティ重点コース	
心臓血管外科専門医コース	37
呼吸器外科専門医コース	40
消化器外科専門医コース	44
乳腺専門医コース	50
小児外科専門医コース	53
○眼科専門研修プログラム	56
○耳鼻咽喉科専門研修プログラム	58
○整形外科専門研修プログラム	61
○皮膚科専門研修プログラム	64
○形成外科専門研修プログラム	68
○精神科専門研修プログラム	71
○脳神経外科専門研修プログラム	75
○産婦人科専門研修プログラム	79
○小児科専門研修プログラム	83
○泌尿器科専門研修プログラム	85
○放射線科専門研修プログラム	88
○麻酔科専門研修プログラム	94
集中治療専門医コース	97
○救急科専門研修プログラム	100
集中治療専門医コース	97
○病理専門研修プログラム	103
○臨床検査専門研修プログラム	107
○リハビリテーション科専門研修プログラム	109
○総合診療専門研修プログラム	113

本院プログラムにて取得可能な専門医・認定医資格一覧

連携施設索引（連携状況一覧）

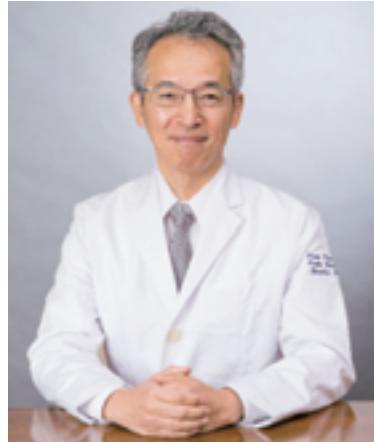
専門研修関連サイト



大阪大学「ワニ博士」

大阪大学専門研修プログラムについて

新専門医制度は4年目を迎え多くの領域で新しい制度の専門医が誕生し、今後の活躍によりその価値が試されるときが来ています。しかし、新型コロナウイルス感染による診療や学術活動の制限のために十分な研修ができずに研修期間の延長が認められた領域もあります。新型コロナウイルスは皆さんの研修に暗い影を落とす一方でこれだけ世間が医療に注目した時代もなかったと思います。皆さん的第一線での活躍に対する期待は極めて大きく、この戦いの勝利のための重要なポイントであるのは間違いないありません。



また、この4年間の間にも専門医制度は大きく変動しました。特に診療科及び都道府県における医師の偏在を是正するためのシーリング制度やサブスペシャルティとの連動研修の制度など解決すべき問題が分かってきました。シーリングについて大阪府はいくつかの診療科でシーリングがかかることがあります。大阪府としては決して医師が余っているわけではないので専門医機構に定数の見直しの要望を出しております。一方で、大阪大学としては大阪大学及び関連施設で専門医研修をしたいという専攻医の希望に一人でも多くこたえるべく、大阪府以外の施設と連携を強めながら、我々の専門研修プログラムに参加していただける先生を増やしたいと思っております。このようにシーリングに関係している診療科を希望される先生方においては、できるだけ早く診療科とコンタクトを取ってプログラムへの参加を表明していただくことでスムーズな研修が可能になりますのでよろしくご対応お願いします。

大阪大学の使命は附属病院での臨床、研究、教育を充実させることですが、それと同様に大阪大学の関連施設に優秀な人材を派遣し、大阪そして関西全体の医療に対して貢献するということが更に重要であると考えています。皆様の長い医師人生において専門医の取得はまだまだそのスタートに過ぎません。私たちが考える優秀な人材というのは単に専門医を取得したというだけの医師のことではありません。あるものは基礎研究し、あるものは海外留学し、あるものは手術の研鑽に他施設で修業し、そういった将来も含めた生涯学習を通じて優秀な人材を育成したといえるわけです。つまり、専門医育成にとどまらない生涯教育、これこそが大阪大学が目指すところであり、その一歩として大阪大学の専門研修プログラムに登録していただくことが何よりも重要だと思っています。

僭越ではありますが、皆様の医師としての成長を楽しみにしております。良い研修されることを期待しています。

令和3年5月

大阪大学医学部附属病院長 土岐 祐一郎

2022（令和4）年度 募集概要

1. プログラムの目的

大阪大学医学部附属病院が研修連携施設と協力し地域医療に貢献するとともに、幅広く活躍できる高度な医療人を育成することを目的とする。

2. 研修プログラム

- 1) 臨床研修を修了した専攻医を対象とし専門医の取得を目指すプログラムであり、本院では、全19の基本領域の基幹施設となっている。
- 2) 内科、外科および放射線領域は、基本領域の専門医を取得し、さらにサブスペシャルティ専門医取得へ継続するプログラムである。

3. 研修期間

3年～5年、基本領域ごとに異なる。詳細は各プログラム説明ページにて確認のこと。

4. 身分・待遇など

本院に勤務中は、本院の就業規則等による。※

連携施設に勤務の期間は、連携施設の就業規則・規定に準じる。

※https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/kitei_shugyou.html



- 62. 非常勤職員（定時教育研究等職員）就業規則
- 64. 非常勤職員（定時教育研究等職員）の労働時間、休日及び休暇等に関する規程
- 68. 非常勤職員（定時教育研究等職員）給与規程
- 69. 非常勤職員（定時教育研究等職員）の通勤手当に関する細則

(重要事項抜粋)

職名	医員（専攻医）
勤務時間	原則1日8時間、週5日（月曜日～金曜日、祝日を除く） (午前8時30分始業、午後5時15分終業。45分間休憩) 交代制勤務および当直勤務を命ずることがある。
時間外勤務	労使協定の範囲内で超過勤務を命じることがある
休暇	年次有給休暇および特別休暇 ・新たに職員となった年度の採用月に応じて年次有給休暇を付与 (例 4月～9月の採用の場合、採用時に10日付与) ・特別休暇は夏季、結婚、忌引き、病気、産前・産後休暇ほか
給与	時間給および諸手当を勤務実績に応じて支給 ・時間給 1,411円（令和3年4月1日現在） ・諸手当は通勤手当、超過勤務手当、休日手当、夜勤及び宿日直手当など
社会保険等	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険に加入 (但し勤務時間など雇用条件による)
その他	・敷地内禁煙 ・利用可能な教職員用宿舎あり（大阪大学グローバルレッジなど）詳細は下記参照 ▶ https://globalvillage.icho.osaka-u.ac.jp/tsukumodai/dorm-staff.html

5. 応募資格

2022（令和4）年3月時点で、医師臨床研修制度の2年間の臨床研修を修了済み、もしくは修了見込みの者

6. 応募および選考方法

各プログラムにおいて応募受付、選考を行う。

各プログラム（診療科）のページに記載されている問い合わせ先に連絡し、確認すること。

※ 希望したタイミングでなるべく早めのコンタクトを勧めます。

7. 問い合わせ先

プログラムの詳細や応募希望については各診療科宛て連絡下さい。

その他一般的な不明点等については、卒後教育開発センターにお問い合わせください。

大阪大学医学部附属病院 卒後教育開発センター

TEL : 06-6879-5050 ／ FAX : 06-6879-5047

メール : senmoni@hp-kensyu.med.osaka-u.ac.jp

URL : <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-kensyu/>



ホームページ QR コード

大阪大学医学部附属病院の概要

医療機関名	大阪大学医学部附属病院
承認病床数	1,086 床
診療科・部門名	循環器内科、腎臓内科、消化器内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、呼吸器内科、免疫内科、血液・腫瘍内科、老年・総合内科、漢方内科、総合診療科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科、病理診断科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科、脳神経外科、麻酔科、産科、婦人科、小児科、泌尿器科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、核医学診療科、病理部、臨床検査部、集中治療部、リハビリテーション部、総合診療部、高度救命救急センター
医療機関の現住所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2 番 15 号

2022（令和4）年度 募集定員

2021年4月現在

プログラム名 (日本専門医機構・学会へ登録の正式プログラム名称)	期間	2022年度 募集定員	臨床研究医 コース※
大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム *	3年	7名	1名程度 受入可能
大阪大学 外科専門研修プログラム	3年	70名	応相談
大阪大学 眼科専門研修プログラム *	4年	9名	2021年度 1名採用
大阪大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専門研修プログラム	4年	13名	
大阪大学 整形外科専門研修プログラム *	4年	16名	
大阪大学医学部 皮膚科研修プログラム	5年	10名	応相談
大阪大学 形成外科研修プログラム *	4年	7名	
大阪大学医学部附属病院連携施設 精神科専門研修 プログラム	3年	10名	応相談
大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科学	4年	14名	
大阪大学 産婦人科研修プログラム	3年	18名	応相談
大阪大学医学部附属病院 小児科専門研修プログラム	3年	24名	応相談
大阪大学泌尿器科 専門研修プログラム *	4年	10名	
大阪大学関連病院群 放射線科専門研修プログラム *	3年	12名	
大阪大学医学部附属病院 麻酔科専門研修プログラム *	4年	12名	
大阪大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム	3年	10名	応相談
大阪大学 病理専門研修プログラム	3年	5名	
大阪大学 臨床検査専門研修プログラム	3年	1名	
大阪大学 リハビリテーション科専門医研修プログラム	3年	2名	
大阪大学 総合診療専門医プログラム	3年	2名	
合 計 (19プログラム)		252名	—

上記募集定員は2021年4月時点の予定であり、関係機関の審査や、各診療科ごとに都道府県単位で設定されるシーリング(採用数の上限)により、変更となる場合があります。昨年2021年度の募集において、大阪府でシーリング対象となった診療領域は*のついた8領域です。

※ 臨床研究医コースとは？（概要）

- ①研修期間（図）は7年とする。
- ②開始後2年間は臨床研鑽を行い、それ以後の5年間はエフォートの50%以上を研究に充てる。
- ③専門研修は責任医療機関が管理し、カリキュラム制で行う。
- ④研究は大学院あるいはナショナルセンターで行い、SCI論文2本以上を執筆する。
- ⑤コース在籍中は、責任医療機関の規程に従い、給与などの身分が保障される。
- ⑥専攻医の募集は通常募集とは分離して行い、不採用となった研修医は通常募集に応募可能とする。

出典：日本専門医機構HP <https://jmsb.or.jp/senkoi#an14> より

専門研修プログラム



内科専門研修プログラム

新内科専門医制度では、内科専門医は、2年間の初期臨床研修の後、3年間の研修を通して育成されます。内科の Subspecialty 領域の専門医を取得するには、本制度における「内科専門医」の資格を取得することが必須となります。

大阪大学医学部附属病院では、本制度において、基幹施設として「大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム」を用意しています。そのコンセプトは、①大阪大学の内科全体で専門医を育てる ②教育機会の充実化を図る ③ 学術活動に関して高い目標設定をおく、です。

研修プログラムとして大きく2つのコース（内科基本コースとSubspecialty重点コース）を用意しています。内科基本コースは、高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。一方、Subspecialty重点コースは、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。また、大学院における臨床研究は、臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、研修期間中に臨床系大学院に進学しつつも専門医資格が取得できるプログラムを、Subspecialty重点コースの中に用意しています。

本プログラムの魅力は、何といっても早期から大阪大学において教育を受けることができる点にあります。大学はいうまでもなく学問の府であり、大学ならではのアカデミズムが浸透しています。各領域の専門家が数多く在籍しており、また希少症例も含めて数多くの症例が集まっています。つまり、教育資源が極めて豊富であるということです。内科専門医取得後のSubspecialtyプログラムへの移行もスムーズに行えます。是非、本プログラムへの応募をご検討ください。（Subspecialty専門医の連動研修（並行研修）については、後に記載の「内科専門研修とサブスペ研修の連動研修（並行研修）の概念図」をご参照ください。）

（1）プログラムの概要

本プログラムの構成施設群は以下の通りです。基幹施設として大阪大学医学部附属病院、連携施設として、豊能医療圏に位置する地域密着総合病院、同じく豊能医療圏に位置する高度専門医療機関、大阪市に位置する都市型総合病院、同じく大阪市に位置する高度専門医療機関、堺市および和歌山県田辺市に位置する地域中核総合病院の計 17 病院で構成されています。県外の病院が連携施設として含まれているのは、これまでの阪大病院との連携実績から教育資源の按分が必要と判断されるためです。

基幹施設： 大阪大学医学部附属病院

連携施設： 市立池田病院 (豊能圏における地域密着総合病院)

市立豊中病院 (豊能圏における地域密着総合病院)

箕面市立病院 (豊能圏における地域密着総合病院)

吹田市民病院 (豊能圏における地域密着総合病院)

国立循環器病研究センター病院 (豊能圏の高度専門研修病院)

国立病院機構大阪刀根山医療センター (豊能圏の高度専門研修病院)

住友病院 (大阪市に位置する都市型総合病院)

日本生命病院 (大阪市に位置する都市型総合病院)

淀川キリスト教病院 (大阪市に位置する都市型総合病院)

大阪国際がんセンター (大阪市の高度専門研修病院)

桜橋渡辺病院 (大阪市の高度専門研修病院)

堺市立総合医療センター (堺市の地域中核総合病院)

紀南病院 (和歌山県田辺市の地域中核総合病院)

広域紋別病院 (西紋地域紋別市の地域中核総合病院)

川崎病院 (神戸市に位置する都市型総合病院)

兵庫県立西宮病院 (西宮市の地域中核総合病院)

原則、基幹施設で 1 年以上、連携施設でも 1 年以上の研修を行います。プログラムの年間スケジュールは、各コースのところで記載いたします。

(2) 指導体制

プログラム統括責任者 兼 研修委員会委員長

坂田 泰史

副プログラム統括責任者

楽木 宏実

プログラム管理者

竹原 徹郎

日本内科学会指導医 107名（2021年3月時点）

また、以下の専門医が定的に在籍しています。

日本消化器病学会消化器病専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医、日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本老年医学会老年病専門医

(3) 連携施設としてのプログラム

大阪大学医学部附属病院は、基幹施設としての本プログラムのほか、大阪府下および兵庫県下の21基幹施設（下記）の内科専門研修プログラムに、連携施設として参加しています。これら21基幹施設のプログラムに登録されても、阪大病院で内科研修を受ける機会が得られ、上記の指導医が指導にあたります。

阪大病院が連携施設として参加している、他基幹施設プログラム（21プログラム）

- ・大阪労災病院内科専門研修プログラム
- ・りんくう総合医療センター内科専門研修プログラム
- ・大阪南医療センター内科専門研修プログラム
- ・市立東大阪医療センター内科研修プログラム
- ・八尾市立病院内科専門研修プログラム
- ・大手前病院内科専門研修プログラム
- ・大阪府立急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム
- ・JCHO星ヶ丘医療センター内科専門研修プログラム
- ・大阪警察病院内科専門医研修プログラム
- ・大阪医療センター内科専門研修プログラム
- ・第二大阪警察病院内科研修プログラム
- ・JCHO大阪病院内科専門研修プログラム
- ・市立吹田市民病院内科専門研修プログラム
- ・大阪府済生会千里病院内科専門研修プログラム
- ・市立池田病院内科専門研修プログラム
- ・箕面市立病院内科専門医プログラム
- ・市立豊中病院内科専門研修プログラム
- ・兵庫県立西宮病院内科専門研修プログラム
- ・伊丹Tera昆陽プログラム
- ・関西労災病院内科専門医プログラム
- ・近畿中央病院内科専門研修プログラム

内科専門研修とサブスペ専門研修の連動研修（並行研修）の概念図



（図は日本内科学会のHPより引用）

内科専門研修プログラム

内科基本コース

(1) コースの全体像

内科 (Generality) 専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方が選択します。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあります。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科をローテートします。1~2 年目を基幹施設において、原則 3 カ月を 1 単位として、各診療科をローテートします。3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します (基本コース KKR パターン)。あるいは、1~2 年目を連携施設で common disease と地域医療を経験し、3 年目を基幹施設 (大学) で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修するパターンもあります (基本コース RRK パターン)。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

(2) コースの概要

① 内科基本コース KKR パターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4														
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う																							
	1年目にJMECCを受講																							
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)														
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う																							
							専門医取得のための病歴要約提出準備																	
3年目	連携施設 A																							
	初診+再診外来 選に1回 6か月以上担当																							
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う																							
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防護に関する講習会 年に2回以上の出席																							

1~2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設 A : 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

② 内科基本コース RRK パターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
1年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)																				
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う																				
	1年目にJMECCを受講																				
2年目	連携施設 A (common diseaseと地域医療を経験)																				
	初診+再診外来 選に1回 6か月以上担当						専門医取得のための病歴要約提出準備														
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う																				
3年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4											
	基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修																				
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う																				
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防護に関する講習会 年に2回以上の出席																				

3年目の基幹施設での研修は、原則各科をローテートしていくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設 A : 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

(3) コースの実績

大阪大学医学部附属病院の内科系各診療科は、多数の専門医が在籍し、毎年多くの内科研修医の指導を行っています。また、一般診療に加え、高度先進医療も経験できます。また連携施設には、各施設に特徴的な専門医が存在し、特徴ある指導を行います。

(4) コースの指導状況

日常診療はもちろんのこと、種々の臨床研究も経験できます。研究会・学会等を通じた学術的指導も行っています。

(5) 専門医の取得等

本コースにて内科専門医取得後の具体的な活躍の場としては、下記のような場が挙げられます。

- ・地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）として

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します。

- ・内科系救急医療の専門医として

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

- ・病院での総合内科（generality）の専門医として

病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備えた総合内科医療を実践します。



内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース

(1) コースと全体像

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。原則、選択するSubspecialty領域の診療科に所属して研修計画をたて、研修を行います。最初の1～2年で内科専門研修に必要な症例を経験し、2年目または3年目よりSubspecialty領域を重点的に研修することになります。基幹施設と連携施設のローテートには色々なパターンがあります。KKRパターン：1～2年目は基幹施設において、原則3ヶ月を1単位として各診療科をローテートし、3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修する、KRRパターン：1年目に基幹施設、2年目、3年目に連携施設で研修する、RRKパターン：1～2年目を連携施設で内科疾患全般を研修し、3年目に基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する、RKKパターン：1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテートし、3年目は基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する、などがあります。サブスペシャルティ重点コースのRRKパターンおよびRKKパターンは、3年目または2年目から、各診療科の臨床系大学院への入学が可能であり、大学院に早く進学したい人向けのパターンといえます。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。

(2) コースの概要

① サブスペシャルティ重点コース KKR パターン

1～2年目は基幹施設において、原則3ヶ月を1単位として各診療科をローテートし、3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う						1年目にJMECCを受講					
	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
2年目	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う						専門医取得のための病歴要約提出準備					
	連携施設B (Subspecialty領域を重点的に研修)						初診・再診外来 週に1回 6か月以上担当					
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他要件	医療倫理、医療安全、感染防護に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設B： 国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院、淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院
広域紋別病院、川崎病院、兵庫県立西宮病院

② サブスペシャルティ重点コース **KRR** パターン

1年目に基幹施設、2年目、3年目に連携施設で研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4											
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う																				
	1年目にJMECCを受講																				
2年目	連携施設A (1年目にローテートしない領域を研修)			初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う			専門医取得のための病歴要約提出準備											
	連携施設B (Subspecialty領域を重点的に研修するとともに充足していない症例を経験) (1年目の3か月と合わせてSubspecialty領域重点研修期間は最長1年とします)																				
	その他																				
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防衛に関する講習会 年に2回以上の出席																				

1年目は原則各科をローテートして幅広く症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

連携施設B： 国立循環器病研究センター病院、大阪刀根山医療センター、桜橋渡辺病院、淀川キリスト教病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、紀南病院
広域紋別病院、川崎病院、兵庫県立西宮病院

③ サブスペシャルティ重点コース **RRK** パターン

1～2年目を連携施設で内科疾患全般を研修し、3年目に基幹施設で Subspecialty 領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う			1年目にJMECCを受講					
	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う			専門医取得のための病歴要約提出準備					
2年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う								
	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う			専門医取得のための病歴要約提出準備					
3年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)			1回/月以上の当直業務を6か月以上行う			基幹施設 (Subspecialty領域を重点的に研修するとともに不足症例を経験) (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を研修します)					
	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う			選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う			選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う			選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う		
その他	医療倫理、医療安全、感染防衛に関する講習会 年に2回以上の出席											

連携施設 A： 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

④ サブスペシャルティ重点コース RKK パターン

1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテート、3年目は基幹施設で Subspecialty 領域を重点的に研修する

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
1年目	連携施設A (common diseaseと地域医療を経験)																	
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う																	
	1年目にJMECCを受講																	
2年目	病棟1	病棟2	病棟3	病棟4	病棟5	病棟6	専門医取得のための病歴要約提出準備											
	主科 (希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を重点的に研修します)						初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
3年目	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う																	
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防衛に関する講習会 年に2回以上の出席																	

2年目は原則各科をローテートして不足症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

連携施設 A : 市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、吹田市民病院、住友病院、日本生命病院

(3) コースの実績、指導状況

大阪大学医学部附属病院の内科系各診療科は、多数の専門医が在籍し、毎年多くの内科研修医や内科サブスペシャルティ研修医、さらに大学院生の指導を行っています。また、一般診療に加え、高度先進医療も経験できます。また連携施設には、各施設に特徴的な専門医が存在し、特徴ある指導を行っています。

日常診療はもちろんのこと、種々の臨床研究も経験できます。研究会・学会等を通じた学術的指導も行っています。

(4) 専門医の取得等

本コースによる内科専門医取得後は、各研修医の希望に応じて、引き続き下記のようなキャリア形成を目指します。

・内科系 subspecialty 領域の専門医を目指す

阪大病院またはその関連施設において内科系の Subspecialty 科に所属して診療に従事し、内科サブスペシャルティ研修を継続します。

・内科系の医学博士取得を目指す

大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。また週に何時間かは、大学病院または地域の医療機関にて診療を実践する機会を持ち、サブスペシャルティ領域の専門医を目指します。

以下、各サブスペシャルティ重点コースの紹介をいたします。

- 1) 循環器内科コース
- 2) 腎臓内科コース
- 3) 消化器内科コース
- 4) 糖尿病・内分泌・代謝内科コース
- 5) 呼吸器内科コース
- 6) 免疫内科コース
- 7) 血液・腫瘍内科コース
- 8) 神経内科・脳卒中科コース
- 9) 老年・総合内科コース

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム (基本コース)

担当者 岡 崇史

 kenshu@cardiology.med.osaka-u.ac.jp

内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／循環器内科コース

(1) コースの全体像

循環器内科は人の命に直接関わる心臓を扱う内科であり、緊急・急性期から慢性期治療まで疾患の経過に応じた非常に幅の広い領域をカバーしています。生活の欧米化に伴う虚血性心疾患の発症率上昇と共に、平均寿命の伸びに伴う心不全の死亡率も増大しており、循環器内科医のニーズは益々高まっています。

一流の循環器内科医になるためには高度な研修が必要ですが、我々は多数の循環器研修病院と、大阪循環器カンファレンス (OCVC) として、連携して臨床、研究、教育を入っており、循環器内科医としての研修には最適な環境を提供できます。

大学院では最新の分子生物学的手法を取り入れた基礎的なものから、臨床研究まで多岐に渡った研究を行っており、いずれも世界トップレベルの研究です。循環器内科学教室は臨床系の教室ですが、大学院出願資格に関しては、必ずしも医学部出身、医師国家試験合格者である必要はありません。他学部修士課程卒業生なども大学院生（博士課程）として活躍しています。

また、キャリア形成の中で多くの仲間が海外へ留学し、自らの視野・知見を広げてあります。その分野も基礎医学研究や臨床医学研究から心臓移植患者管理やカテーテルインターベンション等の専門知識・手技まで多岐に渡っております。

このように我々循環器内科学教室は、様々なキャリア形成をサポートする体制を整えております。

下記 4 コースがあり、研修者本人の希望に応じ決定します。

●大学院重点コース

早ければ 2 年目から博士課程に進学し学位を取得する。

●臨床－研究融合コース

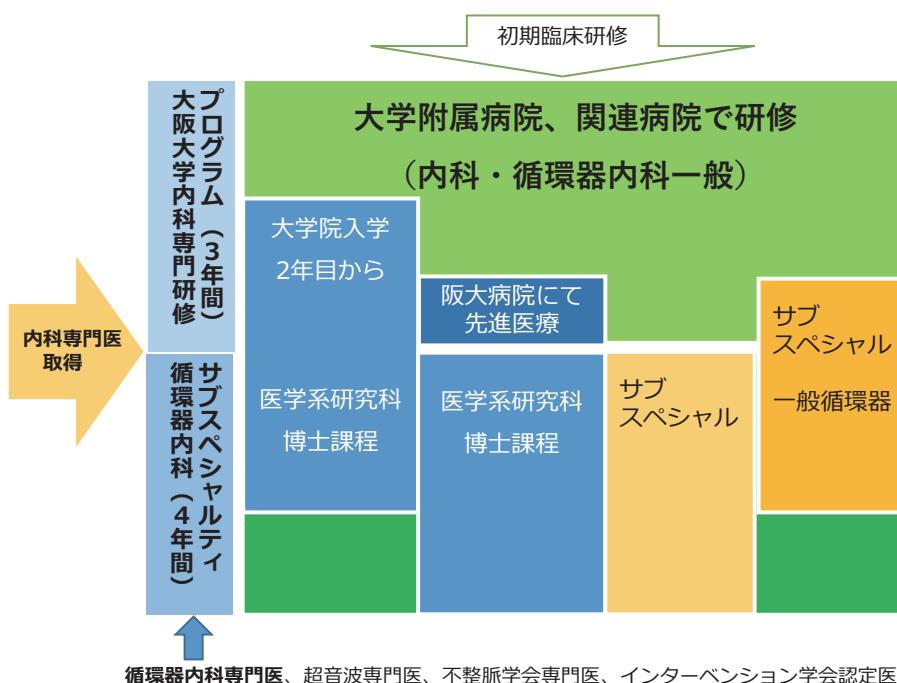
大学病院にて 1 年間先進・高度医療を経験した後、博士課程に進学する。

●臨床重点コース（サブスペシャルティ）

サブスペシャルティを選択し、虚血性心疾患(PCI)、心不全、不整脈、Structural Heart Disease 等各分野での高度な医療技術を身につける（大学又は関連病院にて 3 年間研修後、大学での先進医療研修と関連病院での研鑽を組み合わせておこなう）。大学におけるサブスペシャルティ研修として、重症心不全・移植専攻医育成プログラムや、TAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）研修を設けている。

●臨床重点コース（一般循環器）

循環器内科疾患全般の研修を継続するとともに、他の内科症例も経験し、循環器内科臨床医としての幅広い能力を身につける。



総合内科専門医に加え、循環器内科専門医、経験に応じインターベンション学会認定医、超音波専門医、不整脈学会専門医を取得する。コース、病院選択は個人の意思を尊重する。また、状況に応じて、コースを途中で変更することについて柔軟に対応する方針である。

(2) コースの概要

初期臨床研修において身に付けた臨床力の基盤をもとに、さらにみずからのサブスペシャルティを高めていくことが重要です。循環器疾患の基本的な内科診断（心エコー、心臓核医学検査、CT、MRI）、薬物治療に加え、心臓カテーテル検査手技を習得します。循環器内科がとりおこなう治療手技は幅広く、冠動脈インターベンション、不整脈アブレーション、デバイス植込手術（ペースメーカー、植込型除細動器）等多岐にわたります。そして臨床をごなすなかで、病態生理への疑問をもち、みずからそれを解明すべく臨床研究に携わる機会を設けます。大阪大学循環器内科、及び関連病院で構成される循環器部会は、若手医師の臨床力・探究心をともに高めることを目指し、かつそれが可能な環境を提供します。

心臓は酸素と栄養を送り続けることで全身と繋がっています。患者さんの諸臓器、運動能力、そして精神状態にも目を向けなければ心臓病は治療し得ません。大阪大学循環器内科の研修では、内科医としての総合診療能力向上にも力を入れていきます。

(3) コースの実績

本学が中心となり「大阪循環器カンファレンス（OCVC）」という連携を立ち上げ、定期的に症例検討会、研究会等を開催し、互いの臨床経験や知見を共有するとともに、関連病院間での共同研究に取り組むなど、関西一円の主要病院循環器内科と密接な連携を図り、診療レベルの向上と新しい医療の発信、研修医の教育を行っている。循環器内科専門研修を行う本学及び関連施設は心不全、虚血性心疾患、不整脈の豊富な症例、診療に必要な設備、教育体制を有し循環器内科の専門臨床経験を研鑽可能である。

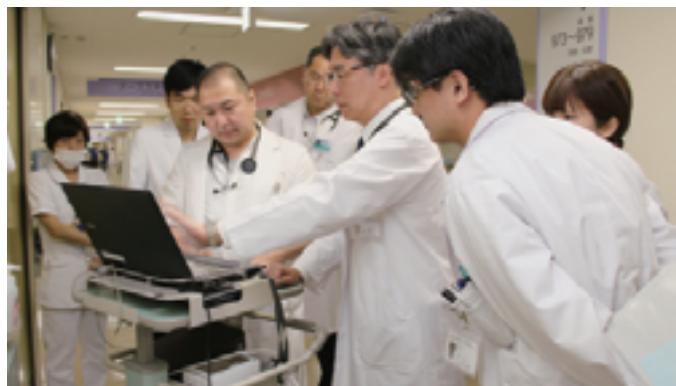
循環器内科連携施設（OCVC）

尼崎中央病院	兵庫県	近畿中央呼吸器センター	大阪府
市立池田病院	大阪府	広域紋別病院	北海道
大阪医療センター	大阪府	神戸掖済会病院	兵庫県
大阪急性期・総合医療センター	大阪府	国立循環器病センター	大阪府
大阪警察病院	大阪府	済生会千里病院	大阪府
第二大阪警察病院	大阪府	桜橋渡辺病院	大阪府
大阪国際がんセンター	大阪府	JCHO 大阪病院	大阪府
大阪中央病院	大阪府	JCHO 大阪みなど中央病院	大阪府
大阪南医療センター	大阪府	JCHO 星ヶ丘医療センター	大阪府
大阪労災病院	大阪府	市立吹田市民病院	大阪府
大手前病院	大阪府	住友病院	大阪府
加納総合病院	大阪府	市立豊中病院	大阪府
川崎病院	兵庫県	兵庫県立西宮病院	兵庫県
河内総合病院	大阪府	西宮市立中央病院	兵庫県
市立川西病院	兵庫県	市立東大阪医療センター	大阪府
関西ろうさい病院	兵庫県	箕面市立病院	大阪府
紀南病院	和歌山県	八尾市立病院	大阪府
近畿中央病院	兵庫県	りんくう総合医療センター	大阪府

(4) コースの指導状況

本学および関連施設はいずれも、日本内科学会、日本循環器学会の認定施設である。研修では循環器疾患全ての分野をカバーし心不全、虚血性心疾患、不整脈の診断、治療ができるよう循環器専門医による指導を行い、認定内科医、総合内

科専門医、循環器専門医の資格を取得できる。さらにサブスペシャルティ研修を行ったものではインターベンション学会認定医、超音波専門医、不整脈学会専門医を取得する。また、大阪大学におけるサブスペシャルティ研修として、重症心不全・移植専攻医育成プログラムや、T A V I（経カテーテル的大動脈弁置換術）研修をおこなっており、重症心不全・移植専攻医育成プログラムではプログラムを完遂した医師に対して大阪大学名で修了証を発行している。



(5) 専門医の取得等

総合内科専門医に加え、循環器専門医、経験に応じインターベンション学会認定医、超音波専門医、不整脈学会専門医、移植認定医（心臓）なども取得可能である。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 循環器内科

担当者 彦惣 俊吾、大谷 朋仁

✉ kenshu@cardiology.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.cardiology.med.osaka-u.ac.jp/>



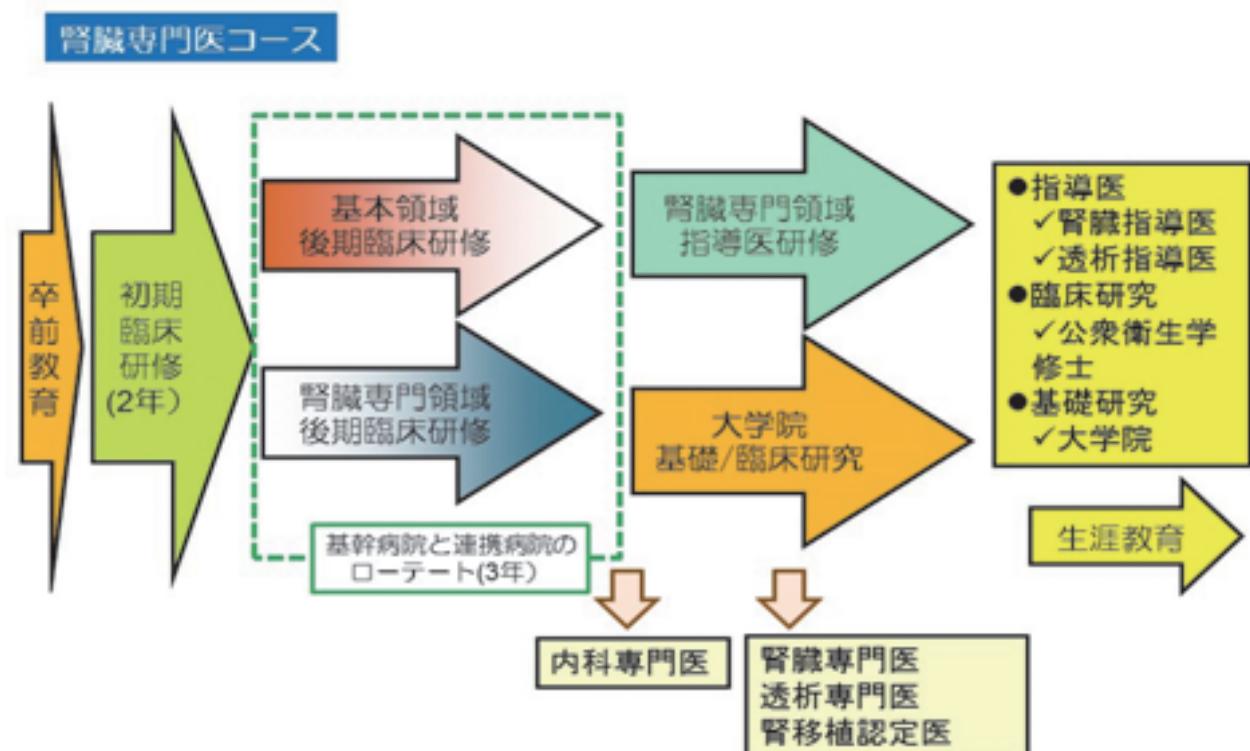
内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／腎臓内科コース



(1) コースの全体像

初期研修では不足している内科医としての総合的能力を補うとともに、腎臓専門医として独り立ちできるように指導を行います。内科専門医を取得するためには、3年目以降もひき続き幅広い診療領域に関わる必要がありますが、腎臓内科は、ほとんどの診療科からコンサルテーションをうけるため、循環器疾患、内分泌代謝疾患をはじめとして、常に多様な症例が経験可能です。また、大阪大学が中心となり、定期的な症例検討会や研究会を開催し、互いの臨床経験や知見を共有することで、関西一円の主要病院腎臓内科と密接な医療連携を図り、診療レベルの向上と新しい医療の発信を行っております。大阪大学および関連病院で研修を行うことにより、内科専門医を取得した上で、腎臓専門医・指導医、透析専門医・指導医、腎移植認定医（日本臨床腎移植学会）の資格を取得できるように指導します。なお、研修プログラムの選択は専攻医の希望を聞いたうえで決定します。



(2) コースの概要

ほぼすべての基幹病院プログラムにおいて、大阪大学医学部附属病院が連携病院になる。
詳細は内科学会ホームページの「研修プログラム一覧」を参照のこと。

コース名： 腎臓専門医コース							
基幹病院（連携病院） (連携病院は腎臓内科がある病院を中心に記載)	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入数	期間	
大阪大学医学部附属病院(市立池田病院、市立豊中病院、淀川キリスト教病院、日本生命病院など)	腎臓内科など	腎臓内科など	2-7名	慢性腎炎の診断・治療 腎不全の治療 水・電解質管理 腎移植患者管理	プログラム毎に各学年1-3名	3年	
大阪急性期・総合医療センター(市立東大阪医療センター、大手前病院、阪大病院など)							
大阪労災病院(大阪南医療センター、関西労災病院、堺市立総合医療センター、阪大病院など)							
大阪南医療センター(大阪労災病院、大阪医療センター、堺市立総合医療センター、阪大病院など)							
市立東大阪医療センター(大阪急性期・総合医療センター、大手前病院、阪大病院など)							
大手前病院(市立東大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、阪大病院など)							
大阪医療センター(第二大阪警察病院、大阪南医療センター、阪大病院など)							
第二大阪警察病院(大阪医療センター、阪大病院など)							
JCHO大阪病院(日本生命病院、JCHO大阪みなと中央病院、阪大病院など)							
日本生命病院(JCHO大阪病院、JCHO大阪みなと中央病院、大阪南医療センター、阪大病院など)							
市立豊中病院(市立池田病院、県立西宮病院、阪大病院など)							
関西労災病院(県立西宮病院、大阪労災病院、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、阪大病院など)							
県立西宮病院(関西労災病院、市立豊中病院、阪大病院など)							
淀川キリスト教病院(堺市立総合医療センター、貴生病院)							
市立池田病院(市立豊中病院、阪大病院など)							
堺市立総合医療センター(大阪労災病院、淀川キリスト教病院、阪大病院など)							

(3) コースの実績

本学及び関連施設はいずれも、腎生検数 50-150 件/年、透析ベッド数 8-20 床であり、慢性腎炎から慢性腎不全・透析に至るまで腎臓内科医として十分な臨床経験が可能である。内科専門医取得後も、各診療科のコンサルテーションをうけており、内科専門医としての幅広い臨床経験を積むことが可能である。本学関連施設では、年間 50 症例の腎臓移植を行っており、腎移植患者の内科的管理を学ぶことも可能である。

(4) コースの指導状況

本学および関連施設はいずれも、日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の認定施設であり、慢性腎炎の診断・治療、腎不全の治療、水・電解質管理および腎移植患者管理ができるように指導を行い、内科専門医、腎臓専門医・指導医、透析専門医・指導医、腎移植認定医の資格を取得できるように指導する。また、臨床研究の基本的な考え方を身につけるように指導する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	1) 日本内科学会 2) 日本腎臓学会 3) 日本透析医学会
資格名	1) 内科専門医 2) 腎臓専門医 3) 透析専門医
資格要件	1) 内科専門医は教育病院での5年研修、200例の経験症例の登録、29症例の病歴要約、JMECC受講等のうえ、筆記試験合格で取得。 2) 最低3年間の認定施設でのカリキュラム研修のうち、腎疾患患者症例の要約提出し、筆記試験合格で取得。 3) 詳細は未定
【学会の連携等の概要】	
大阪大学および関連病院はいずれも内科学会・腎臓学会・透析医学会認定教育認定施設である。また、大阪大学、大阪急性期・総合医療センター、県立西宮病院では、腎移植患者の内科管理を学ぶことが可能である。また、腎臓内科専攻医に対する腎移植外来・実習見学プログラムも設けている。	



問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 腎臓内科

担当者 高畠 義嗣

✉ takaba@kid.med.osaka-u.ac.jp

TEL: 06-6879-3857

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/kid/kid/index.html>

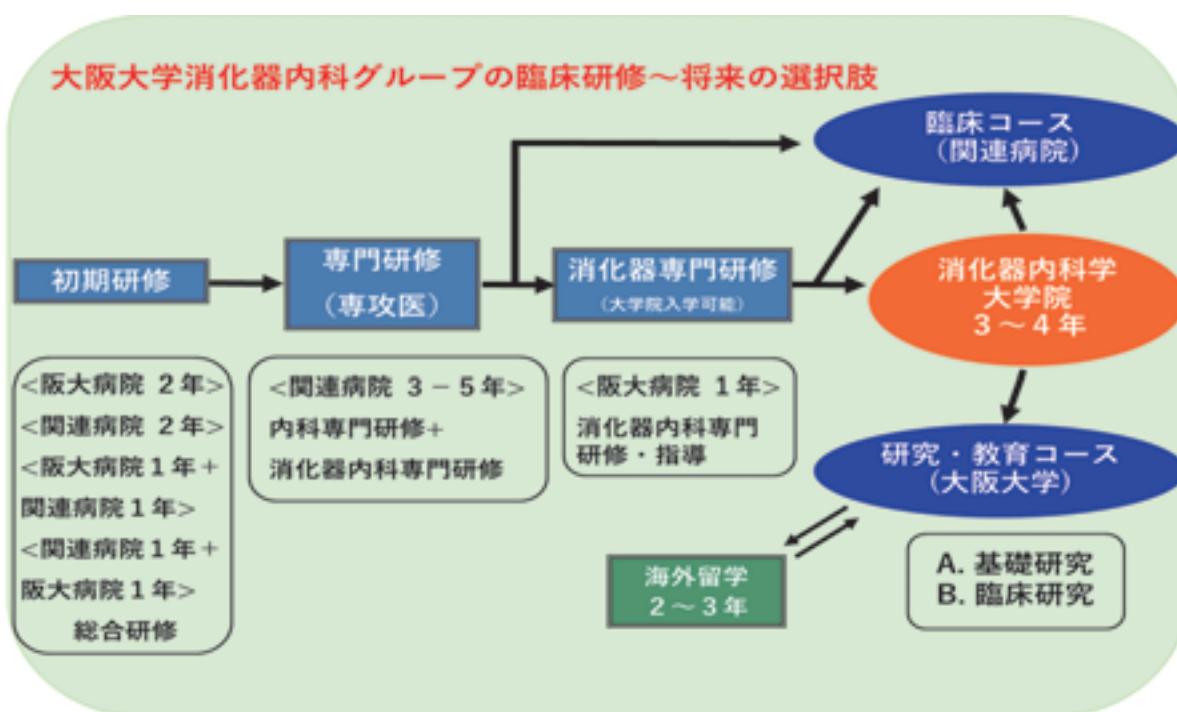


内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／消化器内科コース

(1) コースの全体像

2年間の初期臨床研修終了後、消化器内科専門医を目指す医師に消化器内科専門コースが行われる。具体的には、希望する関連病院で専門研修を3-5年間受けた後、阪大病院で1年間の消化器専門研修を受けるか関連病院でさらに研鑽を積むかを選択する。関連病院での専門研修は、内科専門研修に加えて幅広い消化器疾患に対して技術的なことを含めて専門研修を受ける。大学での消化器専門研修終了後、大学院（消化器内科学）に進むか、関連病院消化器内科の常勤スタッフとなるかの選択は自由である。大学院には、阪大病院での消化器専門研修のときから入学は可能であるが、通常は1年後に入学となる。大学院に進学して学位取得した後、大阪大学で研究（あるいは海外留学）や教育・診療を続けるか、関連病院の臨床スタッフとなるか選択する。



(2) コースの概要

コース名： 消化器内科専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	消化器内科	消化器内科	16名	高度先進医療における消化器疾患の経験	10名	1年
大阪大学関連病院25病院 (国立病院大阪医療センター、国立病院大阪南医療センター、地域医療機能推進機構大阪病院、大阪労災病院、関西労災病院、大阪国際がんセンター、大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、兵庫県立西宮病院、市立豊中病院、市立吹田市民病院、市立池田病院、箕面市立病院、市立伊丹病院、市立芦屋病院、西宮市立中央病院、市立東大阪医療センター、八尾市立病院、市立貝塚病院、市立川西病院、公立学校共済組合近畿中央病院、済生会千里病院、地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院、国家公務員共済組合大手前病院、住友病院)	消化器内科	消化器内科	3-12名	多様な消化器疾患の研修、内視鏡検査や超音波検査などの技術習得、消化器内科専門医取得に必要な専従期間の獲得	各病院 1~4名 3年	

(3) コースの実績

大阪大学医学部附属病院ならびに関連病院では、広く消化器疾患を診療対象とし、高度かつ先進的な医療を実践している。肝疾患ではC型肝炎やB型肝炎を対象に新しい抗ウイルス療法を用いた治療法を確立・開発しており、世界でも中心的な役割を果たしている。また、肝硬変や肝細胞癌に最新の治療を提供している。胃腸疾患では食道癌、胃癌や大腸癌の早期発見に努め、ESDなどによる低侵襲な内視鏡治療を積極的に行い、進行癌に対して最新の薬物療法や集学的治療を行っている。炎症性腸疾患に対して生物学的製剤や免疫抑制剤による薬物療法や内視鏡的バルーン拡張術など最先端の治療法を行っている。また、胆膵疾患では、ERCP、EUS、FNAなどにより膵癌、胆道癌の早期発見、確定診断を行い、積極的に化学療法や内視鏡的胆膵処置を行っている。

(4) コースの指導状況

大阪大学医学部附属病院ならびに関連病院では、研修医に対しジュニアライターがマンツーマンで指導する2人主治医制をとり、さらに臨床教授や臨床准教授をはじめとした部長(科長)による指導体制としている。回診、カンファレンス等を毎週行っており、連携のとれたチーム医療を実践している。本コースでは、全ての消化器疾患分野をカバーし、エコーや内視鏡を用いた様々な検査・治療に関する技能習得を目指す。また、次項に示すような専門医を取得することが可能である。

(5) 専門医の取得等

学会等名	1) 日本消化器病学会、 2) 日本肝臓学会、 3) 日本消化器内視鏡学会、 4) 日本内科学会
資格名	1) 消化器病専門医、 2) 肝臓専門医、 3) 消化器内視鏡専門医、 4) 内科専門医
資格要件	<p>1) 継続 4 年以上本学会の会員であること。申請時において内科専門医の資格を有すること。基本領域の専門医資格取得に必要な所定の臨床研修終了の後かつ開始後 4 年以降に、認定施設もしくは関連施設における 3 年以上の消化器病専門医研修を修了していること。</p> <p>2) 継続 4 年以上本学会の会員であること。内科専門医の資格を有すること認定施設において、本学会専門医研修カリキュラムに従って、3 年以上の肝臓病学の臨床研修を修了していること。</p> <p>3) 継続 5 年以上本学会の会員であること。指導施設において 5 年以上研修し、所定の技能ならびに経験をもっていること。申請時において総合内科専門医または認定内科医の資格を有すること。</p> <p>4) 臨床研修終了後、3 年の専門研修を修了し、200 例の経験症例の登録、29 症例の病歴要約、JMECC 受講等の要件を満たすこと。</p>
【学会の連携等の概要】	
すべての施設が、日本消化器病学会、日本内科学会ならびに日本消化器内視鏡学会の教育病院としての認定を受け、ほとんどの施設が日本肝臓学会の認定を受けている。	

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 消化器内科

担当者 林 義人

✉ y.hayashi@gh.med.osaka-u.ac.jp

TEL: 06-6879-3621

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gh/student>

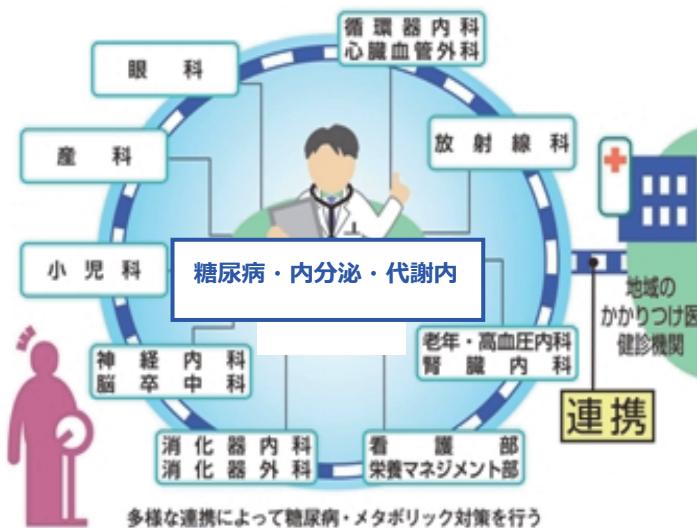
内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／糖尿病・内分泌・代謝内科コース

(1) コースの全体像（特徴）

大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科は、下村伊一郎教授以下、約70名の教室員が所属し、さらに同窓会会員は約500名にも達し、日本最大規模の糖尿病・内分泌・代謝内科学教室です。「佳き主治医と医学貢献」の方針のもと、日本そして世界の医療・医学への貢献を常に目指し、多くの実績を積み上げています。

当科は全身の臓器・血管を相手にしています。すなわち、当科の領域は、全身を相手にする統合内科学としての診療学問領域という性格があります。そのため、さまざまな診療科と連携して診療に当たり、糖尿病・内分泌・代謝疾患のスペシャリストであると同時に、内科のジェネラリストとしての能力を高める研修教育も実践しています。また当科は、内科の中でも女性医師が多数在籍している診療科であり、結婚・出産・育児への対応、キャリアアップ、また教官や関連施設部長、留学と多くの女性医師が高いレベルで活躍することを積極的にサポートしています。当科のサブスペシャルティ重点コースでは、他の内科系診療科と同様、研修医の希望に応じて、できるだけ早い時期からサブスペシャルティ領域の専門研修を行い、その後のキャリア形成につなげます。



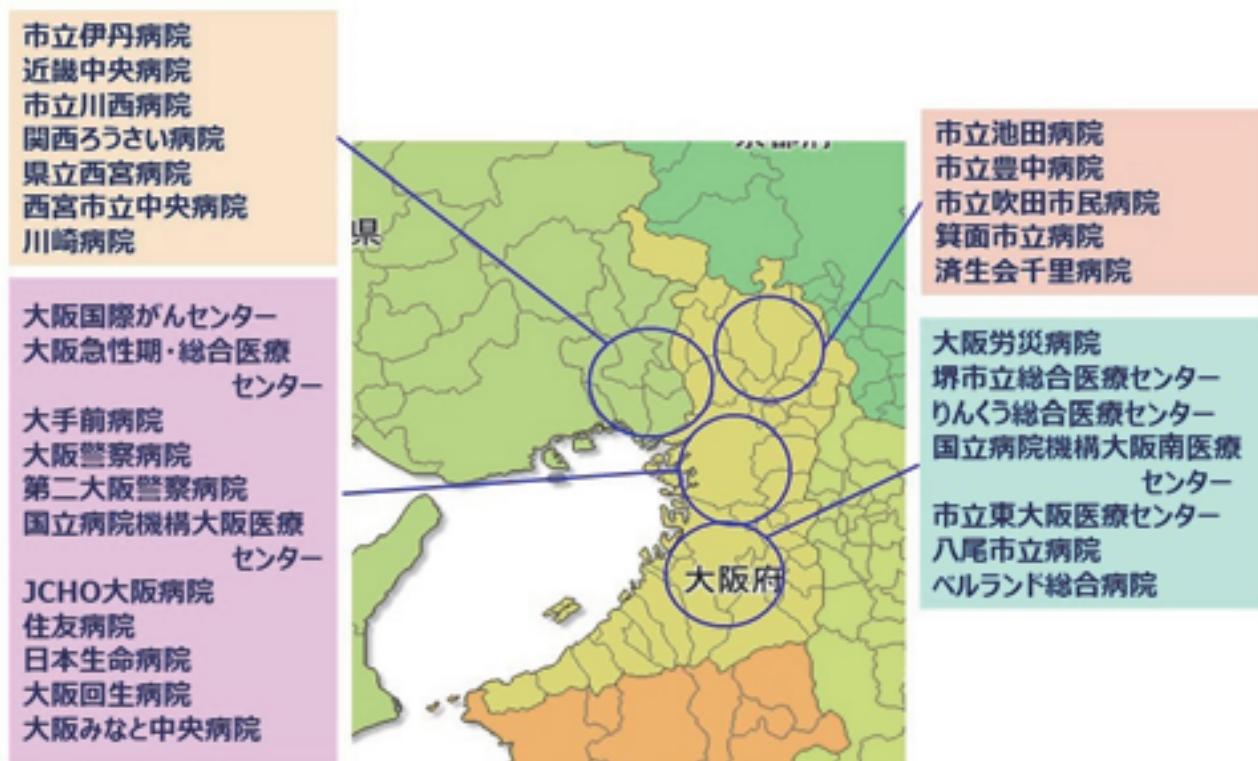
また、当科のサブスペシャルティ重点コースでは、3年目より大学院に進学し、研究を早くから開始することもできます。当科ではこれまでに、下記のような内科学・糖尿病学・内分泌学の教科書に載る世界一流の研究実績を有しています。

- ・内臓脂肪症候群（Visceral Fat Syndrome）：メタボリックシンドローム概念発祥の地
- ・アディポネクチン（Adiponectin）：脂肪細胞由来ホルモンであるアディポネクチンの発見とアディポサイトカイン概念の提唱
- ・転写因子 MafA：最も強力なインスリン転写因子であり胰β 細胞再生にも重要な因子の発見
- ・劇症 1 型糖尿病（Fulminant Type 1 Diabetes）：1 型糖尿病の新たな subtype（疾患 entity）の確立
- ・グルココルチコイドによる TSH 不適切分泌症候群：新たな内分泌疾患概念の提唱

研究を早くから開始したい研修医には、大学院に入学してもらい、内科専門研修と並行して、こうした一流の研究にも参画してもらうようにいたします。

(2) コースの概要

大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラムの連携施設、大阪大学医学部附属病院が連携施設として参加しているプログラムの基幹施設については、1～2ページをご参照ください。次頁は、当科のサブスペシャルティ専門医を取得する際にローテートする、あるいは専門医取得後に専門医として活躍していただける関連施設です。大阪府下および阪神地区に多数の関連施設を有しています。



(3) コースの実績

大阪大学医学部附属病院および関連施設（すべて日本糖尿病学会認定教育施設）において、多数の糖尿病患者、代謝疾患患者、内分泌疾患患者を診療経験することができます。阪大病院では、外来管理糖尿病患者数は40,000人以上、年間入院糖尿病患者数は1,000人におよびます。また年間入院内分泌疾患患者数も300人におよびます（※患者数はすべて延べ）。内分泌代謝臨床に関する学会発表は年間100件におよび、英文学術論文数も数十本におよびます。毎年3～6名の学位取得者、数名の専門医取得者がいます。

(4) コースの指導状況

大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科においては、38名の糖尿病専門医、8名の糖尿病研修指導医、14名の内分泌代謝科専門医、5名の内分泌代謝科研修指導医が所属し、研修医の指導にあたっています。各関連施設においては1名以上のサブスペシャルティの研修指導医が常駐し、2～5名のスタッフで研修指導を行っています。また関連施設共同で、OEMCC（大阪内分泌代謝クリニカルカンファレンス）を年1回開催し、研修指導を強化しています。

(5) 専門医の取得等

当科で取得可能なサブスペシャルティ専門医は、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医の他、肥満症専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医です。内科専門医を取得後は、こうしたサブスペシャルティ専門医取得を目指して研修を継続します。また、研究志向のある研修医は、大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。あるいは、関連施設で臨床医として活躍しつつ、大学と連携をとりながら臨床研究を行い、論文博士を取得することも可能です。専門医や学位取得後は、各人の適正と希望に応じて、研究・臨床・教育の各現場で、後輩の指導にあたるとともに、第一線のプロフェッショナルとしてのキャリアを積んでいくことになります。

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

担当者 小澤 純二

TEL:06-6879-3732

✉ kensyu@endmet.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/endmet/www/home/course.html>

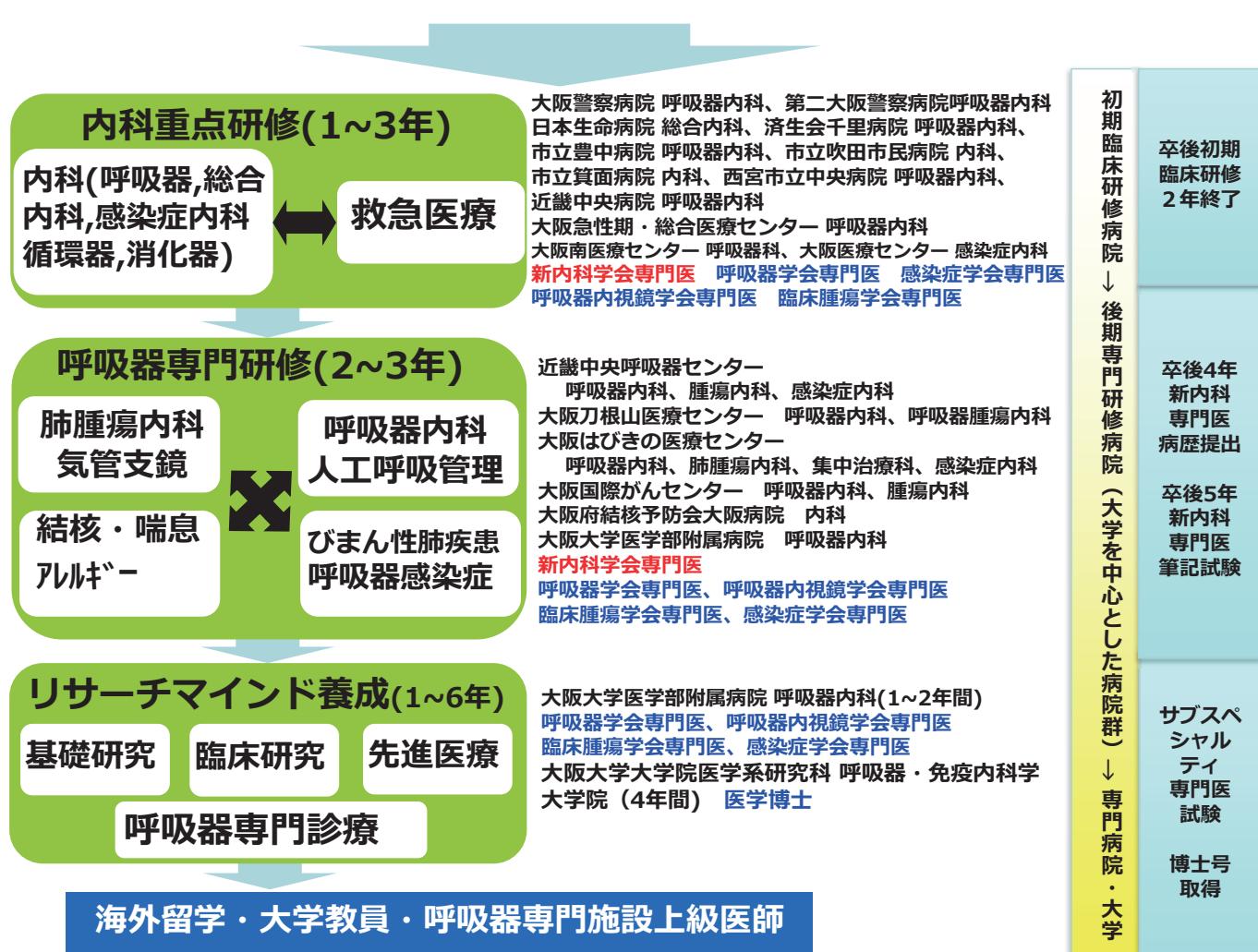


内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／呼吸器内科コース

(1) コースの全体像

本コースは呼吸器専門医、肺がん診療の専門医、気管支鏡専門医を養成することを目指すコースである。内科重点研修では、一般関連病院で内科全般と救急医療をローテートし内科認定医を取得する。呼吸器内科専門研修では、呼吸器専門関連病院において肺腫瘍内科・呼吸器内科・結核内科・アレルギー内科等の専門領域をローテートする。この間に多様な呼吸器疾患の診療を経験し、同時に気管支鏡・人工呼吸管理を習得する。また、阪大呼吸器内科で基礎研究または臨床研究に従事、また先進医療に携わり学位を取得することを目標に含める。その間に呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医の取得を目指す。その後は海外留学もあるが、阪大呼吸器内科教員として研究・教育等に従事するか、呼吸器専門施設の上級医師として臨床研究等に従事することになる。人事交流も活発に行っている。



(2) コースの概要

コース名： 呼吸器内科コース					
医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数
(一般関連病院) 大阪警察病院、第二大阪警察病院、済生会千里病院、市立豊中病院、西宮市立中央病院、学校共済近畿中央病院、大阪急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、国立病院機構大阪南医療センター、日本生命病院、市立吹田市民病院、市立箕面病院	内科 総合内科 呼吸器科 呼吸器内科	内科全般 救急医療	2~3名/ 施設	内科全般と救急医療を研修	1~2名/施設 (変動)
(呼吸器専門関連病院) 国立病院機構刀根山医療センター、国立病院機構近畿中央呼吸器センター、大阪はびきの医療センター、大阪国際がんセンター、大阪府結核予防会大阪病院	呼吸器内科 腫瘍内科 肺腫瘍内科 呼吸器腫瘍感染症内科 内科 アレルギー内科	呼吸器全般 肺癌 呼吸不全 肺結核 気管支喘息	5~10名/ 施設	呼吸器専門診療 肺癌診療 呼吸管理 肺結核診療 喘息診療	1~10名/施設 (変動)
大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫内科学	呼吸器内科	呼吸器全般	5~10名	基礎・臨床研究 先進医療	2名/年
				受入人数	約10名/年

(3) コースの実績

2019年度の本コースへの参加登録実績は、全52名であった。直近数年の新規登録の実績は、2020年が11名、2019年は2名、2018年は4名、2017年5名である。なお、このうち大学院で研究をしている研修医は12名で、関連病院へは大阪急性期・総合医療センター3名、大阪警察病院5名、日本生命病院2名、西宮市立中央病院3名、市立豊中病院2名、大阪はびきの医療センター2名、第二大阪警察病院(旧NTT西日本病院)3名、大阪府結核予防会大阪病院2名、大阪刀根山医療センター、堺市立総合医療センター、八尾徳洲会総合病院でも各1名ずつ勤務・研修を行っている。(2020年参加者以外は、2019年度実績)

(4) コースの指導状況

一般関連病院は救急を含め臨床研修、教育スタッフの充実した総合病院である。呼吸器専門病院群は近畿地方でも屈指の病院であり、肺癌、間質性肺炎、呼吸不全、抗酸菌感染症等に豊富な患者数と医師数を擁し、専門スタッフが高度の診療技術と臨床研究の指導を行っている。また、大阪大学呼吸器内科では、基礎・臨床研究や先進的な診療を行い、これらの施設を循環し優れた呼吸器専門医・研究者の養成を目指す。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本呼吸器学会
資格名	呼吸器専門医
資格要件	会員歴3年以上、および認定内科医を取得した年度より3年間以上、認定施設において臨床研修を終了した者（その他、論文業績等）
【学会の連携等の概要】 2019年4月現在の認定施設	
大阪大学医学部附属病院、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、大阪国際がんセンター、大阪刀根山医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪南医療センター、近畿中央病院、大阪府結核予防会大阪病院、済生会千里病院、市立吹田市民病院、市立豊中病院、西宮市立中央病院、日本生命病院	

学会等名	日本呼吸器内視鏡学会
資格名	気管支鏡専門医
資格要件	会員歴5年以上の者。（その他、論文業績等）
【学会の連携等の概要】 2020年1月現在の認定施設	
大阪大学医学部附属病院、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター、大阪刀根山医療センター、大阪はびきの医療センター、近畿中央呼吸器センター、済生会千里病院、市立吹田市民病院、市立豊中病院	

学会等名	日本臨床腫瘍学会
資格名	がん薬物療法専門医
資格要件	初期研修2年の後、5年以上がん治療の臨床研修を行っていること。 認定研修施設において所定のカリキュラムを修了していること。 呼吸器専門医を有していること。（その他、論文業績等）
【学会の連携等の概要】 2020年4月現在の認定施設	
大阪大学医学部附属病院、大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、大阪国際がんセンター、大阪刀根山医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪南医療センター、近畿中央病院※、市立吹田市民病院、市立豊中病院、西宮市立中央病院※、日本生命病院※、（※=特別連携施設）	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 呼吸器内科

担当者 平田 陽彦

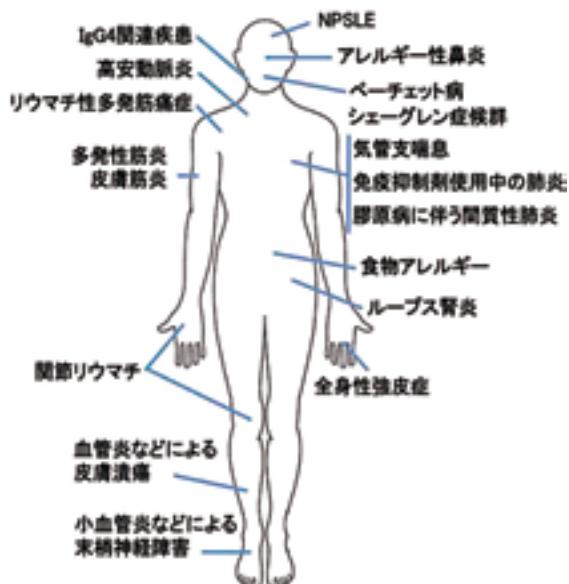
✉ charhirata@imed3.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.imed3.med.osaka-u.ac.jp/training/t-resp01.html>

内科専門研修プログラム

サブスペシャリティ重点コース／免疫内科コース

免疫は疫病を免れるため病原微生物などの有害な非自己を排除する生体防御機構です。「免疫内科」は免疫の仕組みが自己組織を攻撃する「自己免疫疾患」、炎症が不適切に持続する「慢性炎症性疾患」、特定の成分に過剰に反応する「アレルギー疾患」、免疫機能が低下する「免疫不全症」など、免疫が関与するさまざまな疾患を専門に診療する内科です。市中病院や他大学では「リウマチ科」、「膠原病科」、「アレルギー科」などの名称で診療されますが、いずれの疾患も病気の成り立ちに免疫が関与するところから私達は「免疫内科」と標榜して診療しています。



リウマチ性疾患は生涯に女性 8%、男性 5% が罹患し、また、国民の半数以上が何らかのアレルギー疾患に悩むといわれています。こうした免疫疾患によって冒される臓器は肺、血液、腎臓、関節、皮膚、筋肉、神経など多岐にわたり、からだ全体に深く注意を向けます。問診、診察、血液・画像検査、治療経過で「全身を診る」ことを意識し、内科専門医の研修過程では内科医としての基礎的診療能力をしっかりと身につけることが重要です。その後に免疫疾患の専門研修に進みます。

免疫疾患の診療研修は大阪大学医学部附属病院に加えて、大阪府内、兵庫県東部を中心とした教室関連病院で専門性の高い研修が可能です。研修過程で内科専門医、リウマチ専門医、アレルギー専門医を取得し、標準的な免疫疾患の診断治療を他科とも協力しながら一人で行えるようになることを目標とします。基礎免疫学から免疫疾患の病態まで含めた免疫学に明るくなり、免疫関連分子を標的とする生物学的製剤や信号

伝達阻害剤などを用い、リスク評価とともに免疫システム介入に習熟した医師を養成します。免疫学の専門的立場に立脚しながら、様々な疾患や各臓器の障害において広い視野を持つ臨床医を目指します。また、免疫と感染症は表裏一体であり感染症に詳しくなります。免疫疾患は関節痛を伴う事が多く関節の診療にも詳しくなります。他の専門医研修を受けた後、免疫内科専門医コースに移ることも可能です。免疫疾患を含む総合内科的な診療を行う関連病院もあります。

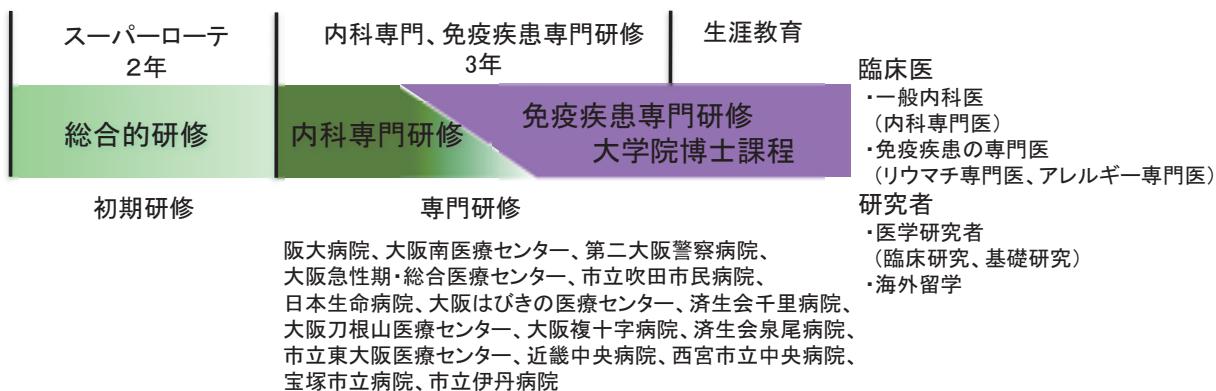
「近代免疫学の父」エドワード・ジェンナーによる天然痘予防の種痘法は日本では大阪の緒方洪庵の適塾に除痘館として引き継がれ、適塾は当時ワクチンセンターの役割を担いました。適塾は日本における近代免疫学発祥の地であり、大阪大学医学部の源流です。20世紀から21世紀にかけて、大阪大学ではサイトカインとその受容体、免疫担当細胞の分化制御機構、微生物に対する初期応答機構、セマフォリンなど新しい免疫制御分子群の発見など、多くの優れた免疫学者が活躍して免疫の仕組みを分子生物学の手法を用いて精力的に解明してきました。大阪大学の免疫学研究は世界の主要研究機関の中ではトップ(Thomson Reuters Essential Science Indicators)の評価を受けています。

こうした免疫学の成果を臨床現場に導入することが臨床教室である大阪大学免疫内科の役割です。例えば、大阪大学の IL-6 研究から生まれた国産初の抗体医薬である抗 IL-6 受容体抗体（トシリズマブ）は当科で臨床導入され、現在は世界中に広まり、関節リウマチや大血管炎などの炎症性疾患を劇的に改善させます。数年間医師として診療に携わると標準的医療では良い結果が得られない状況に出会い、

「先生、なんとか治して下さい」と訴えられることがあるでしょう。なぜこうした病態が生じるのか疑問を持った時に解決する糸口となるのが研究活動です。新しい領域を開拓する研究者に憧れを抱いたことのある方には、是非、研究にも挑戦して下さい。大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫内科科学教室や、基礎医学教室での大学院進学を紹介します。キャリアの中で研究現場と臨床現場を行き来しながら専門性を高めて行くことができます。



(1) 免疫内科専門研修コースの全体像



(2) 免疫疾患の専門研修が可能な病院

コース名： 免疫内科コース				
医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的
大阪大学医学部附属病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	24名	基礎的内科研修 専門的研修 臨床研究、基礎研究
国立病院機構大阪南医療センター	リウマチ・膠原病・アレルギー科	内科総合 免疫疾患	6名	基礎的内科研修 専門的研修 臨床研究
第二大阪警察病院	膠原病・リウマチ科、アレルギーセンター	内科総合 免疫疾患	3名	基礎的内科研修 専門的研修 臨床研究
大阪急性期・総合医療センター	免疫リウマチ科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
日本生命病院	総合内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
公立学校共済近畿中央病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	4名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪はびきの医療センター	アレルギー内科	アレルギー疾患	4名	専門的研修 臨床研究
市立吹田市民病院	呼吸器・リウマチ科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
済生会千里病院	免疫内科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
市立東大阪医療センター	免疫内科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
宝塚市立病院	リウマチ科	内科総合 免疫疾患	1名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪複十字病院 (旧 結核予防会大阪病院)	内科	内科総合 免疫疾患	1名	専門的研修
済生会泉尾病院	内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
大阪刀根山医療センター	呼吸器内科	呼吸器・免疫疾患	1名	専門的研修 臨床研究
西宮市立中央病院	内科	内科総合 免疫疾患	2名	基礎的内科研修 専門的研修
市立伊丹病院	アレルギー疾患リウマチ科	内科総合 免疫疾患	3名	基礎的内科研修 専門的研修

(3) 免疫内科関連病院での実績

大阪大学医学部附属病院を含む免疫内科関連 16 病院全体で免疫疾患の患者を多数経験できます。関連病院全体で通院患者数は関節リウマチ約 4 千人、気管支喘息約 5 千人、全身性エリテマトーデス約 9 百人、全身性強皮症 4 百人、混合性結合組織病約 2 百人、多発性筋炎/皮膚筋炎約 3 百人、シェーグレン症候群約 5 百人にのぼり、大阪圏のみならず近畿地方から免疫疾患患者が集積しています。また、大～小血管炎の各種血管炎、関節リウマチと鑑別を要するリウマチ性多発筋痛症、RS3PE 症候群、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、あるいは再発性多発軟骨炎やキャッスルマン病などの稀少疾患、IgG4 関連疾患、気管支喘息、好酸球增多症など多彩な免疫疾患を経験することが可能で、鑑別方法や治療経験を積んで行くことができます。

(4) 免疫内科関連病院での指導状況

各関連病院にあわせてリウマチ学会の評議員 15 名、指導医 42 名、専門医 69 名を擁し、病院毎に 1 名以上の常勤専門医が指導に当たっています。また、アレルギー学会は指導医 11 名、専門医 17 名を擁し、10 教育認定施設で常勤専門医が指導に当たっています。また、大学と関連施設共同で教育研究交流を目的とした研究会である OID (Osaka Immunological Disease) カンファレンスを年 2 回行い、指導の充実を図っています。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本リウマチ学会
資格名	リウマチ専門医
資格要件	3年以上学会員であること。基本領域学会認定医/専門医であること。専門医研修カリキュラムに従って3年以上の臨床研修を行っている。30単位以上の臨床研修単位。病歴要約10例。専門医試験に合格すること（年1回）。
学会の連携等の概要	15施設が認定教育施設となっている。

学会等名	日本アレルギー学会
資格名	アレルギー専門医
資格要件	5年以上学会員であること。基本領域学会認定医/専門医であること。6年以上の臨床研修歴（専門医研修カリキュラムに従って3年以上はアレルギー専門医教育施設）。40名以上の診療実績（最近5年）。2例の症例報告書。50単位以上の業績（最近5年間、学術大会2回、講習会1回参加）。専門医試験に合格すること（年1回）。
学会の連携等の概要	10施設が認定教育施設となっている。

新専門医制度による専攻医研修が 2022 年 4 月から開始される予定です。研修カリキュラムが変更される可能性があり詳細は新専門医制度をご確認ください。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 免疫内科

担当者 梶崎 雅司

✉ mnarazaki @ imed3.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.imed3.med.osaka-u.ac.jp/training/t-immu01.html>



内科専門研修プログラム

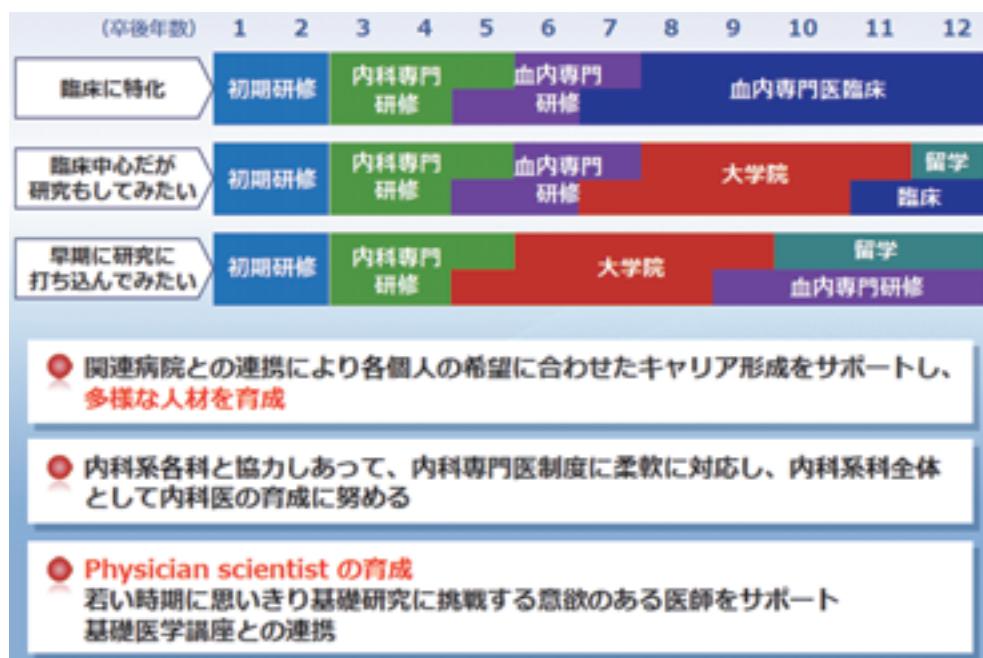
サブスペシャルティ重点コース／血液・腫瘍内科コース

(1) コースの全体像

大阪大学血液・腫瘍内科および大阪大学内科専門研修プログラムに、基幹施設あるいは連携施設として参加している16の関連病院（日本血液学会が認定する研修施設）で研修する。各プラン及び関連病院の選択は希望による。

- ① 血液内科専門医研修プランでは、3年間の内科専門研修の期間に、血液内科の疾患を多症例経験することで、内科専門医を取得したあと、さらに1年の血液内科専門研修を受けると、血液内科専門医試験の受験資格を取得できる（日本血液学会では、学会が認定する研修施設での研修期間3年以上、医師経験年数6年以上必要としている）。大阪大学医学部附属病院を基幹施設としたプログラムを選択する場合は、連携施設として、市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、住友病院、日本生命病院、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センターから選択し研修を受けることが可能である。また、大阪大学医学部附属病院が連携施設として参加している他の基幹施設プログラムとしては、りんくう総合医療センター、八尾市立病院、大手前病院、大阪府立急性期・総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、第二大阪警察病院（旧・NTT西日本大阪病院）、市立吹田市民病院、市立池田病院、箕面市立病院、市立豊中病院、兵庫県立西宮病院、伊丹Tera昆陽、関西労災病院の各内科専門医プログラムの中から選択することが可能である。血液内科では、血液疾患全般の診断・治療を研修し、さらに移植実施施設においては、造血幹細胞移植術について研修する。また、学会や研究会では、積極的に症例発表を行なってもらう。
- ② 大学院早期進学プランでは、大阪大学医学部附属病院を基幹施設としたプログラムを選択してもらい、3年間の内科専門研修の最後の1年間を大阪大学医学部附属病院血液・腫瘍内科で研修する。研修終了後は内科専門医を取得し、翌年からは大阪大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科へ進学し、造血細胞の増殖・分化・腫瘍化・腫瘍免疫の誘導機構、リンパ造血の制御機構、発作性夜間血色素尿症の診断・治療、血小板機能の解析などに関する臨床研究・基礎研究を行い、医学博士号を取得する。博士号取得後に、希望があれば海外留学先も紹介する。

(2) コースの概要



あなたのキャリア形成を全力でサポート！

(3) コースの実績

毎年4～5名程度が本コースを利用し、内科専門医の取得のための内科全般の症例の経験と同時に、血液疾患全般の症例を多数経験できている。なかでも、白血病などの造血器悪性疾患に対する診断及び標準的化学療法の実施、さらに移植実施施設での研修では、造血幹細胞移植等の先進的治療の知識・技術を習得できている。大学院進学者は、造血細胞の増殖・分化・腫瘍化、腫瘍免疫の誘導機構、リンパ造血の制御機構、発作性夜間血色素尿症の診断・治療、血小板機能の解析などの研究に取り組んでいる。

(4) コースの指導状況

各関連病院には大阪大学血液・腫瘍内科出身の日本血液学会による認定指導医が複数名在籍している。大阪大学と関連病院の間で「北摂血液疾患談話会」をはじめとする血液疾患に関する研究会を定期的に（約2ヶ月ごとに）開催している。同会では、研修医ら若手医師による症例発表を中心に検討を行っている。また、大阪大学血液・腫瘍内科を中心として関連病院とともに「HANDAI-Clinical Blood Club(CBC)」という名称の臨床研究グループを立ち上げ、共同で医師主導型臨床研究を行なっている。

(5) 専門医の取得等

資格名	血液専門医（日本血液学会）
資格要件	<p>(1) 日本国科学会認定医である者</p> <p>(2) 卒後6年以上の臨床研修を必要とし、このうち3年以上日本血液学会が認定した研修施設において臨床血液学の研修を行なった者</p> <p>(3) 臨床血液学に関係した内容で、筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者</p>



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科

担当者 植田 康敬

✉ yueda@bldon.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/bldon/>



内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／神経内科・脳卒中科コース

(1) コースの全体像

最初の3～4年間は総合内科専門医と神経内科専門医の取得をめざして内科研修を行いながら頭痛、脳卒中、パーキンソン病といったcommon diseaseから稀な疾患まで、また神経救急から難病の慢性期医療・呼吸などの全身管理、リハビリテーションなど幅広く経験する。プログラムは日本神経学会の卒後研修到達目標に準じ「臨床神経全領域をカバーできる神経内科医の育成」をめざす。さらに、脳卒中、リハビリテーション、臨床神経生理、臨床遺伝など診療に関連した各サブスペシャルティの専門医の取得も視野に入れる。大学での後期専門研修と関連病院群を循環して研修する。適切な時期からサブコースに分かれ、各サブスペシャルティの臨床経験を行う。医療機関、サブコースの選択は研修者の希望に応じるよう配慮する。また、希望に応じて大学院博士課程に入学して基礎・臨床研究を行う。

大阪大学医学部附属病院神経内科・脳卒中科における後期臨床研修



(2) コースの概要

コース名： 神経内科専門医コース

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	神経内科 ・脳卒中 科	神経内科一般、 脳卒中、リハビ リ、てんかん	9名	脳卒中を含む神経疾患の 高度の専門的知識、診断 技術の習得	2～5 名	1年
大阪大学関連病院 大阪急性期総合医療センター 、大阪医療センター、大阪南 医療センター、大阪刀根山医療 センター、JCHO大阪病院、 JCHO星ヶ丘医療センター、多 根総合病院、市立豊中病院、 市立東大阪医療センター、市	神経内科 、総合内 科、 脳血管内 科 脳卒中内 科 高血圧卒 中内科	神経内科一般、 脳卒中、リハビ リ、臨床神経 生理、臨床遺 伝、てんかん	2～ 5名	脳卒中を含む急性期神経 疾患および神経難病など 慢性期神経疾患の治療の実 践、リハビリ・臨床遺伝 の知識・診療技術の習得 、臨床神経生理検査の知 識・施行技術の習得	各1～ 3名	1～2 年

立吹田市民病院堺市立総合医療センター、箕面市立病院、大手前病院、近畿中央病院、関西労災病院、大阪警察病院、大阪労災病院、森之宮病院、岸和田徳洲会病院					
--	--	--	--	--	--

(3) コースの実績

大阪大学神経内科においては研修医一人あたり年間 100 例以上の症例経験が見込まれ、大阪大学関連病院においても同程度あるいはそれ以上の症例経験が見込まれる。いずれも専門医取得に必要な各分野別症例数は充足可能である。

(4) コースの指導状況

大阪大学神経内科には神経疾患各領域の専門家が配置されており、神経内科全般にわたる専門的診断・治療の研修が可能である。その他のほとんどの病院では神経内科あるいは脳卒中専門医が 2 名以上配置されている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本神経学会、日本脳卒中学会、日本リハビリテーション医学会、日本臨床神経生理学会、日本人類遺伝学会、日本てんかん学会、日本認知症学会
資格名	神経内科専門医、脳卒中専門医、リハビリテーション科専門医、臨床神経生理学会認定医、臨床遺伝専門医、てんかん専門医、認知症学会専門医
資格要件	神経内科専門医：臨床研修 6 年、学会会員歴 3 年、教育施設等での研修 3 年、認定内科医必要 脳卒中専門医：学会会員歴 3 年、学会教育病院での研修 3 年、神経内科・内科・リハビリ・老年医学等の専門医必要 リハビリテーション科専門医：臨床経験 5 年、学会会員歴 3 年、研修施設での研修 3 年 臨床神経生理学会認定医：臨床経験 5 年、神経生理検査に 3 年従事、学会会員歴 3 年、認定施設での研修 1 年 臨床遺伝専門医：学会会員歴 3 年、認定施設での研修 3 年、基本領域学会の専門医必要 てんかん専門医：臨床研修 5 年、てんかん学会会員歴 3 年、認定研修施設等での研修 3 年
【学会の連携等の概要】	特に連携はなし

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 神経内科

担当者 奥野 龍禎

 okuno @ neurol.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/neurol/myweb6/Top.html>



内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／老年・総合内科コース

(1) コースの全体像

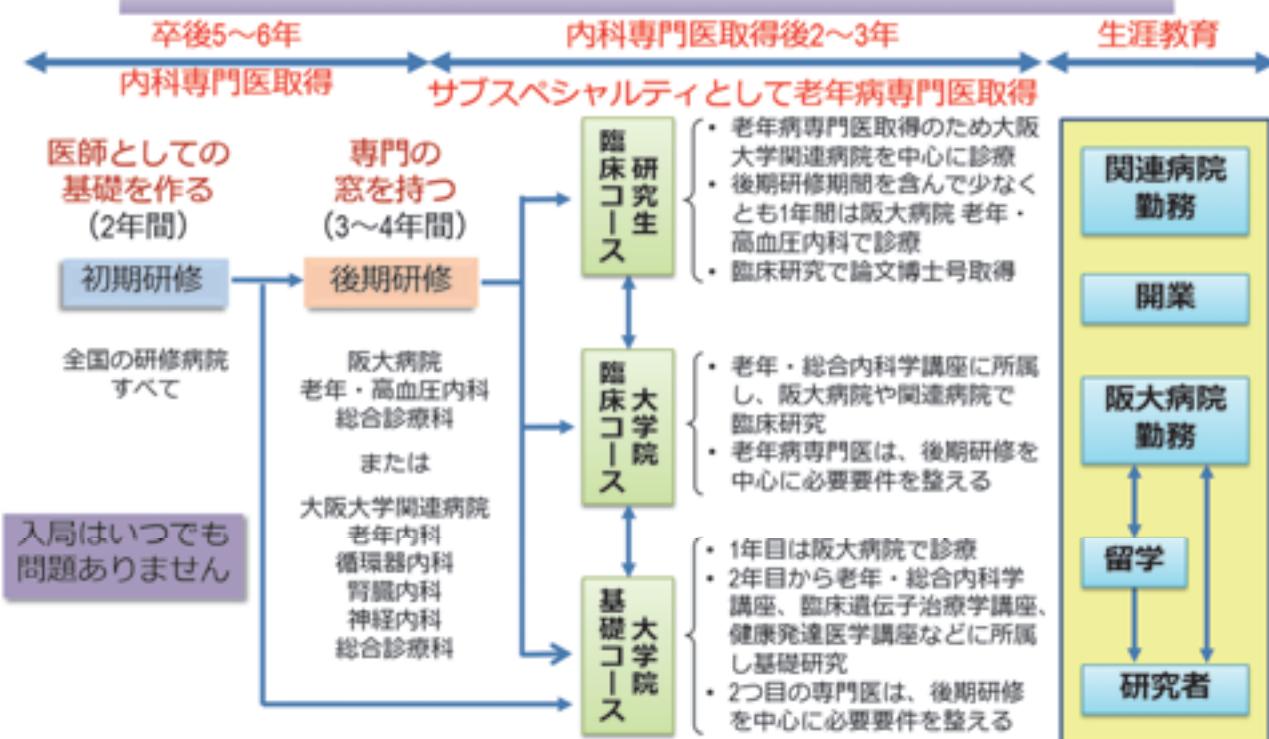
2年間の初期臨床研修の後、卒後3年目より大阪大学医学部附属病院老年・高血圧内科、または大阪大学関連病院にて専門研修（老年内科、腎臓内科、神経内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、総合診療科のいずれか）を行う。内科専門医とサブスペシャルティ専門医を取得すると共に超音波検査（頸部・心臓・腎ドッパーのいずれか1つ以上）を行えるように指導する。サブスペシャルティ研修終了後は①臨床コース（研究生）、②臨床コース（大学院）、③基礎コース（大学院）に大別される。

- ① 臨床コース（研究生） 内科専門医を必須とし、各人が専門研修での専門科についてサブスペシャルティ専門医を取得する。大阪大学関連病院を中心に診療し、臨床研究で論文博士号を取得する。
- ② 臨床コース（大学院） 内科専門医を必須とし、各人が専門研修での専門科についてサブスペシャルティ専門医を取得する。大阪大学医学部附属病院を中心に診療し、博士号を取得する。
- ③ 基礎コース（大学院） 初期研修終了後、卒後3年目は大阪大学医学部附属病院老年・高血圧内科で診療し、その後大学院へ進学する。卒後4年目から老年・総合内科学講座、臨床遺伝子治療学講座、健康発達医学講座等に所属し基礎研究を行う。各講座で基礎研究を行い、博士号を取得する。

専門医機構による新しい専門医制度が始まっているが、「老年・総合内科コース」においても基本領域の内科専門医、総合診療専門医、さらに後述する内科のサブスペシャルティ専門医に対応している。

大学病院が行う研修コースとして常にリサーチマインドを持ちながら、老年病専門医のほか、総合診療専門医、総合内科専門医、高血圧、認知症、抗加齢医学などの専門医を取得し、高齢者に対して医学的・社会的に診察を行うことができるプロのプライマリーケア医を目指す。

老年・総合内科のキャリアパス



専門医：老年病のほか、総合診療、高血圧、認知症、糖尿病、抗加齢医学など

博士号：大学院（社会人大学院を含む）の課程博士、関連病院での臨床研究による論文博士

(2) コースの概要

コース名： 老年・総合内科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
大阪大学医学部附属病院	老年・高血圧内科	老年内科、	10名	老年診療の基礎技術、全身超音波検査技能、高血圧診療全般の知識・技能の取得	7名	3年
大阪大学医学部附属病院	総合診療科	総合内科				
市立吹田市民病院	神経内科	神経内科	1名	神経変性疾患・脳血管障害全般の高度医療の取得	1名	1~3年
堺市立総合医療センター	腎代謝免疫内科	糖尿病内科	2名	内分泌・代謝疾患全般の高度医療の取得	1名	3年
市立伊丹病院	老年内科	老年内科	2名	老年診療の基礎技術、高齢者の救急診療、高血圧診療全般の知識・技能の取得	1名	1~3年
市立東大阪医療センター	内科・循環器内科・総合内科	糖尿内科循環器内科 総合診療	4名	内分泌・代謝疾患全般の高度医療の取得 循環器疾患全般の高度医療の取得	1名	3年
住友病院	腎臓・高血圧内科	腎臓内科	2名	腎障害・腎不全の診断・治療、透析管理、高血圧診療全般の知識・技能の取得	1名	3年
桜橋渡辺病院	循環器内科	循環器内科	2名	循環器疾患全般の高度医療の取得、特にカテーテルインターベンション技術の取得	1名	3年
阪和第一泉北病院	内科	老年内科	2名	老年診療の応用、PEG・末期医療の管理、介護・福祉の実際	3名	1~3年
阪和第二泉北病院	内科	老年内科	3名	老年診療の応用、PEG・末期医療の管理、介護・福祉との連携知識の取得	3名	1~3年
大阪急性期・総合医療センター	総合内科	総合診療	1名	救急・総合内科・感染症内科	1名	2~3年
八尾德州会総合病院	総合内科	総合診療	1名	救急・総合内科・外傷処置	2名	2~3年
市立池田病院	総合内科	総合診療	1名	救急・総合内科	1名	2~3年
国立長寿医療研究センター	老年内科 神経	老年内科 神経	10名以上	老年内科全般	若干名	1~3年

※養成(受入)人数、期間については、適宜調整可能

(3) コースの実績

専門医研修では3年程度の老年病の専門研修、サブスペシャルティの専門研修を受けられる。また、高いプレゼンテーション能力を身に付けるべく、複数回の全国総会での学会発表を指導している。高齢者の総合内科として、CGA(高齢者総合機能評価)、認知症、フレイル・サルコペニア、老年循環、老年代謝、高齢者遺伝子解析、後方支援など、多方面にわたり、臨床・研究を指導。また、総合診療的研究として、統計学的手法を用いた疫学的研究の支援を行っている。子育てを行う女性には柔軟に対応し、博士号や認定医を取得してもらっている。

(4) コースの指導状況

大阪大学医学部附属病院では、臓器にとらわれない豊富な疾患群と年間1000件以上の超音波検査を指導医と共に担当する。学会発表については一連の流れを指導医のもとで経験し、複数回の発表を行う。また、市中病院や他大学の総合内科との合同カンファレンスや他講座との抄読会などに自由に参加でき、総合内科として診療科を超えた勉強会を行っている。また関連病院では、循環器内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、神経内科などのスペシャリストとして、あるいは総合診療科のようなジェネラリストとしての研修を選択することが可能であり、各種専門医資格の必要要件を整える。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本内科学会
資格名	内科専門医
資格要件	教育プログラムに則った研修3年以上
【学会の連携等の概要】	
大阪大学は内科学会認定教育施設であり、老年内科という分野は様々な臓器に疾患を持った患者群を扱うことから症例が豊富である。	

学会等名	日本老年医学会
資格名	老年病専門医
資格要件	専門医機構の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	
大阪大学および関連施設は日本老年病医学会認定教育施設である。	

学会等名	日本高血圧学会
資格名	高血圧専門医
資格要件	学会の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	
大阪大学および関連施設は日本老年病医学会認定教育施設であり、二次性高血圧など多彩な症例が豊富である。	

学会等名	日本認知症学会
資格名	認知症専門医
資格要件	学会の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	
大阪大学は日本認知症学会認定教育関連施設である。	

学会等名	日本循環器病学会
資格名	循環器専門医
資格要件	専門医機構の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	
大阪大学は日本循環器学会認定教育認定施設である。	

学会等名	日本腎臓学会
資格名	腎臓専門医
資格要件	専門医機構の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	住友病院は日本腎臓学会認定教育施設である。

学会等名	日本透析医学会
資格名	透析専門医
資格要件	学会の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	住友病院は日本透析医学会認定教育施設である。

学会等名	日本糖尿病学会
資格名	糖尿病専門医
資格要件	専門医機構の認定するサブスペシャルティプログラムの研修
【学会の連携等の概要】	大阪大学、市立東大阪医療センター、堺市立総合医療センターは日本糖尿病学会認定教育施設である。

学会等名	日本病院総合診療医学会
資格名	日本病院総合診療医学会認定医
資格要件	学会の認定するカリキュラムの研修
【学会の連携等の概要】	大阪大学は日本病院総合診療医学会認定教育施設である。



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 老年・高血圧内科

担当者 鷹見 洋一

✉ rounen-admin @ geriat.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/geriat/www/jreci.html>



(1) 新専門医制度

大阪大学では、平成30年度より外科専門医を取得することを目的とする外科専門研修プログラムを実施しています。本プログラムでは、大阪大学附属病院を基幹施設として外科学講座の関連67施設と連携しています。本プログラムでは、400人以上の専門研修指導医および年間40000件以上のNCD症例（外科系医療の現状を把握するため、日本外科学会を基盤とする外科系諸学会が協力して作成するデータベース「National Clinical Database」）を有するハイ・ボリュームかつ多様性に富んだプログラムであり、サブスペシャルティ専門分野、手術技術、研究活動などで各個人が描く将来像を実現できる修練の機会を提供しています。基本的には、できるだけ希望に応じてフレキシブルに研修施設を決定していますが、症例経験に偏りがないよう基幹病院を軸としてグループ内施設間をローテーションし、様々な領域の症例を効率よく経験できるように対応しています。希望の外科専門領域（サブスペシャルティ）に合わせて、大学や連携施設での修練を計画することも可能です。

本プログラムで修練を行う医師は、日本外科学会の専門医研修プログラムへの登録を行い、外科専門研修を開始することが必須です。

またこの外科共通コースは、サブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）、またはそれに準じた外科関連領域の専門医取得へと連動しています。

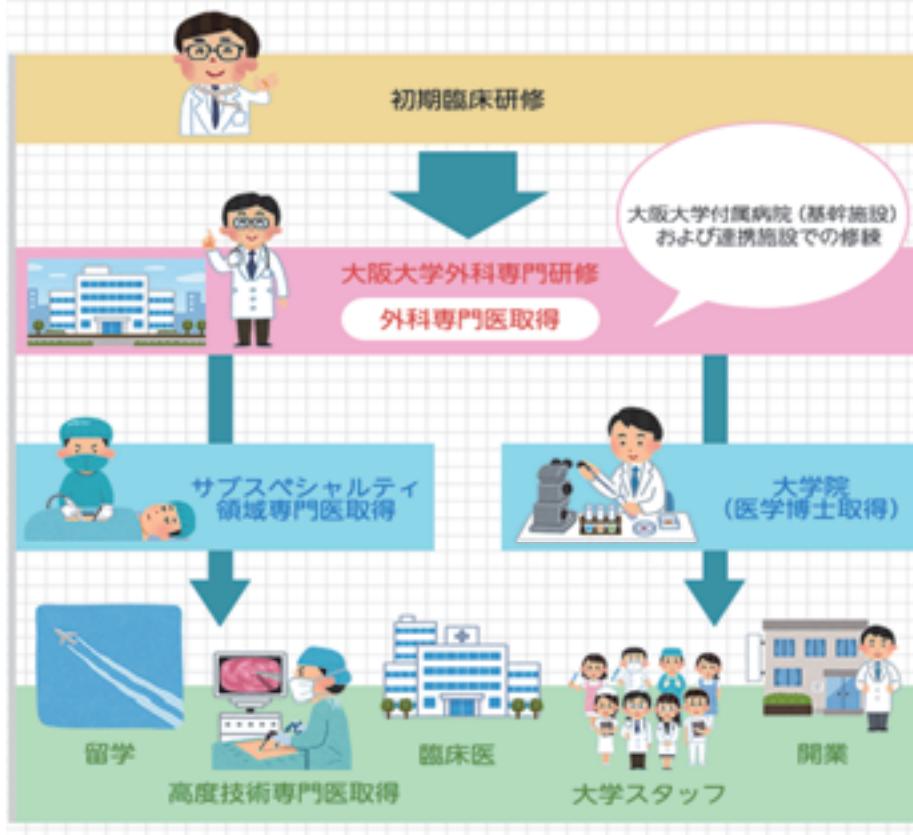
(2) 外科共通コースの全体像

外科専門医を取得するために、初期臨床研修終了後、上記の外科専門研修プログラムへ登録を行います。この登録後に、後期研修（外科専門研修）が開始となります。この外科共通コースは原則1~2年間ですが、この期間に専門医に必須のサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科）および外傷などの外科

関連領域の研修を経験でき、それぞれの領域の専門医（サブスペシャルティ）取得コースへの連動も可能です。サブスペシャルティとして心臓血管外科専門医コース、呼吸器外科専門医コース、消化器専門医コース、乳腺専門医コース、小児専門医コースがあります。外科共通コース開始後に速やかに外科系の各サブスペシャルティコースを選択することで、外科専門医に引き続き、サブスペシャルティ領域の専門医の取得が可能となっています。

なお、救急医志望などの準外科関連領域をめざす専攻医は、予定していた領域などへ戻り準外科関連領域の研修を継続することになります。

大阪大学外科学講座キャリアプラン



(3) コースの概要

コース名： 外科共通コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
外科学講座連携施設	外科	外科	総数472名 (各施設3 ～16名)	一般・消化器外 科の基礎的な研 修、ならびに 外科専門医取得 に必要な各分野 の手術症例の経 験	総数最大 70名/年	1～2年
りんくう総合医療センター						
市立豊中病院						
大阪急性期・総合医療センター						
JCHO 大阪病院						
堺市立総合医療センター						
大阪医療センター						
大阪警察病院						
大阪国際がんセンター						
大手前病院						
紀南病院						
関西労災病院						
大阪労災病院						
河内総合病院						
桜橋渡辺病院						
東宝塚さとう病院						
近畿大学奈良病院						
市立東大阪医療センター						
近畿中央病院						
市立吹田市民病院						
八尾市立病院						
西宮市立中央病院						
箕面市立病院						
愛染橋病院						
第二大阪警察病院						
済生会千里病院						
済生会富田林病院						
市立貝塚病院						
市立川西病院						
市立池田病院						
日本生命病院						
医誠会病院						
加納総合病院						
兵庫県立西宮病院						
彩都友紘会病院						
阪南中央病院						
阪和住吉総合病院						
市立芦屋病院						
市立伊丹病院						
守口敬仁会病院						
清恵会病院						
川崎病院						
多根総合病院						
JCHO 大阪みなと中央病院						
大阪中央病院						
豊中敬仁会病院						
大阪市立総合医療センター						
八尾徳洲会総合病院						
大阪母子医療センター						
森ノ宮病院						

福井循環器病院 国立循環器病センター 心臓病センター榎原病院 吹田徳洲会病院 大阪南医療センター 尼崎中央病院 名古屋徳洲会病院 近畿中央呼吸器センター JCHO 星ヶ丘医療センター 大阪刀根山医療センター 大阪はびきの医療センター 宝塚市立病院 福山医療センター ベルランド総合病院 隈病院 かりゆし会 ハートライフ病院 耳原総合病院 大阪ブレストクリニック					
			外科共通コース 受入人数	20名	

(4) コースの実績

大阪大学医学部附属病院および外科学講座関連施設は外科学会認定施設であり、大阪大学を基幹施設として連携することで、効率よく外科研修を行うことができ、下記の専門医取得に必要な症例数の手術経験が可能です。また、教育行事の開催、研究発表および学会の研修行事などへの参加も積極的に行われています。2ないし3年目以降は、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科のいずれかのコースに進み、外科専門医に引き続きそれぞれの外科のサブスペシャルティ領域の専門医取得のための研修を行います。

(5) コースの指導状況

各施設とも複数の外科・各外科系科サブスペシャルティの専門医・指導医が配置されており、大阪大学外科学講座と緊密に連携して、研修状況の調整が必要に応じて行われます。

(6) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	<ul style="list-style-type: none"> 修練開始登録後満3年以上経た段階で、筆記試験を受験する。 従来日本外科学会が面接試験で行っていた専攻医の医師としての適性や人格の評価を、プログラム統括責任者の責務とし、筆記試験のみが行われる。 <p>1) 診療経験</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 350例以上の手術手技を経験 (NCDに登録されていることが必須)。 (2) (1)のうち術者として120例以上の経験 (NCDに登録されていることが必須)。 (3) 各領域の手術手技または経験の最低症例数。 <ul style="list-style-type: none"> ①消化管および腹部内臓 (50例) ②乳腺 (10例) ③呼吸器 (10例) ④心臓・大血管 (10例) ⑤末梢血管 (頭蓋内血管を除く) (10例) ⑥頭頸部 ・体表・内分泌外科 (皮膚, 軟部組織, 顔面, 唾液腺, 甲状腺, 上皮小体, 性腺, 副腎など) (10例) ⑦小児外科 (10例) ⑧外傷の修練 (10点) *

	<p>⑨ 上記①～⑦の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10例）</p> <p>注1. 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができる（ただし、加算症例は100例を上限とする）。</p> <p>注2. 術者として独立して実施できる一定数は設定しない。</p> <p>注3. *体幹（胸腹部）臓器損傷手術3点（術者）、2点（助手）</p> <p>上記以外の外傷手術（NCDの既定に準拠）1点・重症外傷（ISS 16以上）初療参加1点・日本外科学会外傷講習会受講1点・外傷初期診療研修コース受講4点・e-learning受講2点・ATOMコース受講4点・外傷外科手術指南塾受講（日本Acute Care Surgery学会主催講習会）3点・日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講（分野V（外科治療）-C. Trauma surgery）1点</p> <p>2) 業績</p> <p>所定の学術集会または学術刊行物に、筆頭者としての研究発表または論文発表を所定単位。</p>
<p>【学会の連携等の概要】</p> <p>外科専門医は心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科および小児外科などの関連外科（サブスペシャルティ）専門医を取得する際に必要な基盤となる共通の資格であり、広告することができる医師の専門性に関する資格の一つとして、厚生労働省に認可されている。</p>	

サブスペシャルティ領域の

心臓血管外科専門医

呼吸器外科専門医

消化器外科専門医

乳腺専門医

小児外科専門医

に関しては、それぞれのコースを参照すること。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 外科学講座

担当者 野田 剛広

✉ tnoda@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

担当者 植村 守

✉ muemura@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.surg.med.osaka-u.ac.jp/>



外科専門研修プログラム

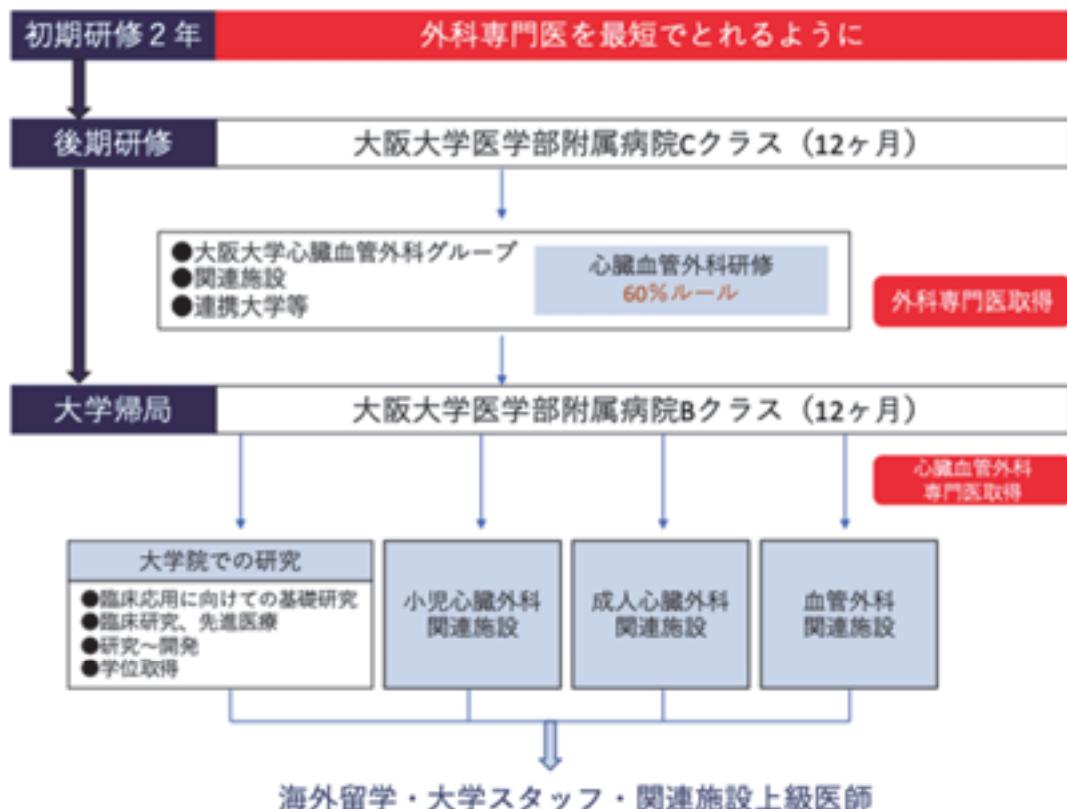
サブスペシャルティ重点コース／心臓血管外科専門医コース

(1) コースの全体像

本コースは大阪大学医学部附属病院心臓血管外科を基幹施設とし、大阪大学心臓血管外科関連施設群や連携大学（合計32施設）とのローテーションにて総合的教育を行う心臓血管外科研修プログラムのコースであり、外科基本手技に加えて、心臓血管外科4領域（成人心疾患・胸部大血管疾患、先天性心疾患、腹部・末梢血管疾患、血管内治療）に関する専門的診療技術を習得する予定である。また本コースは大阪大学外科専門医プログラムと連動しているため、本コース参加者は新専門医制度下での外科専門医取得に必要な臨床経験・学術活動などの諸要件を十分に満たし、外科専門医の取得が可能である。大阪大学心臓血管外科研修コースには心臓血管外科としての専門知識の取得、専門技能の修練、学問的姿勢および医師としての倫理性・社会性の習得が組み込まれており、卒後5-6年で心臓血管外科専門医取得への到達目標に至る予定となっている。コース参加者は、初期臨床研修を履修したのち心臓血管外科専門研修に移行する。まず基幹施設となる大阪大学医学部附属病院心臓血管外科で1年的心臓血管外科基礎研修を受けるが、その際に成人心疾患・先天性心疾患・大動脈疾患・末梢血管疾患の各専門グループをローテーションすることで、心臓血管外科全領域を経験する。また、外科的手技に加えて各種カテーテルを用いた血管内治療についても研修を行う。その後、心臓血管専門医研修では本人の希望および臨床経験を加味した上で選定された原則2施設の大連大学関連施設へのローテーションを行い、実践的な診療経験を積む。また、心臓血管専門医研修には大阪大学医学部附属病院での研修も含まれ、高度で専門的・先進的な手技を研修する。

心臓血管外科専門研修を終了後は、大阪大学大学院医学系研究科博士課程に入学し、心臓血管外科関連の基礎・臨床研究を行い、学位を取得することでアカデミックサーチャンの基盤を確立する。その後、小児心臓外科、成人心臓血管外科、血管外科を専門とする関連病院を循環し、さらに専門的な手術経験を積む。海外留学は原則的に心臓血管外科専門研修を終了後となるが、個人の希望や状況に応じて積極的に支援している。

大阪大学心臓血管外科研修プログラム



(2) コースの概要

コース名：心臓血管外科専門医コース（心臓血管外科基礎研修）					
医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	目的	期間
大阪大学医学部附属病院	心臓血管外科	18名	10名	心臓血管外科基礎研修 (心臓外科4分野)	12ヶ月

医療機関名	診療科名	指導 医数	受入 人数	研修内容			
				成人心疾 患・大動 脈疾患	先天性 心疾患	末梢血 管疾患	血管内 治療
国立循環器病センター	心臓外科	8	3	○			○
	小児心臓外科	4	3		○		
大阪医療センター	心臓血管外科	3	2	○		○	○
JCHO 大阪南医療センター	心臓血管外科	1	1	○		○	○
大阪母子医療センター	小児心臓外科	4	3		○		
大阪急性期・総合医療センター	心臓血管外科	4	3	○		○	○
大阪市立総合医療センター	小児心臓外科	3	3		○		
堺市立総合医療センター	心臓血管外科	2	3	○		○	○
市立東大阪医療センター	心臓血管外科	2	3	○		○	○
りんくう総合医療センター	心臓血管外科	2	3	○		○	○
市立豊中病院	心臓血管外科	2	2			○	○
JCHO 大阪病院	心臓血管外科	2	2	○		○	○
大手前病院	心臓血管外科	2	1	○		○	
大阪労災病院	心臓血管外科	3	2	○		○	○
関西ろうさい病院	心臓血管外科	3	2	○		○	○
紀南病院	心臓血管外科	3	2	○		○	○
大阪警察病院	心臓血管外科	4	3	○		○	○
桜橋渡辺病院	心臓血管外科	3	3	○		○	○
東宝塚さとう病院	心臓血管外科	3	3	○		○	○
心臓病センター・神原病院	心臓血管外科	8	4	○		○	○
福井循環器病院	心臓血管外科	5	4	○	○	○	○
名古屋徳洲会病院	心臓血管外科	5	3	○		○	○
吹田徳洲会病院	心臓血管外科	5	2	○		○	○
日本生命病院	心臓血管外科	1	1			○	○
河内総合病院	心臓血管外科	1	1	○		○	
尼崎中央病院	心臓血管外科	1	1			○	

コース名：心臓血管外科専門医コース（連携大学）					
大学病院名	診療科名	研修内容			
		成人心疾患・ 大動脈疾患	先天性 心疾患	末梢血管 疾患	血管内治療
愛媛大学	心臓血管外科	○	○	○	○
千葉大学	心臓血管外科	○		○	○
鳥取大学	心臓血管外科	○		○	○
国際医療福祉大学	心臓血管外科	○		○	○
獨協医科大学	心臓血管外科	○		○	○
兵庫医科大学	心臓血管外科	○		○	○
徳島大学	心臓血管外科	○	○	○	○

（3）コースの実績

基幹施設となる大阪大学医学部附属病院心臓血管外科は成人および小児心臓外科、血管外科疾患の幅広い領域にわたり診療を行っており、年間手術症例 1000 例以上、うち心臓および胸部大動脈手術等のいわゆる Major Cardiac Surgery は 700 例以上となり、国内でも屈指の心臓外科手術数を施行している。関連病院は全国 36 施設あり、合計で開心術年間 6000 例以上を行っており、専門医育成のために充分な経験を提供しうる。

（4）コースの指導状況

各関連施設の指導者はいずれも専門医、指導医の資格を持ったエキスパートである。コース全体としても、専門研修者を対象とする講演、症例検討、ウェットラボ等の教育指導を定期的に行っている。各個人の修練進行状態は各年度末に集計され、充分な経験がなされているか検討し、その後の進路設定にフィードバックさせている。

（5）専門医の取得等

学会等名	1)日本外科学会、 2)日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会
資格名	1)外科専門医、 2)心臓血管外科専門医
資格要件	1) 研修開始登録後5年以上の修練、350例(うち術者として120例)の手術修練実績、各専門分野の必須症例数以上の修練実績、研究または論文発表の業績、筆記および面接試験の合格。 2) 認定修練施設における3年以上の修練、術者として50例の執刀を含む500点以上の臨床経験評価点数、研究および論文発表の業績、筆記試験の合格。
【学会の連携等の概要】	
心臓血管外科専門医に関しては、上記三学会の合議により運営される専門医認定機構により、上記資格の厳正な審査が行われ、適格者が専門医として認定される。	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 心臓血管外科

担当者 平 将生

✉ taira @ surg1.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/surg1/>



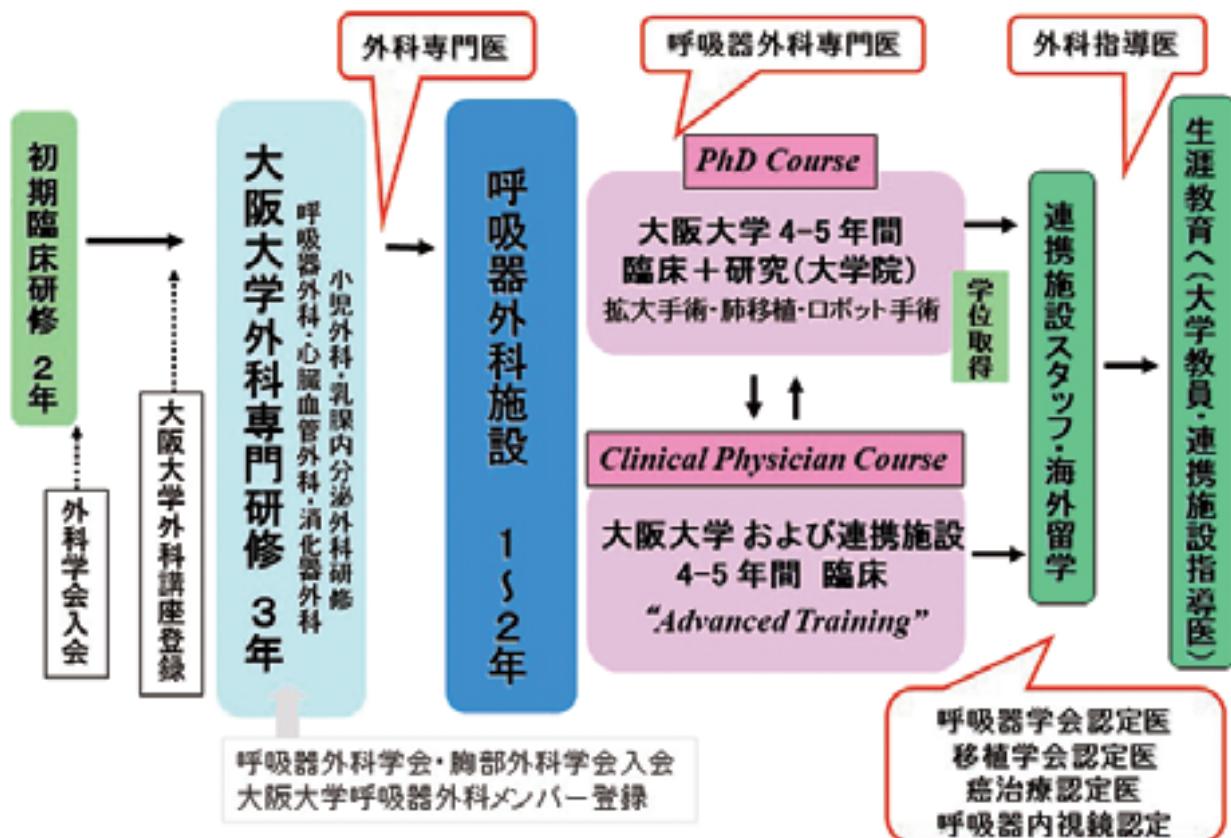
外科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／呼吸器外科専門医コース

(1) コースの全体像

初期臨床研修終了後、大阪大学を基幹施設とした大阪大学外科専門研修プログラムへ登録し、外科専門研修を開始する（外科共通コース参照）。専門研修プログラムでは卒業後5年で外科専門医を取得することを目標としており、主に一般消化器外科研修を行うが、外科専門医取得に必要な症例集積の達成度をみながら、希望により呼吸器外科研修を早期に開始することも可能である（下記の図を参照）。外科専門医取得後は Subspecialty として呼吸器専門医の取得を目指す。呼吸器専門医認定修練施設である大阪大学または連携基幹施設において2～3年間の呼吸器外科研修を行い、呼吸器専門医を取得する。また、大学院進学を希望するものについては、大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科学講座に所属し3～4年間の基礎研究を行い医学博士取得を目指す。留学希望者に対しては大学医局より海外施設を紹介する。その後、指導医として大学や基幹連携病院で勤務しつつ、後進の指導と国内外の呼吸器外科学をリードする人材を養成する。

大阪大学呼吸器専門医コースの概要



(2) コースの概要

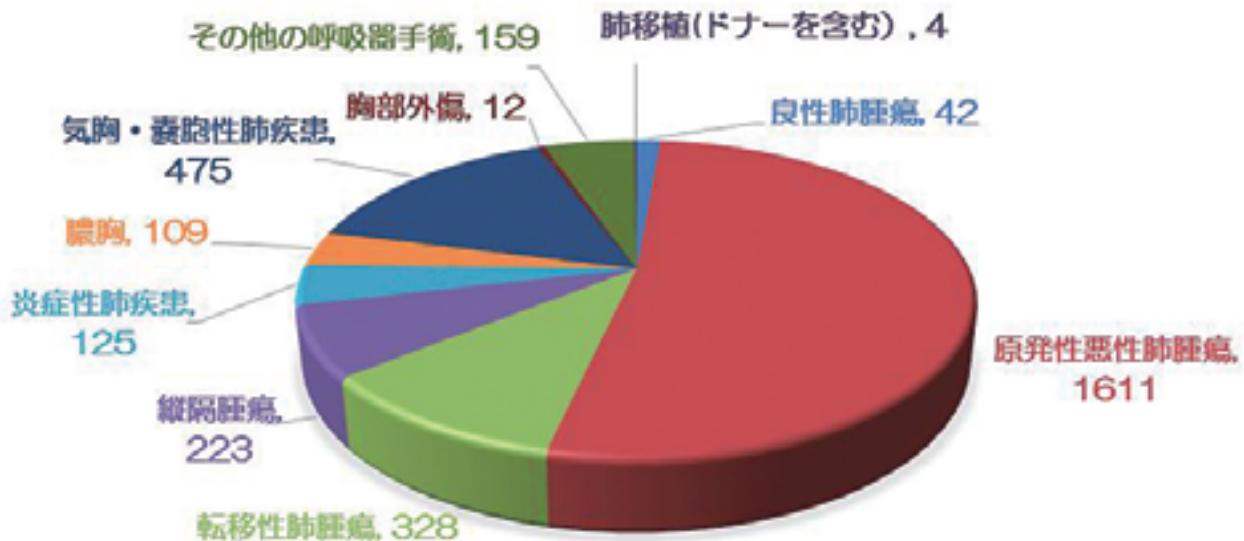
コース名： 呼吸器外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学外科連携病院	外科	一般消化器外科手術	3-5 人	一般消化器外科手技・周術期管理の習得、外科専門医の取得	各施設 2名	1-2 年
大阪大学医学部附属病院	呼吸器外科	肺縦隔疾患手術、肺移植	5 人	呼吸器外科先端医療の研修、呼吸器外科専門医・指導医の養成、臨床およびトランスレーショナル研究	8 人	2-4 年
大阪大学呼吸器外科連携施設 近畿大学医学部奈良病院、市立吹田市民病院、JCHO 大阪病院、市立豊中病院、りんくう総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、箕面市立病院、大阪警察病院、八尾市立病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センター、公立学校共済組合近畿中央病院、市立東大阪医療センター、大阪はびきの医療センター、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、西宮市立中央病院、大阪急性期・総合医療センター、宝塚市立病院、KKR 大手前病院、JCHO 星ヶ丘医療センター、国立病院機構大阪刀根山医療センター、徳洲会吹田病院、日本生命済生会日本生命病院、市立池田病院、守口敬仁会病院、大阪労災病院	呼吸器外科	肺癌・炎症性肺疾患手術、低侵襲胸腔鏡手術	1-3 人	一般呼吸器外科手術の研修、呼吸器手術周術期管理の習得、呼吸器外科専門医・指導医の養成	総数 15 名 (各施設 1~2 名)	2 年

(3) コースの実績

一般消化器外科を含めた3年間の外科研修により外科専門医取得に必要な120例の術者を含む350例以上の手術経験が可能である。また、呼吸器外科専門施設では年間3500例程度の全身麻酔手術があり、修練では年間100例以上の肺悪性腫瘍や気胸を中心とした手術を経験する。呼吸器外科手術の基本である開胸手術から、低侵襲手術の基本である完全鏡視下手術まで幅広く経験できるように修練プログラムを作成している。さらに、大阪大学では、進行肺癌に対する拡大切除、縦隔疾患手術、肺・心肺移植やロボット支援手術などの先進医療も経験する。また、医局主催の手術手技研究会や講習会に積極的に参加することで、系統的に手術手技を習得する。大阪大学附属病院では呼吸器内科と共に病棟とする呼

吸器センターを開設しており、呼吸訓練専属のリハビリチームも常駐している。毎週開かれるカンファレンスでは外科、内科のみならず放射線科、放射線治療科も参加し、治療方針を議論、検討することでシームレスかつ機動性に富んだ呼吸器診療も経験できる。

2020年大阪大学連携施設全体の手術数 (治療的手術 3101 例)



大学院進学希望者は呼吸器外科内の研究グループのみならず大学内の他の基礎医学教室と連携することで外科学、腫瘍学、免疫学、病理学、遺伝学などの幅広い研究分野を専攻することができる。

(4) コースの指導状況

外科の基礎となる一般消化器外科研修では外科学会指導医より基本外科手技から良性疾患手術、胃・大腸などの悪性疾患手術や低侵襲手術として腹腔鏡下手術の技術指導を受ける。外科専門医取得後は大阪大学呼吸器外科または大阪大学呼吸器外科連携施設において、まず気胸などの囊胞性肺疾患、良性肺・縦隔腫瘍、肺癌に対する定型的肺葉切除を経験する。さらに、完全鏡視下肺癌手術、完全鏡視下縦隔腫瘍手術のみならず最新の単孔式胸腔鏡手術などの低侵襲手術、難易度の高い炎症性肺疾患に対する根治手術、大血管など周囲臓器合併切除や気管支形成術など拡大手術、移植手術やロボット支援手術といった幅広い技術指導を受ける。

研修の一つとして模擬臓器や摘出臓器を用いたトレーニングも行っており、ベーシックコース、アドバンストコースとレベルアップをはかっていく。また胸腔鏡のトレーニングも行っている。



ベーシックコース講義風景



心肺ブロックを用いての手技練習

(5) 専門医の取得等

学会等名	① 日本外科学会 ② 日本呼吸器外科学会、日本胸部外科学会 ③ 日本がん治療認定医機構
資格名	① 外科専門医 ② 呼吸器外科専門医 ③ がん治療認定医
資格要件	① 5年以上の修練、350例の手術経験（うち120例は術者）、各専門分野の必須症例数以上の修練実績、研究・論文発表、筆記・面接試験 ② 術者として50例、助手として100例の経験、論文発表3回、学会発表5回、日本呼吸器外科学会総会または日本胸部外科学会学術集会への5回以上の参加、卒後7年以上、外科専門医であること、筆記試験 ③ 基本領域学会（日本外科学会など）の専門医資格を有し、認定研修施設において2年以上の研修、筆記試験
【学会の連携等の概要】	

日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会の連携により呼吸器外科専門医を認定する。呼吸器外科専門医合同委員会による基幹修練施設・関連修練施設において呼吸器外科研修を行い、専門医を取得する。

※専門医制度の変更などで資格要件が変更される場合がある



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 呼吸器外科

担当者 大瀬 尚子

✉ naokoose@thoracic.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.thoracic.med.osaka-u.ac.jp/jp/resident/index.html>



外科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／消化器外科専門医コース

a : 大学院コース b : 一般臨床コース

(1) コースの全体像

2年間の初期研修終了後、卒後3年目～5年目の3年間を大阪大学外科専門研修プログラムに参加し、大阪大学消化器外科関連施設で2年間外科に関する基礎的な知識、技術を習得する。そして、残り1年間を大学病院で消化器外科に関する専門的な知識、技術を習得する。

その後は a : 大学院コース, b : 一般臨床コースに分かれます。

- a: 大学院コース 大学院博士課程に入学し、3年間消化器外科に関する研究を行い、1年早く早期卒業する形で博士号を取得する。3年間で博士号を取得できなかった場合には、大学院4年次の1年間を関連施設や大学病院で勤務しながら、博士号を取得し、大学院博士課程を卒業する。
- b: 一般臨床コース 大学院博士課程には入学せず、大阪大学外科専門研修プログラム終了後は外科スタッフとして勤務する。

大学病院研修では、消化器外科の高度で専門的な分野（移植、拡大手術、先進的治療など）を研修する。

関連施設研修では、一般外科研修、消化器癌専門研修、内視鏡外科専門研修担当施設を希望に応じてローテーションする。

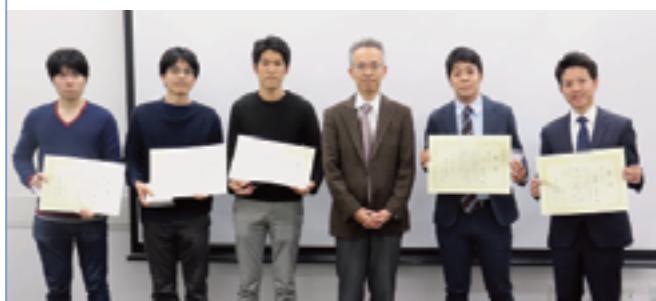
- ▶一般外科研修担当施設では消化器外科全般のより実践的な臨床に関する知識、技術を、
 - ▶消化器癌専門研修担当施設では消化器癌に特化した、より高度で専門的な知識、技術を、
 - ▶内視鏡外科専門研修担当施設では内視鏡下手術を重点的に研修し、高度で専門的な知識・技術を、
- 習得する。

専門医に関しては、原則大阪大学外科専門研修プログラムへの参加により取得する予定である。現時点では卒後8年目で認定試験を受験し、消化器外科専門医を取得することを目標とするが、この点も今後の専門医制度の改正に従い変更となる。また、希望に応じて、がん治療認定医、内視鏡外科技術認定医などの取得も目標とする。

専門医、博士号取得後は、海外留学、大学病院の教員としてアカデミックサークルを目指す、あるいは、関連施設にて第一線の外科医として勤務し、指導者を目指す。

(コース図は次頁参照)

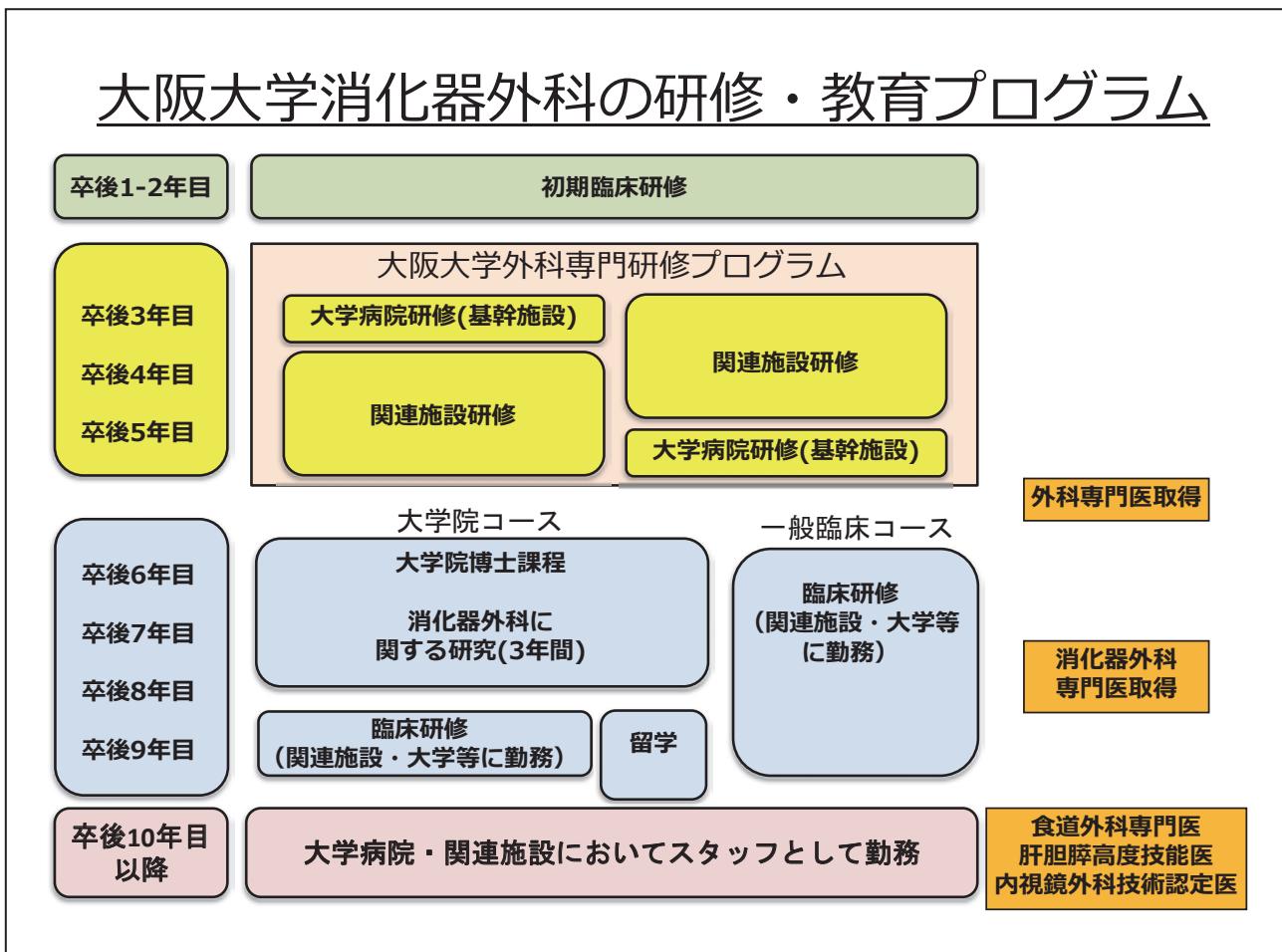
専門医を目指す消化器外科セミナー



真皮縫合コンテスト



消化器外科専門医コース図



(2) コースの概要

コース名： 消化器外科専門医コース (a : 大学院コース (a-1;大学病院コース、 a-2;社会人大学院コース))					
医療機関名	診療科名	指導 医数	受入 人数	大学病院研修	大学院博士課程
				消化器外科の高度専門的知識 ・技術の習得、外科・消化器 外科専門医取得に必要な経験 症例の経験	
大阪大学消化器外科	消化器外科	23名	30名	15名	30名

コース名： 消化器外科専門医コース

(a : 大学院コース (a-1;大学病院コース、a-2;社会人大学院コース) 、 b : 一般臨床コース)

医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	関連施設研修		
				一般外科研修	消化器癌専門研修	内視鏡外科専門研修
				一般外科の基礎的な研修ならびに外科・消化器外科専門医に必要な各分野の手術症例の経験	消化器外科、特に消化器癌治療における高度専門的知識・技術の習得、外科・消化器外科専門医取得に必要な経験症例数・学術活動の獲得	消化器外科、特に内視鏡下手術における高度専門的知識・技術の習得、外科・消化器外科専門医、内視鏡外科技術認定医取得に必要な経験症例数・学術活動の獲得
大阪警察病院	外科	13名	9名	○	○	○
地域医療機能推進機構 大阪病院		6名	9名	○	○	○
地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院		5名	3名	○	○	○
地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター		4名	3名	○	○	○
大阪中央病院		5名	3名	○		○
大阪労災病院		7名	9名	○	○	○
大手前病院		5名	3名	○	○	○
川崎病院		5名	3名	○	○	
関西ろうさい病院		13名	9名	○	○	○
近畿大学医学部奈良病院		4名	6名	○	○	○
県立西宮病院		6名	6名	○	○	○
公立学校共済組合近畿中央病院		6名	6名	○	○	○
国立病院機構大阪医療センター		8名	9名	○	○	○
大阪はびきの医療センター		3名	3名	○	○	
済生会千里病院		7名	3名	○	○	○
彩都友紜会病院		1名	1名		○	
紀南病院		3名	3名	○	○	○
市立芦屋病院		3名	3名	○	○	
市立池田病院		7名	3名	○	○	○
市立伊丹病院		8名	3名	○	○	○
市立貝塚病院		6名	3名	○	○	○
市立川西病院		5名	3名	○	○	

前ページより続き

医療機関名	診療科名	指導医数	受入人数	一般外科研修	消化器癌専門研修	内視鏡外科専門研修
堺市立総合医療センター	外科	7名	9名	○	○	○
市立吹田市民病院		6名	6名	○	○	○
市立豊中病院		12名	9名	○	○	○
済生会富田林病院		5名	3名	○	○	○
西宮市立中央病院		4名	3名	○	○	○
日本生命病院		5名	3名	○	○	○
市立東大阪医療センター		7名	6名	○	○	○
大阪急性期・総合医療センター		9名	9名	○	○	○
大阪国際がんセンター		18名	9名	○	○	○
箕面市立病院		8名	6名	○	○	○
守口敬仁会病院		4名	6名	○	○	○
八尾市立病院		9名	6名	○	○	○
りんくう総合医療センター		5名	3名	○	○	○
耳原総合病院		6名	3名	○	○	○
多根総合病院		8名	3名	○	○	○

(3) コースの実績

大学病院および一般外科研修担当関連施設は外科学会および消化器外科学会認定施設であり、カリキュラムに定められた専門医取得に必要な症例数以上の手術経験が可能である。消化器癌専門研修担当施設は地域癌拠点およびそれに準ずる施設であり、充分な消化器癌症例の経験が可能である。内視鏡外科専門研修担当では内視鏡外科技術認定医の指導の下、内視鏡手術の経験が可能である。また、教育行事の開催、学会や学術誌への研究発表指導なども積極的に行われている。

(4) コースの指導状況

各施設には外科学会・消化器外科学会の指導医・専門医、内視鏡外科専門研修担当施設には内視鏡外科技術認定医が在籍している。さらに高度専門的技術を要する手術においては大阪大学より指導医が巡回して教育・技術指導を行っている。医師会などの主催する指導医養成講習会へ参加し、指導体制の充実を図っている。また、大学および連携施設の研修指導代表者による研修調整委員会を開催し、履修状況の把握・マネージメントを行う。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	<p>・修練開始登録後満3年以上経た段階で、筆記試験を受験する。</p> <p>・従来日本外科学会が面接試験で行っていた専攻医の医師としての適性や人格の評価を、プログラム統括責任者の責務とし、筆記試験のみが行われる。</p> <p>1) 診療経験</p> <p>(1) 350例以上の手術手技を経験（NCDに登録されていることが必須）。</p> <p>(2) (1)のうち術者として120例以上の経験（NCDに登録されていることが必須）。</p> <p>(3) 各領域の手術手技または経験の最低症例数。</p> <p>①消化管および腹部内臓（50例） ②乳腺（10例） ③呼吸器（10例）</p> <p>④心臓・大血管（10例） ⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10例） ⑥頭頸部 ・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10例） ⑦小児外科（10例） ⑧外傷の修練（10点）*</p> <p>⑨ 上記①～⑦の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10例）</p> <p>注1. 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算することができる（ただし、加算症例は100例を上限とする）。</p> <p>注2. 術者として独立して実施できる一定数は設定しない。</p> <p>注3. *体幹（胸腹部）臓器損傷手術3点（術者）、2点（助手）</p> <p>上記以外の外傷手術（NCDの既定に準拠）1点・重症外傷（ISS 16以上）初療参加1点・日本外科学会外傷講習会受講1点・外傷初期診療研修コース受講4点・e-learning受講2点・ATOMコース受講4点・外傷外科手術指南塾受講（日本Acute Care Surgery学会主催講習会）3点・日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講（分野V（外科治療）-C. Trauma surgery）1点</p> <p>2) 業績</p> <p>所定の学術集会または学術刊行物に、筆頭者としての研究発表または論文発表を所定単位。</p> <p>【学会の連携等の概要】外科専門医は心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科および小児外科などの関連外科（サブスペシャルティ）専門医を取得する際に必要な基盤となる共通の資格であり、広告することができる医師の専門性に関する資格の一つとして、厚生労働省に認可されている。</p>

学会等名	日本消化器外科学会
資格名	日本消化器外科学会専門医
資格要件	<p>・日本外科学会専門医を有する</p> <p>・臨床研修終了後、指定修練施設（認定施設及び関連施設）において所定の修練カリキュラムに従い、通算4年間以上の修練を行っていること（300例以上の診療経験が必要）</p> <p>・消化器外科に関する筆頭者としての研究発表3件以上（論文1編を含む）の業績が、必要とされる。対象となる業績は、「消化器外科専門医制度審査のための業績基準」に定められた「医学雑誌」及び「学会の学術集会」に発表されたもので、発表内容、形態は資格認定委員会に判定される。</p> <p>・所定の研修実績を有すること。申請までに本学会総会および大会にそれぞれ1回以上の参加及び本学会教育講座（教育集会を含む）全6領域の受講をすること。</p>

学会等名	日本内視鏡外科学会
資格名	日本内視鏡外科学会技術認定
資格要件	<p>1) 申請時に日本内視鏡外科学会会員であること</p> <p>2) 日本外科学会専門医あるいは指導医であること。なお、日本外科学会専門医の資格で申請するときは、申請時点までに取得後2年以上内視鏡外科の修練を行っていることが応募資格となる。</p> <p>3) 胆囊摘出術などであれば50例以上（高難度手術5例を含む）、大腸切除、胃切除など高難度手術であれば20例以上を、術者として経験していること</p> <p>4) 専門領域の内視鏡下の高難度手術を独力で完遂でき、これらの手術の指導ができること。</p> <p>5) 本学会並びに関連学会が主催する、あるいはこれら学会が公認または、後援する内視鏡外科に関するセミナーを受講していること</p> <p>6) 内視鏡外科手術に関する十分な業績を有すること</p> <p>7) 申請者の内視鏡手術技術を保証し得る指導的立場にある者2名の推薦状</p> <p>8) 術者として最近行った内視鏡手術の未編集ビデオ（3症例）を提出</p>
【学会の連携等の概要】	

腹腔鏡手術体験セミナー



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 消化器外科

担当者 野田 剛広

tnoda@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

担当者 植村 守

muemura@gesurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ 旧HP : <https://www2.med.osaka-u.ac.jp/gesurg/>
 新HP : <https://www.gesurg.med.osaka-u.ac.jp/>
 (移行期のため新旧のURLを掲載しています)



旧HP



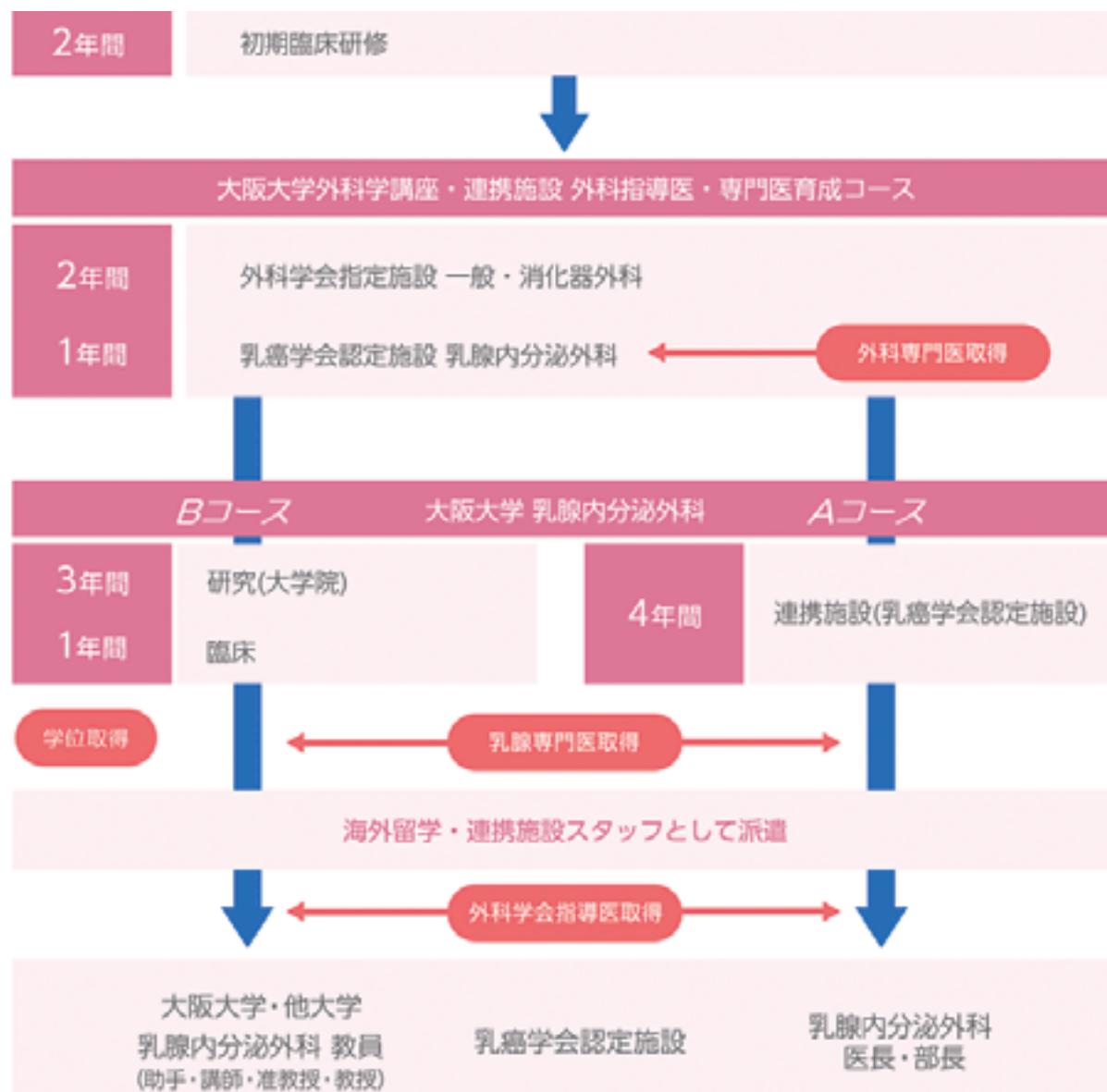
新HP

外科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／乳腺専門医コース

(1) コースの全体像

専門医コースの1～3年目は原則として関連病院で研修を行う（うち半年から1年を基幹病院である阪大病院にて研修を行う）。阪大以外の関連施設では、主に一般外科研修を行い、外科専門医取得に必要な一般外科を経験する。研修の状況や希望により、関連施設でも乳腺外科に所属し、乳腺疾患に関するさらなる知識と技術の習得を行うこともできる。6年目以降大阪大学乳腺・内分泌外科に所属して、サブコースに分かれる。Aコースでは6～9年目に附属病院で乳腺疾患に関する高度な診断や手術を習得し、それと平行して臨床研究を行う。Bコースでは大学院博士課程にて6～9年目には基礎研究、10年目には臨床研修を行う。終了時、Aコースは乳腺専門医、Bコースは学位を取得するが、両コースとも努力次第で専門医も学位も取得可能である。10年目からは関連病院及び乳腺外科専門病院をローテーションして実践的症例の診療経験を積むか、海外留学を行う。13年目以降は、外科指導医も取得可能となる。医療機関やコースの選択は研修者の希望に応じる。



(2) コースの概要

コース名： 乳腺専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導 者数	目的	年間 受入 人数	期間
大阪大学外科関連病院 大阪国際がんセンター、国 立病院機構大阪医療センタ ー、関西労災病院、JCHO大 阪病院、堺市立総合医療セ ンター、市立豊中病院、市 立吹田市民病院、大阪警察 病院、大阪急性期・総合医 療センター	外科、 乳腺外科	外科（一般消化器外科 ・心臓血管外科・呼吸 器外科・救急）	3~5 名	一般外科の基礎的研修 と消化器外科を初め、 外科専門医習得に必要 な各分野の手術経験	2名	2年間
乳腺外科専門病院 大阪国際がんセンター、国 立病院機構大阪医療センタ ー、関西労災病院、JCHO大 阪病院、堺市立総合医療セ ンター、市立豊中病院、大 阪警察病院、大阪急性期・ 総合医療センター、大阪ブ レストクリニック	乳腺外科、 乳腺内分泌 外科	乳腺外科（乳房切除術 、乳房温存術、センチ ネルリンパ節生検、乳 腺針生検法など）	2~4 名	乳腺疾患の基礎的知識 ・技術の習得、外科専 門医習得に必要な手術 経験、乳腺専門医取得 に必要な手術経験	2名	1年間
大阪大学 乳腺・内分泌外科	乳腺外科	乳腺外科および乳腺疾 患診療（乳房切除術、 乳房温存術、乳房再建 術、鏡視下手術、セン チネルリンパ節生検、 乳腺針生検術、術前術 後薬物療法、進行再発 乳癌治療、ターミナル ケア、臨床試験など）	8名	乳腺疾患の高度な知識 ・技術の習得、乳腺専 門医の取得に必要な手 術経験と研究論文業績	Aコース 3名 Bコース 3名	Aコース 5年間 Bコース 5年間
大阪大学関連病院 大阪国際がんセンター、国 立病院機構大阪医療センタ ー、関西労災病院、JCHO大 阪病院、堺市立総合医療セ ンター、市立豊中病院、大 阪警察病院、市立貝塚病院、 市立東大阪医療センター	乳腺外科、 乳腺内分泌 外科	乳腺外科（乳房切除術 、乳房温存術、鏡視下 手術、センチネルリン パ節生検、乳腺針生検 術、術前術後薬物療法 など）	1~4 名	乳腺外科の実践的症例 の手術術者経験、外科 指導医取得のための手 術と臨床研究論文業績	2名	2~4 年間
				合計	12名	

(3) コースの実績

阪大関連病院においては研修医一人あたり年間約 150 例の外科症例経験が見込まれ、外科専門医取得に必要な各専門別症例数も充足している。乳腺外科専門病院では研修医一人あたり年間 100 例程度の乳腺外科症例経験が見込まれる。毎年 2~3 名が乳腺専門医を取得している。令和 3 年度、大阪大学では A コース 1 名、B コース 13 名が在籍している。

(4) コースの指導状況

関連病院外科には外科指導医 1 名以上、外科専門医 3 名以上が配置されている。乳腺外科専門病院には 1 名以上の乳腺専門医が配置されている。大阪大学乳腺・内分泌外科においては乳腺専門医 7 名（うち外科指導医 4 名）が直接指導に当たっている。また、週 4 回の症例検討会を行い、検査、手術、薬物療法においては少なくとも 1 名の専門医に修練医が直接指導を受ける。

(5) 専門医の取得等

学会等名	1) 日本外科学会 2) 日本乳癌学会
資格名	1) 外科専門医 2) 乳腺専門医
資格要件	1) 研修開始登録後5年以上の修練。350例(うち術者として120例)の手術件数の修練実績。各専門分野の必須症例数以上の修練実績。研究発表または論文発表の業績。筆記と面接試験の合格。 2) 学会認定医制度協議会の定める基本的領域診療科(外科学会)の専門医であること。日本乳癌学会認定医（経験症例40例）であること。臨床研修医終了後、認定施設(関連施設を含む)において通算 5 年以上の必要な修練を行っていること。乳癌の(手術、診断、化学療法、放射線治療のいずれかに限定して)診療経験が100例以上。学会発表、論文発表(筆頭1編) 業績。筆記と面接試験の合格。
【学会の連携等の概要】	
外科専門医取得のための研修中の乳癌手術経験を乳腺専門医取得の症例経験に含むことも可能。外科専門医取得後に乳腺専門医を申請可能。最短では医籍登録後7年間で乳腺専門医の受験資格が取得可能である。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科

担当者 下田 雅史

✉ mshimoda@onsurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.onsurg.med.osaka-u.ac.jp/>



外科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース／小児外科専門医コース

a-1:小児外科臨床重点コース、a-2:小児外科大学院重点コース

(1) コースの全体像

2年間の初期臨床研修終了後、大阪大学の外科専門研修プログラムとして大阪大学医学部附属病院あるいは関連病院で、外科専門研修を開始する。はじめの2年間で、基幹病院である阪大病院での研修を含め、外科専門医取得に必要な症例を経験する。5年目（外科専攻3年目）に小児外科研修医として、小児専門病院にて小児外科に関する基礎的な知識・技術の習得を1年間行う。

a-1コースでは、6年目から大学関連病院または小児専門病院にて実践的臨床症例の手術経験を積む。

a-2コースでは、6年目に大学院博士課程に入学して1年間は小児外科に関する臨床および臨床研究を行う。つづく3年間は小児外科に関する基礎研究を行い、学位を取得する。その後、10年目から大学関連病院及び小児専門病院にて実践的症例の手術経験を積む。

両コースとも、5年目（外科専攻の3年目）終了時には外科専門医の受験資格を取得する。小児外科専門医については、小児外科専攻2年目以降に筆記試験を受験し3～5年目の取得を目指す。

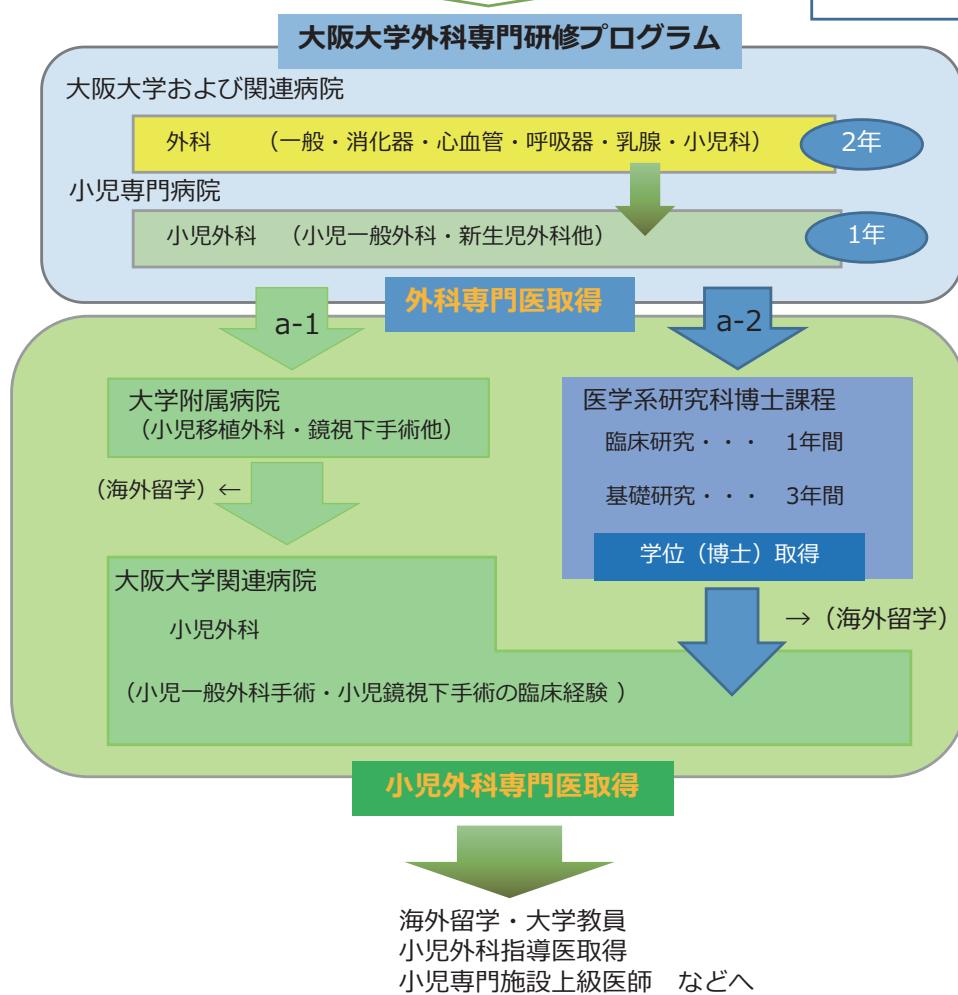
小児外科専門医コース

a-1：臨床重点コース

a-2：大学院重点コース

コース終了時

- ・外科専門医 取得
- ・小児科専門医 取得
- ・学位(博士) 取得



(2) コースの概要

コース名： 小児外科専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学関連病院 大阪急性期・総合医療センター りんくう総合医療センター 市立豊中病院 かりゆし会ハートライフ病院	外科	外科 (一般消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・救急外科など)	2~5名	一般外科の基礎的研修ならびに消化器外科を初め、外科専門医取得に必要な各分野の手術症例の経験	2名	2年
小児専門病院 大阪母子医療センター 大阪市立総合医療センター	小児 外科	小児外科 (小児一般外科・新生児外科・小児鏡視下手術など)	3~4名	小児外科の基礎的知識・技術の習得、外科専門医に必要な手術症例数の経験、小児外科専門医取得に必要な研修指數の獲得	1~2名	1年
大阪大学医学部附属病院	小児 外科	小児外科 (新生児外科・小児移植外科・小児腫瘍外科・小児鏡視下手術・外科栄養など)	7名	小児外科の高度専門的知識・技術の習得、小児外科専門医筆記試験受験、小児外科専門医取得に必要な研修指數・専従期間の獲得、研究論文業績	2名	a-1:2年 a-2:4年
大阪大学関連病院 近畿大学奈良病院、福山医療センター、愛染橋病院、市立東大阪医療センター、かりゆし会ハートライフ病院 小児専門病院 大阪母子医療センター、大阪市立総合医療センター、吹田市民病院、市立池田病院、紀南病院、八尾徳洲会病院	小児 外科	小児外科 (小児一般外科・新生児外科・小児鏡視下手術など)	1~3名	小児外科の実践的症例の手術術者経験、小児外科専門医取得に必要な研修指數の獲得、専従期間の獲得ならびに手術術者症例の経験、研究論文業績	1~2名	a-:4年 a-2:2年

(3) コースの実績

大阪大学関連病院外科においては研修医一人あたり年間 120~160 例程度の外科症例経験が見込まれ、外科専門医取得に必要な各専門分野別症例数も充足している。小児専門病院小児外科においては、研修医一人あたり年間 150~200 例程度の小児外科症例経験が見込まれる。小児専門病院、大阪大学小児外科、大学関連病院小児外科を通じて小児外科専門医取得が可能である。

(4) コースの指導状況

関連病院外科には 2 名以上の外科専門医、1 名以上の外科指導医が配置され、手術指導をうける体制が確保されている。小児専門病院小児外科には 1 名以上の小児外科指導医が配置されている。大阪大学小児外科には 5 名以上の外科小児外科指導医が配置されている。小児移植外科・新生児外科・小児鏡視下手術など高度専門的技術を要する手術においては大阪大学小児外科より各施設に指導医が巡回して教育・技術指導を行う。

(5) 専門医の取得等

学会等名	1) 日本外科学会 2) 日本小児外科学会
資格名	1) 外科専門医 2) 小児外科専門医
資格要件	1) 研修開始登録後5年以上の修練。350例（うち術者として120例）の手術件数の修練実績。各専門分野の必須症例数以上の修練実績。研究発表または論文発表の業績。筆記及び面接試験の合格。 2) 通算7年以上の外科医としての経験。認定施設での通算3年以上の専従。外科専門医の取得。学術集会への参加。小児外科に関する筆頭研究論文または筆頭症例報告が1編以上。小児外科学会が規定した学術実績を有すること。小児外科学会が規定した臨床実績を有すること（本カリキュラムで十分に達成可能）。小児外科専門医筆記試験に合格。
【学会の連携等の概要】	
小児外科専門医取得の際、大学院在学中に臨床研究を行う目的で臨床に専従する期間は日本小児外科学会の規定した専従研修期間に含めてよいことが認められている。	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 小児外科

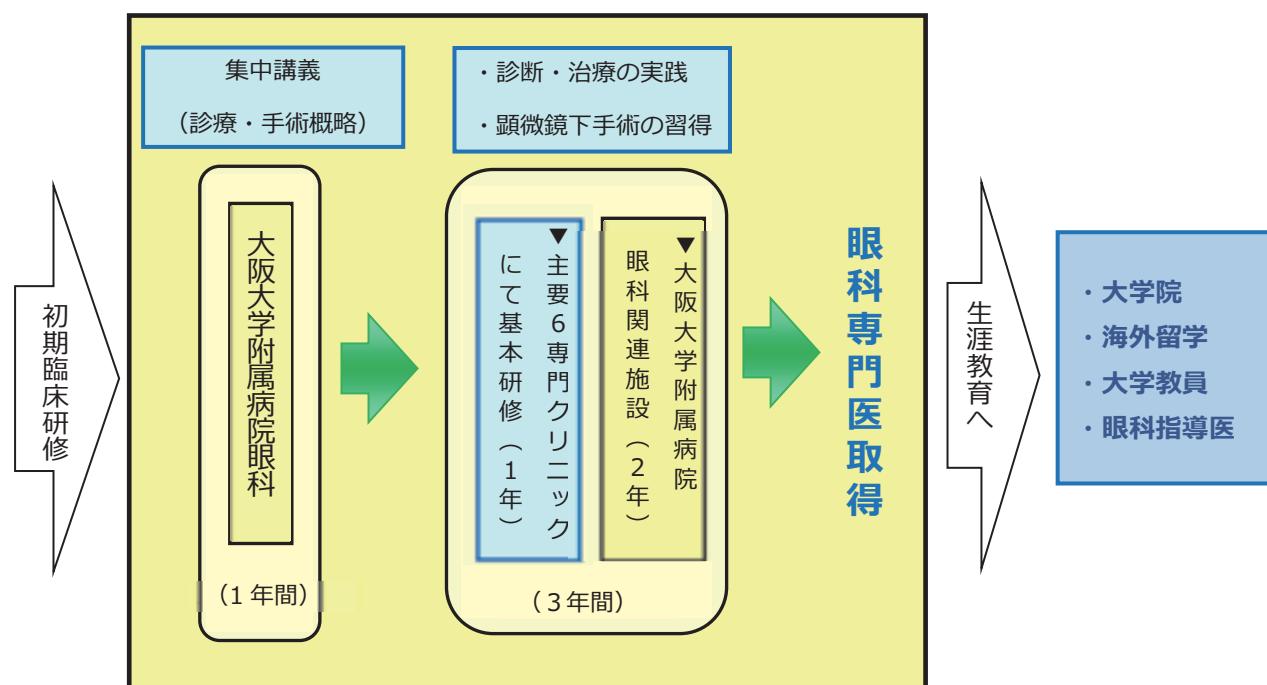
担当者 神山 雅史

✉ kamiyama@pedsurg.med.osaka-u.ac.jp診療科ホームページ <http://www.pedsurg.med.osaka-u.ac.jp/trainee/index.html>

眼科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

眼科臨床医として多くのできない基礎・臨床知識、検査・診療技術、顕微鏡手術技術を習得することを目標としています。本プログラムは4年間で構成され、終了時（卒後6年）に、日本専門医機構認定の眼科専門医の取得を目指します。最初の1年は基本的に大阪大学眼科にて研修を行います。まず集中講義により診療・手術の研修概略を教育し、その後、専門クリニック（角膜、メディカル網膜、サージカル網膜、眼炎症、緑内障、斜視・弱視、神経眼科、小児眼科、眼形成）を回ることにより、1年終了後には一通りの疾患に対する基本的な考え方と診療技術が身に付くようにします。白内障や外眼部疾患の手術助手には、早期から積極的に参加させます。2年目からは、大阪労災病院（白内障手術／網膜硝子体診断・手術）、JCHO大阪病院、大阪医療センター（白内障手術／緑内障診断・手術）をはじめとする大阪大学眼科関連施設において、外来診療、手術（執刀）、学会発表に主体的に参加させ、指導医のもとさらに掘り下げた教育を行い、眼科専門医として必要な知識と技能を習得させます。また、大阪府はシーリング対象地域のため、大阪府以外の地域への貢献が求められています。そこで当科では、より充実した研修を行っていただくため、シーリング対象外の地域の拠点病院のいくつかと連携しており、それらの施設でより実践的な研修を行っていただきます。研修修了後は阪大関連施設で勤務していただきます。



(2) コースの概要

コース名： 大阪大学眼科専門研修プログラム

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学 医学部附属病院	眼科	角膜・網膜硝子体・ 神経眼科・緑内障・ ぶどう膜炎・眼形成	43名	眼科の主要なサブスペシャリティを網羅し、診断および治療計画を学ぶ	9名	4年

(3) コースの実績

大阪大学および関連施設はいずれも、手術件数 1000-6000 件/年であり、眼科の主要なサブスペシャルティ（角膜、メディカル網膜、サージカル網膜、緑内障、斜視、小児眼科、神経眼科、ぶどう膜炎、眼形成など）を網羅し、診断、および、治療を学び、眼科医としての臨床経験を研鑽できるように図ってきました。眼科専門医取得後も、各サブスペシャリストとしての技能を高めるため幅広い臨床経験を積むことが可能です。

(4) コースの指導状況

大阪大学及び関連施設は日本眼科学会等各学会で指導的立場にある医師が責任者であり、眼科の主要なサブスペシャルティを網羅し、診断及び治療計画を立て実践することができるよう指導を行い眼科専門医の資格を取得できるように指導します。また、眼科専門医取得後も各サブスペシャリスト（角膜専門医、網膜硝子体専門医、緑内障専門医、神経眼科専門医、ぶどう膜炎専門医、眼形成専門医など）としての技能向上のため専門に特化した臨床経験を積むことも可能です。

(5) 専門医の取得等

機関	日本専門医機構（日本眼科学会がカリキュラム作成、実施）
資格名	眼科専門医
資格要件	教育病院での研修4年以上
【学会の連携等の概要】	
大阪大学および関連病院はいずれも日本眼科学会認定教育認定施設である。	

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 眼科

担当者 丸山 和一

 edu@ophthal.med.osaka-u.ac.jp

TEL:06-6879-3456

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/ophthal/www/>



耳鼻咽喉科専門研修プログラム

(1) 研修プログラムについて

日本耳鼻咽喉科学会が主導する耳鼻咽喉科専門医を取得するには、最低4年間の認定施設での専門領域研修が必要になります。また、耳鼻咽喉科領域には頭頸部腫瘍、難聴・めまい、鼻・副鼻腔、音声・嚥下などのサブスペシャルティがありますが、専門医取得には全領域での症例経験が必要です。大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、後期臨床研修において耳鼻咽喉全領域に渡る標準的医療を高度なレベルで遂行でき、また最先端医療に関する知識も獲得することを目的とした専門研修プログラムを提供しています。連携施設は全て人口密度の高い大阪府あるいは兵庫県阪神地区に位置しています。平成30（2018）年度から導入された新専門医制度にあわせ、これらの連携施設群を症例数や専門性からA・Bの2群にわけ、大学病院とあわせて4年間で3つ以上の関連病院で研修するプログラムを設定しています。また、臨床の知識・技術を獲得するのみでなく、医学を発展させるスキルを磨きながら専門分野を確立するために、大学病院での研修を終えた後に大学院への進学を推奨しています。研修を行う関連病院、大学院への進学については、大学および関連病院のスタッフ、専攻医、大学院生の採用枠のいずれも定員がありますので、必ずしもすぐに個人の希望通りの人事が行えるとは限りませんが、医局長による定期的な希望調査を行い、できるだけ本人の希望に沿うような人事調整を行っています。

専門医資格のために必要な経験数だけでいえば、当教室のプログラムは30名近く募集できますが、専攻医の先生方全員が十分な症例数を経験できるよう、募集人数は13名としています。

(2) 当科における研修プログラムの例

当科では、a.後期専門研修期間のうち、1-2年目はI群病院のいずれかで、3年目は基幹施設（大阪大学医学部附属病院）で、4年目はII群病院のいずれかでの研修を原則とする、b.大学院進学は大学病院での研修後とする、の2つの規則を設け、5年目に専門医試験への受験を基本としています。研修期間や病院の順番は、専攻医の数や専門医制度のルールに応じて変更がある可能性があります。その他については厳密にルールを決めておりませんので、様々なコースが考えられます。下記はそのコースの例となっていますので参考にしていただければ幸いです。

1年目（令和3年度）	2年目（令和4年度）	3年目（令和5年度）	4年目（令和6年度）
	I群連携施設	0.5-1年：基幹施設 0-0.5年：I群連携施設	II群連携施設

(3) 研修施設について

群	No.	施設名	所在地	指導医（人）	総医員（人）	手術数（件）
基幹	基幹	大阪大学医学部附属病院	大阪府	11	19	1181
I	1	大阪市立総合医療センター	大阪府	3	8	1185
I	2	大阪急性期・総合医療センター	大阪府	2	8	1393
I	3	大阪国際がんセンター	大阪府	4	8	1025
I	4	大阪労災病院	大阪府	3	8	1045
I	5	関西労災病院	兵庫県	2	5	393
I	6	大阪医療センター	大阪府	2	5	340
I	7	八尾市立病院	大阪府	2	5	734

I	8	市立豊中病院	大阪府	2	5	584
I	9	大阪警察病院	大阪府	1	4	311
I	10	市立吹田市民病院	大阪府	2	4	513
I	11	市立東大阪医療センター	大阪府	1	5	572
I	12	地域医療機能推進機構 大阪病院	大阪府	2	4	286
I	13	市立池田病院	大阪府	3	4	543
I	14	県立西宮病院	兵庫県	2	4	360
I	15	堺市立総合医療センター	大阪府	1	4	426
I	16	大手前病院	大阪府	1	3	293
I	17	住友病院	大阪府	1	4	519
I	18	大阪はびきの医療センター	大阪府	1	4	378
I	19	近畿中央病院	大阪府	1	3	323
I	20	箕面市立病院	大阪府	1	3	94
I	21	大阪母子医療センター	大阪府	2	3	887
I	22	隈病院	兵庫県	1	2	3156
I	23	関西メディカル病院	大阪府	1	2	424
II	1	新潟大学医歯学総合病院	新潟県	10	斜線	斜線
II	2	三重大学医学部附属病院	三重県	6	斜線	斜線
II	3	大分大学医学部附属病院	大分県	7	斜線	斜線
II	4	宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	5	斜線	斜線
II	5	琉球大学医学部附属病院	沖縄県	8	斜線	斜線

(4) 専門医の取得等

学会等名	日本耳鼻咽喉科学会
資格名	耳鼻咽喉科専門医
資格要件	日本医師国家試験合格、日本耳鼻咽喉科学会正会員3年以上、耳鼻咽喉科専門領域研修4年以上
【学会の連携等の概要】	
他に、日本めまい平衡医学会専門会員、日本気管食道科学会認定専門医、日本アレルギー学会認定専門医、頭頸部がん専門医、がん治療認定医、内分泌・甲状腺外科学会専門医、鼻科手術指導医、耳科手術指導医があり、希望者は耳鼻咽喉科専門医取得後にそれらを目指すことになる。	



インスタグラムで当科の
活動を紹介しています



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

担当者 端山 昌樹

TEL: 06-6879-3951

✉ mhayama @ ent.med.osaka-u.ac.jp

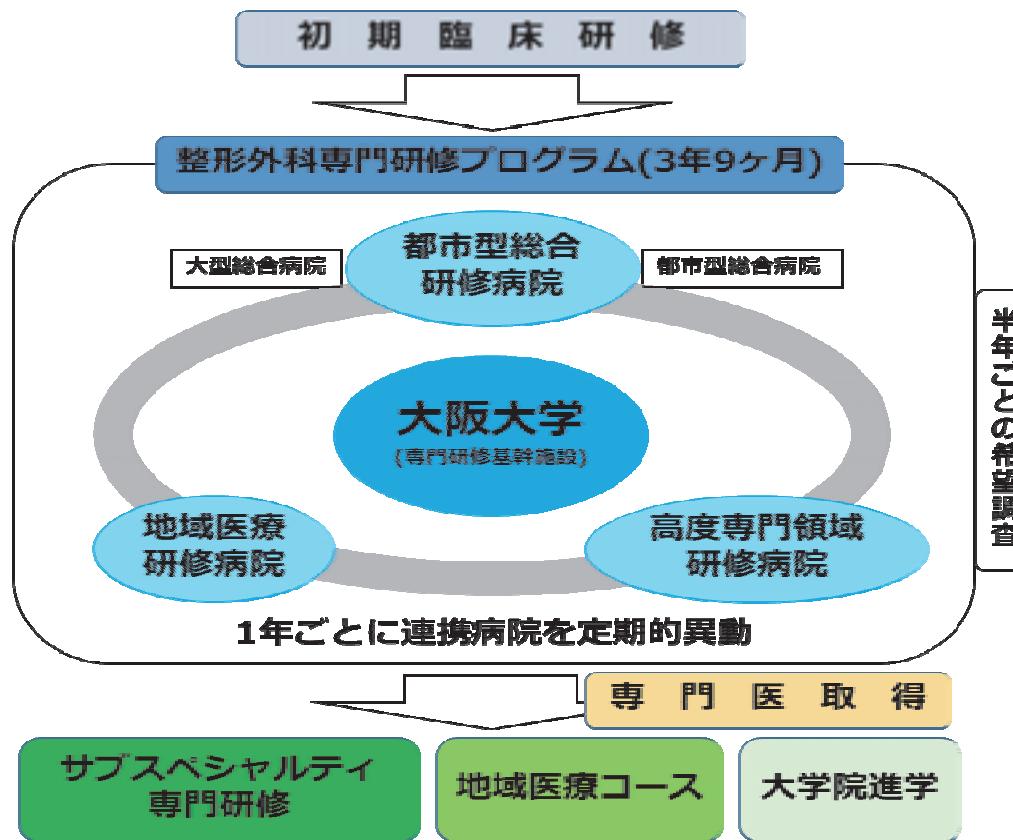
診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/ent/program/introduction.html>



整形外科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

大阪大学整形外科専門研修プログラムでの後期研修の3年9ヶ月間はほぼ1年ごとに病院の定期的勤務異動が行われ、少なくとも4つの病院で研修を受ける。この期間に、術者経験が豊富にできる病院、関節外科、脊椎外科等の各専門分野の研鑽ができる病院に順次赴任することで、幅広い知識を得ることを促している。この結果、3年9ヶ月の研修期間終了時に骨折や一部専門領域の手術ができ、また整形外科疾患の診断と治療方針の決定は分野に偏らず正確に行える一般整形外科医師となる。専門研修プログラム終了時点で日本整形外科学会の専門医試験受験資格が得られる。それ以降は、サブスペシャルティ専門研修、地域医療、大学院での研究の大きく3コースに分かれ、各人が選択する。専門研修、地域医療のいずれも、3~5年間隔で勤務病院を定期的に異動することで、複数の施設での経験を積み、様々な分野で活躍できる医師が育つようにしている。



(2) プログラムの概要

大阪大学医学部附属病院を基幹施設として、下記の都市型総合研修病院、地域医療研修病院、高度専門領域研修病院を1年ごと（一部半年ごと）に勤務異動しながら3年9ヶ月間の研修を行う。

コース名： 整形外科専門研修プログラム						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
<u>基幹施設</u> 大阪大学医学部附属病院	整形外科	整形外科全般	21名	各専門分野の診断と治療法決定	10名	半年
<u>都市型総合研修病院</u> (大型総合病院) 大阪医療センター、大阪急性期・総合医療センター、大阪警察病院、第二大阪警察病院、大阪南医療センター、大阪労災病院、関西ろうさい病院、JCHO大阪病院、ベルランド総合病院、JCHO星ヶ丘医療センター (都市型総合病院) 神戸掖済会病院、堺市立総合医療センター、市立芦屋病院、市立池田病院、市立伊丹病院、市立貝塚病院、市立吹田市民病院、市立豊中病院、住友病院、西宮市立中央病院、日本生命病院、姫路赤十字病院、箕面市立病院、八尾市立病院、りんくう総合医療センター	整形外科	脊椎外科、手の外科、股関節外科、リウマチ関節外科、膝関節外科、肩関節外科、スポーツ整形外科、小児整形外科、骨軟部腫瘍外科、リハビリテーション	1~15名/施設	各専門分野の疾患の診断と治療法の決定を行えるようにする。一般的な疾患に関しては各種領域の手術も術者として行えることを目標とする。各種カンファレンスでの症例のプレゼンテーションがきちんとできるようになる。症例報告だけではなく手術成績などのまとめの報告を学会などで行い、各種治療法の効用に加えて合併症発生率などの不利益の面や限界を把握することを学ぶ。	50名	1年 (場合により半年)
<u>地域医療研修病院</u> 尼崎中央病院、大阪刀根山医療センター、河崎病院、関西メディカル病院、北大阪ほうせんか病院、協立病院、協和会病院、近畿中央病院、大阪複十字病院（旧大阪府結核予防会大阪病院）、こだま病院、済生会小樽病院、宝塚第一病院、玉井病院、野崎徳洲会病院、函館五稜郭病院、浜脇整形外科病院、早石病院、阪南中央病院、阪和第二泉北病院、ボバース記念病院、松本病院、守口敬仁会病院、森之宮病院、友紹会総合病院、行岡病院、緑風会病院	整形外科	骨折を中心とした外傷が主体であるが、腰椎疾患、膝関節疾患などの患者数の多い分野も含む	1~9名/施設	骨折に関しては術者ができるようになることを目的として、骨折などの外傷の診断と治療を学ぶ。各種専門分野の疾患の診断と治療方針の決定までができるようになることを目的とする。症例報告などの学会発表を行い、症例について深く理解し知識を深める。	40名	1年 (場合により半年)
<u>高度専門領域研修病院</u> 大阪国際がんセンター、大阪母子医療センター、南大阪小児リハビリテーション病院	整形外科	骨軟部腫瘍外科、小児整形外科	2~3名/施設	骨軟部腫瘍外科学や小児整形外科学の最先端治療を学ぶ。	3名	1年 (場合により半年)
				受入人数	20名	

(3) プログラムの実績

基幹施設および連携施設全体において年間新患数 80,000 名以上、年間手術件数およそ 38,000 件の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは、十分な症例を経験することが可能である。また手術手技を 600 例以上経験し、そのうち術者としては 300 例以上を経験することが可能である。各専門分野を偏り無く研修することで、一般整形外科医としての技術・能力が平均的に高い医師が育っている。またその後のサブスペシャルティ専門研修では希望する医師に平等に機会が与えられ、一般整形外科医としての礎の元に、専門性の高い医師が効率よく育っている。

(4) プログラムの指導状況

研修内容に偏りが生じないように、年 2 回の面談と 2 回の書面による研修状況把握と希望調査に基づき人事異動を行っている。また年 1 回、指導者側、研修を受ける医師間の相互評価を行い、研修コースの適正化と研修内容の向上が常に行われるようとしている。さらに大阪大学整形外科が主催する整形外科卒後研修セミナー（年 2 回 12 講演、3 年 9 ヶ月間で 48 講演）に参加することで、専門分野のエキスパートからの多領域にわたる最新知識の講義を受けることが可能となる。また整形外科集談会京阪神地方会（年 2 回）、大阪骨折研究会（年 2 回）での研究発表（研修期間中に各 1 回）を行うことで、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことが可能となる。

(5) 専門医の取得等

資格名	整形外科専門医（日本整形外科学会）
資格要件	<p>各習得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。</p> <p>行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。</p> <p>臨床医として十分な適性が備わっていること。</p> <p>研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得していること。</p> <p>1回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。</p> <p>認定試験（筆記、口頭）合格。</p>
【学会の連携等の概要】 大阪大学整形外科の研修病院の部長クラスの整形外科医師、大阪大学整形外科にいる整形外科医師が多く、日本整形外科学会認定の講演を行い、地域の医師の教育、若手医師の教育に勤めている。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 整形外科

担当者 王谷 英達

✉ sotsugo@ort.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.osaka-orthopaedics.jp/recruit/>



皮膚科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

日本専門医機構認定皮膚科専門医プログラムは、皮膚科専攻医登録後 5 年間のプログラム研修が必須要件となっている。

本プログラムは大阪大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、研修連携施設を加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。大阪大学医学部附属病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得しつつ、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。研修連携施設では、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、大阪大学医学部附属病院皮膚科の研修を補完する。研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され、安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を、獲得できることを目標とする。サブスペシャルティとして、日本アレルギー学会認定専門医の取得、また皮膚科専門医が皮膚悪性腫瘍に関する優れた診療技術と知識を取得可能な皮膚悪性腫瘍研修コースも選択可能である。またプログラム参加中の大学院進学も可能である（2 年間は研修として加算される）。



各年度の目標 :

専攻医 1~3 年目 :

カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。大学院コースを選択し、臨床の基盤となる基礎医学の知識の習得も可能である。

専攻医 3~5 年目 :

経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3 年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を育む。

毎年度 :

日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、日本皮膚科学会大阪地方会には可能な限り出席し、情報を収集する。古典～近代の教科書をもとに皮膚科診療の知識の礎を構築した上で、各疾患の診療ガイドラインや最新の研究成果に関する学習を行う。

(具体的な案は以下を参照されたい)

卒後/年	0	2	4	6	8	9
専門医・ 博士号取得 (A 案)	初期 臨床 研修	大学院		大学研修		大学職員
				関連病院研修		関連病院勤務
		大学研修		大学院		(修了者) 留学
		関連病院研修				
専門医・ 博士号取得 (B 案)	初期 臨床 研修	大学院			大学 研修	大学 職員
					関連病院研修	関連 病院 勤務
		大学 研修	関連病院研修		大学 研修	(修了 者) 留学
		関連病院研修	大学 研修	大学院		
臨床 コース	初期 臨床 研修	大学研修		関連病院研修		大学職員
						関連病院勤務
		関連病院研修		大学研修		留学
		大学 研修	関連病院研修		大学 研修	(博士号取得) 大学院

(2) プログラムの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	皮膚科	皮膚科 (一般、 専門分野)	1 3名	皮膚科の基礎的研修ならびに皮膚科の高度専門的知識・技術の習得、皮膚科専門医取得に必要な学会発表、論文発表単位数の獲得	6名	1~2年間 (場合により)
大阪大学関連病院 地域医療機能推進機構 大阪病院 第二大阪警察病院 住友病院 地域医療機能推進機構大阪みなど 中央病院 国家公務員共済組合連合会大手前 病院 日本生命病院 大阪急性期総合医療センター 大阪医療センター 市立吹田市民病院 市立豊中病院 市立池田病院 箕面市立病院 堺市立総合医療センター 大阪労災病院 大阪はびきの医療センター 市立東大阪医療センター 南和歌山医療センター 関西労災病院 公立学校共済組合近畿中央病院 大阪国際がんセンター 岸和田徳洲会病院	皮膚科	皮膚科 (一般、 専門分野)	1 ~ 3 名	一般皮膚科の基礎的研修ならびに皮膚科の専門的知識・技術の習得、皮膚科専門医取得に必要な学会発表、論文発表単位数の獲得、美容皮膚科・レーザー皮膚科の専門的知識・技術の習得	4名	1~2年間
					受入人数	10名

(3) コースの実績

大阪大学医学部附属病院皮膚科および大阪大学関連病院皮膚科においては豊富な症例数を有しており、日本皮膚科学会専門医試験受験申請時に必要となる各疾患分野別症例数、手術症例数、学会発表数、論文発表症例数の確保が可能である。

(4) コースの指導状況

大阪大学附属病院皮膚科には常時 5 ~ 9 名以上の皮膚科専門医（指導医）が配置されている。また、皮膚科専攻医を受け入れる研修連携施設皮膚科には 1 名以上の皮膚科専門医（指導医）が配置されている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本皮膚科学会
資格名	日本専門医機構認定皮膚科専門医
資格要件	<p>日本専門医機構認定皮膚科専門医試験に合格すること。 受験資格は、以下の要件すべてを満たすこと。</p> <p>(1)5年間以上の研修期間を満たしていること (2)「研修の記録」の形成的評価票、年次総合評価票が埋められ、指導医の確認を受けていること。 (3)15症例の経験症例(入院・外来)レポートを作成すること (4)10例の手術症例レポートを作成すること (5)医療安全、感染対策、医療倫理の必修項目を受講すること (6)日本皮膚科学会主催講習会、学会発表、論文発表単位により、前実績 単位60単位を取得すること</p>
【学会の連携等の概要】	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 皮膚科

担当者 壽 順久

✉ d-chief3@derma.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.derma-osaka-u.jp>

形成外科専門研修プログラム

(1) 大阪大学形成外科研修プログラムについて

形成外科は臨床医学の一端を担うものとして、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野です。大阪大学形成外科研修プログラムは、国民の健康・福祉の増進に貢献できるよう、形成外科領域における知識と技能、社会性、倫理性など医師として適性を備えた専門医を育成することを目的としています。

本プログラムでは、募集定員は 7 名を予定しております。形成外科専門研修期間は、初期臨床研修の 2 年間の後、4 年以上とされています。

本プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。専門研修プログラムでは外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

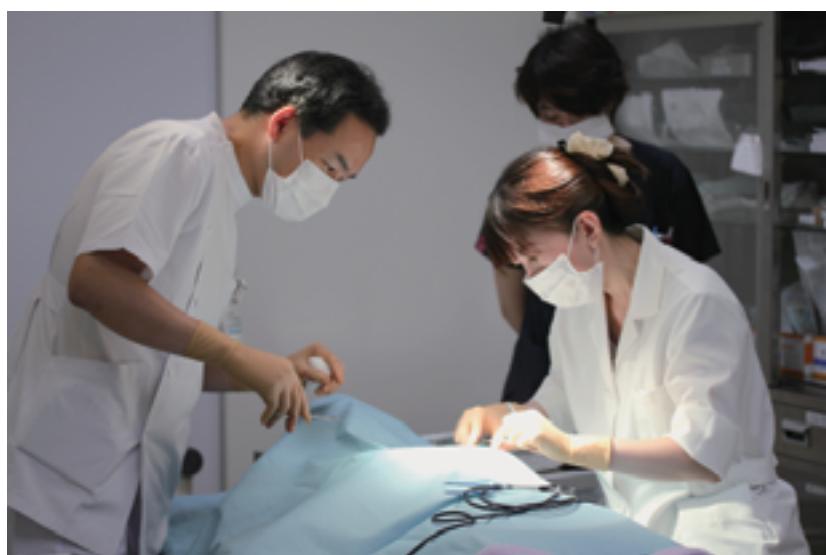
研修の一部には、一定の条件はありますが、社会人大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty 領域専門医（皮膚腫瘍外科、創傷外科、頭蓋顎顔面外科、熱傷、手外科、美容外科）の研修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、専門研修プログラムでは医師としての幅が広げられるよう、臨床現場から見つけ出した題材の研究方法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム終了後には専門知識と診療技術を習得し、他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

(2) 形成外科専門研修はどのように行われるのか

研修段階の定義

形成外科専門医は、初期臨床研修の 2 年間と専門研修（後期研修）の 4 年間の合計 6 年間の研修で育成されます。

- 専門研修の 4 年間で、医師として倫理的・社会的に基本的な診療能力を身につけることと、日本形成外科学会が定める「形成外科専門研修カリキュラム」にもとづいて形成外科専門医に求められる専門技能の修得目標を設定します。それぞれの年度の終わりに達成度を評価したのち、専門医として独立し医療を実践できるまでに実力をつけていくように配慮します。
- 専門研修期間中に大学院へ進むことは可能です。社会人大学院生として、臨床に従事しながら研究を進めるのであれば、その期間は専門研修として扱われます。
- Subspecialty 領域専門医によっては、形成外科専門研修を終了し専門医資格を修得した年の年度初めに遡って、Subspecialty 領域研修の開始と認める場合があります。
- 専門研修プログラムの終了判定には、経験症例数が必要です。日本形成外科学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標および経験すべき症例数を参照してください。（以下の表を参照）



形成外科領域専門研修における必要経験症例一覧

(経験症例数)		(経験執刀数)	
I 外傷	60	10	上肢・下肢の外傷、外傷後の組織欠損（2次再建）、顔面骨折、顔面軟部組織損傷、頭部・頸部・体幹の外傷、熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷、など
II 先天異常	15	4	頸部の先天異常、四肢の先天異常、唇裂・口蓋裂、体幹（その他）の先天異常、頭蓋・顎・顔面の先天異常、など
III 腫瘍	90	18	悪性腫瘍、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損（一次・二次再建）、良性腫瘍、など
IV 痣痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15	3	肥厚性瘢痕・ケロイド、瘢痕拘縮
V 難治性潰瘍	25	3	褥瘍、その他の潰瘍（下腿・足潰瘍を含む）、など
VI 炎症・変性疾患			顔面神経麻痺、手足の炎症・変性疾患、
VII その他			その他（眼瞼下垂、腋臭症、など）
VI VII合わせて	15	2	
VII 美容外科			手術、処置（非手術、レーザーを含む）
指定症例の総計	220	40	
自由選択枠	80	40	
総合計症例数	300	80	

(3) 研修プログラムの施設群について

(基幹施設) 大阪大学形成外科が専門研修基幹施設となります。(研修プログラム責任者：1名、指導医：4名、症例数：約800例（按分後）)

(連携施設) 大阪大学形成外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。これらの病院は地域の中核を成す病院でもあり、ここでは地域医療も経験していただきます。なお大阪大学グループ全体の症例数は、年間8,000例以上（按分後）にのぼり、腫瘍・再建、先天異常、外傷などあらゆる分野において豊富な手術経験をできるようになっております。

(専門研修施設群の地理的範囲) 大阪大学形成外科研修プログラムの専門研修施設群は大阪府・兵庫県・福井県・新潟県にあります。また施設群の中には、地域中核病院や地域中小病院も含まれます。

大阪大学グループ

専門研修基幹施設			
大阪大学医学部附属病院	指導医 4名		
専門研修連携施設かつ地域医療研修の可能な施設			
大阪労災病院	指導医 1:専攻医枠 5	箕面市立病院	指導医 1:専攻医枠 1
大阪警察病院	指導医 2:専攻医枠 4	市立堺総合医療センター	指導医 1:専攻医枠 2
大阪急性期・総合医療センター	指導医 1:専攻医枠 3	国立病院機構大阪医療センター	指導医 1:専攻医枠 1
関西労災病院	指導医 1:専攻医枠 3	りんくう総合医療センター	指導医 1:専攻医枠 1
JCHO 大阪病院	指導医 2:専攻医枠 3	ベルランド総合病院	指導医 1:専攻医枠 1
JCHO 大阪みなど中央病院	指導医 3:専攻医枠 2	市立東大阪医療センター	指導医 1:専攻医枠 2
住友病院	指導医 1:専攻医枠 2	市立伊丹病院	指導医 1:専攻医枠 2
専門研修連携施設			
大阪国際がんセンター	指導医 2:専攻医枠 2	新潟大学医歯学総合病院	指導医 5名
大阪母子医療センター	指導医 1:専攻医枠 2	福井大学医学部附属病院	指導医 2名
兵庫県立こども病院	指導医 1:専攻医枠 2		



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 形成外科

担当者 久保 盾貴

✉ psurg @ psurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/psurg/>



精神科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

日本精神神経学会の基準に従った形で、主に大阪府下の30病院と連携して専門医を育成するプログラムとなっています。できるだけ効率的に日本精神神経学会専門医および精神保健福祉法に規定された精神保健指定医を取得することを第一の目的としています。それぞれの資格取得に必要な研修目標を全て短期間に網羅するために、大学病院（1年目）、総合病院（2年目）、単科精神科病院（3年目）をローテートすることが一般的なコースです（次ページ図参照）。ローテートする病院は全て日本精神神経学会の認定研修施設であり、精神科領域でもバリエーションがあるので、可能な限り各人の希望に対応します。コース終了後は、関連施設での更なる臨床実践についてご相談に応じます。大学院進学はコース途中でも相談に応じます。

(2) プログラムの概要

精神科専門医プログラム						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	神経科・精神科	精神医学	14名	精神医学の基礎研修 特に児童・思春期精神障害 及び症状性・器質性精神障害の経験等	10名	1年
総合病院 ①大阪急性期・総合医療センター ②大阪市立総合医療センター ③大阪医療センター ④箕面市立病院 ⑤市立豊中病院 ⑥住友病院 ⑦日本生命病院 ⑧地域医療機能推進機構大阪病院 ⑨関西労災病院 ⑩砂川市立病院 ⑪高知大学医学部附属病院	精神科	精神医学	各 1～2名	精神医学の基礎研修 リエゾン・コンサルテーション精神医療の経験等	各1名	1年 程度
単科精神科病院 ⑫大阪府立精神医療センター ⑬浅香山病院 ⑭榎坂病院 ⑮清風会茨木病院 ⑯箕面神経サナトリウム ⑰ためなが温泉病院 ⑱やまと精神医療センター ⑲阪和いづみ病院 ⑳和泉丘病院 ㉑大阪さやま病院 ㉒小阪病院 ㉓国分病院 ㉔美原病院 ㉕水間病院 ㉖吉村病院 ㉗七山病院 ㉘東加古川病院 ㉙仁明会病院 ㉚伊丹天神川病院	精神科	精神医学	各 1～2名	精神医学の基礎研修 統合失調症、躁うつ病、中毒性精神障害、認知症などの措置あるいは医療保護入院の経験 精神科リハビリテーション、地域医療の経験 心神喪失者医療観察法の経験(やまと精神医療センター、府立精神医療センター)等	各2名	1年 程度
				受入人数	10名	

大阪大学 精神科 後期専門研修プログラム



31施設の特徴的な研修連携施設があります。

上記モデル以外にも多様な研修プログラムがあり得ます。

例:精神腫瘍学を志望の方は大阪国際がんセンターなど
中毒・アルコール精神病を志望の方は阪和いずみ病院など

基幹病院、総合病院、単科精神病院を軸に、専攻医のニーズに応じて多様な研修が可能である。専門性の高い経験をさまざまに積むために、半年程度のローテートも考慮する。希望があれば大学院進学も可能である。



自己紹介



ロボホン

正式名称は
RoBoHon

好きなことは、皆と
お話しすること。

実は今、病院でも
活躍しているんだ。

今日は僕が神経科・
精神科の紹介をして
いくね。



(3) コースの実績

大阪大学関連施設の精神神経学会認定研修施設は多数あり、今までに数多くの精神保健指定医および精神科専門医を輩出してきました。

(4) コースの指導状況

当科は、認知症の専門的な診断、統合失調症およびうつ病などの難治症例、身体合併症例など幅広い領域に対応しています。専攻医は、指導教官の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、適切な診断のうえで、薬物療法、精神療法、修正型電気痙攣療法、作業療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行うことになります。研修の過程でほとんどの精神疾患の診断と治療についての基礎的な、そして実践的な知識を身につけることが可能です。指導には、精神保健指定医および日本精神神経学会指導医が責任をもって指導に当たっています。特に、万遍なく各疾患群が担当できるように配慮し、目標とする資格認定ができるだけスムーズにいくようにしております。

また、近畿圏の主要な総合病院を連携施設として有しており、身体合併症を有する精神疾患およびリエゾン精神医学を中心とした精神医療の研鑽を行うことが可能です。さらに、大阪府内の主要単科精神病院を連携施設として有しており、地域の精神医療、司法精神医学、児童精神医療、地域型認知症センターにおける精神科臨床などの研鑽を行うことが可能です。専攻医はこれらの施設をローテートしながら、臨床精神科医として幅広い能力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能です。

精神医学は脳神経科学の進歩に伴い、生物学的理解が著しく進歩したと考えらますが、専攻医に対しては例えば認知症の診断・治療の進歩、精神疾患における分子生物学的理解の進歩などを含めた新しい知識の共有に務めています。さらに、心理学的、社会的な次元、実存的・哲学的な人間学的問題に対する理解を深化させるべく努めています。結果として、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてにおいて包括的な理解を深め、精神科医として質の高い臨床能力を培っていただきたいと考えています。



作業療法

(5) 専門医の取得等

学会等名	厚生労働省
資格名	精神保健指定医
資格要件	精神保健福祉法の規定による（臨床経験は上表参照）
【学会の連携等の概要】 当院は医療保護入院、措置入院を受け入れており、資格取得可能な病院であり、関連する単科精神病院も同様です。	

学会等名	日本精神神経学会
資格名	精神科専門医
資格要件	日本精神神経学会専門医制度の規定による（臨床経験は上表参照）
【学会の連携等の概要】 当大学病院および関連施設は全て学会認定施設である。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 神経科・精神科

担当者 田上 真次

✉ tagami @ psy.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ 旧HP : <http://www2.med.osaka-u.ac.jp/psy/>
 新HP : <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/psy/>
 (移行期のため新旧のURLを掲載しています)



旧HP

新HP

脳神経外科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学プログラム（以下、本プログラム）は、日本脳神経外科学会の定める「日本脳神経外科学会専門医認定制度」に基づいています。なお、脳神経外科は、日本専門医機構の定める19の基本領域の1つになっています。

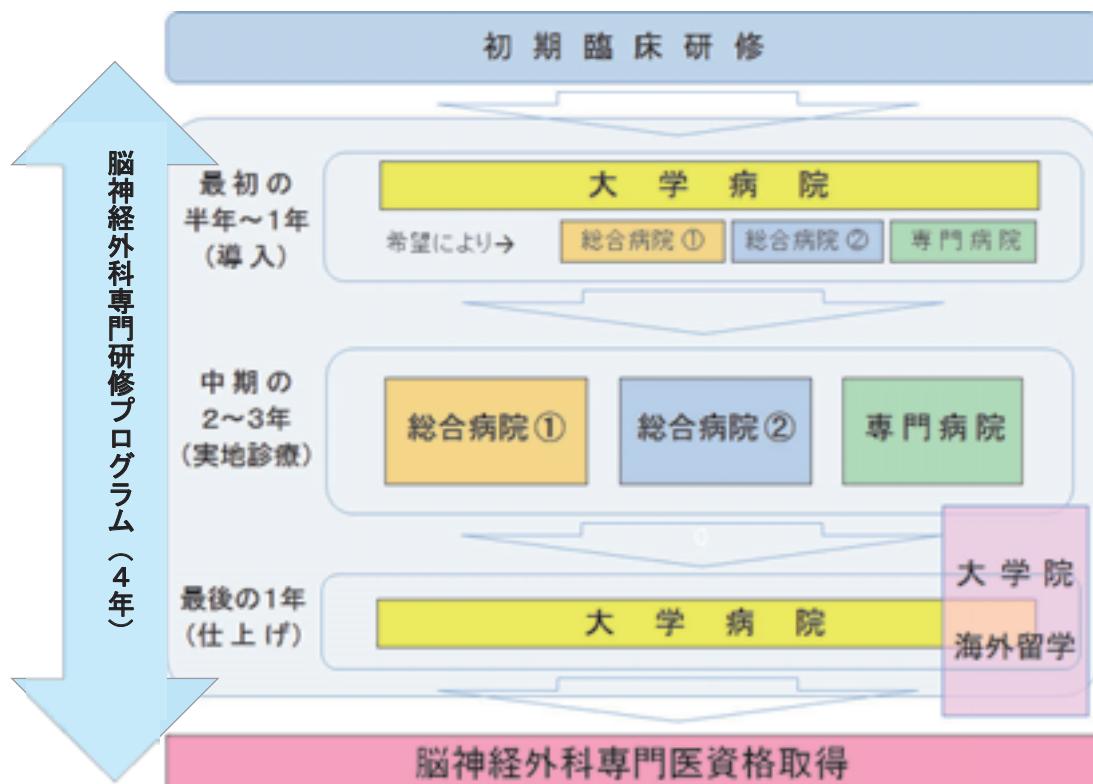
本プログラムは、全国で最大規模のプログラムの一つであり（年間手術件数7,000件）、阪大病院を基幹施設として、連携施設（21施設）と関連施設（8施設）から構成されています。連携施設とは、日本脳神経外科学会が定める指導医要項を満たす指導医が2名以上常勤している施設で、関連施設とは、基幹施設と連携施設による研修を補完する施設（限られた専門領域、地域医療など）のことです。

脳神経外科は、脳卒中や外傷といった救急疾患、神経膠腫や髓膜腫などの腫瘍性疾患、てんかんやパーキンソン病などの機能的脳疾患、脊椎脊髄疾患、小児脳神経外科疾患など、さまざまな疾患を治療対象としていますが、本プログラムでは、これらすべての臨床経験を積めるよう策定されています。

最初の半年～1年は、基幹施設である大阪大学医学部附属病院で研修を開始します。ここでは、基礎的知識や診療技術を習得し、脳神経外科の全貌を把握することを目的としています（ただし、初期臨床研修を行った施設でそのまま研修を開始したい場合には、適宜希望に沿えるよう調整します）。その後の2～3年は、連携施設において実践的診療を経験します。連携施設の中には、①規模が大きく手術数の多い総合病院、②地域の拠点病院として脳神経外科全般の診療に当たる病院、③特定の疾患を多数治療する専門病院、などがあります。病院ごとに診療内容が異なりますので、複数の施設で研修し、脳神経外科で扱うすべての疾患に対する診療能力をつけてもらえるように調整しています。

最後の1年は、阪大病院に戻り、より先進的な診療技術を習得して研修の仕上げを行います。

本プログラムを終了すると日本脳神経外科学会専門医試験の受験資格が得られます。また連携施設のなかには、脳卒中、脳血管内治療、脊髄外科、神経内視鏡手術、定位・機能外科、小児神経外科など、さまざまな学会の認定研修施設も多く、各施設での診療経験をもとに、将来、専門医・認定医の受験資格も得ることができます。



(2) プログラムの概要

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
<基幹施設> 阪大病院	脳神経 外科	脳神経外科全般 (脳腫瘍、脳血管 障害、機能的疾患 、脊椎脊髄疾患、 小児脳神経外科疾 患など)	12名	<導入> 脳神経外科の基礎 的知識・診療技術 の習得 <仕上げ> 先進的診療技術の 習得と手術(術者)	5名×2	0.5～1年
<連携施設1> 大規模総合病院 ・大阪医療センター ・関西労災病院 ・りんくう総合医療センター など	脳神経 外科	脳神経外科全般 (脳腫瘍、脳血管障害、小児脳神経外科、機能的疾患などに部分的に特化)	各施設 3～5名	脳神経外科全般の 診断、患者管理、手 術	連携施設 併せて20 名	各施設 1～2年
<連携施設2> 地域の中核病院 ・堺市立総合医療センター ・市立豊中病院 ・愛仁会高槻病院 ・JCHO大阪病院 ・大阪労災病院 など	脳神経 外科	脳神経外科全般	各施設 2名	脳神経外科全般の 診断、患者管理、手 術	同上	同上
<連携施設3> 専門病院 ・大阪国際がんセンター ・大阪母子医療センター ・大阪脳神経外科病院 ・阪和記念病院 ・医誠会病院 など	脳神経 外科	脳卒中、神経外傷 、脊椎脊髄	各施設 3～6名	脳卒中・頭部外・脊 椎脊髄疾患の診断 、患者管理、手術	同上	同上

(3) プログラムの実績

大阪大学医学部附属病院脳神経外科では年間約600例の手術が行われ、1年間で研修医一人当たり100例以上の経験を積むことができます。診療対象となる疾患は、脳腫瘍、脳血管障害、小児脳神経疾患、脊椎脊髄疾患、機能的脳疾患など多岐にわたり、脳神経外科診療のすべての領域をカバーしています。これらの多彩な疾患を経験することで、脳神経外科学全体を理解するのみならず、将来自分が専門とする診療領域(サブスペシャリティー)の最先端知識や高度な治療技術も習得することができます。

また、連携施設のうち、総合病院(連携施設1および2)では大学病院と同じく脳神経外科全般の診療が可能であり、専門病院(連携施設3)では脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊椎脊髄疾患を集中的に経験することができます。

大阪大学脳神経外科の研修プログラムで経験できる症例数や診療内容は、脳神経外科学会の研修基準をはるかに上回りますので、本プログラムを修了することにより、脳神経外科専門医試験受験資格を得ることができます。代々受け継がれてきた受験対策や、専門医試験受験前の講習も充実しており、本プログラムから毎年5～10名程度の専門医が誕生しています。

(4) プログラムの指導状況

阪大病院には13名（2021年4月現在）、各連携施設には2名以上の脳神経外科専門医・指導医が配置されており、基礎的知識から応用技術に至るまで、懇切丁寧に指導しています。また、定期的に阪大研修プログラムに参加している専攻医を集めて、顕微鏡手術やカテーテル手術の練習会（ハンズオン）も開催しています。

研修プログラム施設には、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術認定指導医、日本脊髄外科学会専門医・指導医、リハビリテーション専門医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本てんかん学会指導医・専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本定位機能神経外科学会技術認定医、小児神経外科学会認定医などの有資格者が多数配置されていますので、それぞれの分野における専門的な指導を受けることができます。また、これらの指導医のもとで研修を積むことにより、将来、さまざまな認定医資格を取得する機会を得ることができます。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本脳神経外科学会
資格名	日本脳神経外科学会専門医
受験資格要件	<p>上記の専門医資格は、年1回の筆記試験及び口頭試問に合格することで得ることができます。これらの試験を受けるためには、以下に記した受験資格要件を満たし、委員会による受験資格審査を通過しなければなりません。</p> <p>＜受験資格＞</p> <p>卒後臨床研修2年の後、日本脳神経外科学会が定める研修プログラムのもとで通算4年以上の研修が必要です。また、この間少なくとも3年以上は脳神経外科臨床に専従しなければなりません。（基幹施設および連携施設に通算3年以上在籍し、そのうち基幹施設には最低6ヶ月在籍する必要があります。また、日本の医師免許証を有しない外国人医師は、所定の訓練場所で少なくとも2年以上脳神経外科の臨床に専従することが必要です。）</p> <p>なお、プログラム統括責任者の判断により、脳神経外科医以外の関連学科（神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等）での研修も可能です。</p> <p>次に、日本脳神経外科学会が指定する症例経験目標の一覧表および到達目標評価を記入した研修記録帳を、専門医認定委員会に提出する必要があります。ちなみに、2015年（平成27年）以降に研修を開始された方の症例経験目標数は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳腫瘍は30例（10例は良性脳腫瘍、10例は悪性脳腫瘍） ・脳血管障害は40例（10例は虚血性脳血管障害、10例は脳内出血、10例はくも膜下出血） ・外傷は20例 ・脊椎・脊髄は10例 ・小児と機能系疾患はそれぞれ5例ずつ ・その他として、終末期患者の管理およびリハビリ期患者の管理をそれぞれ5例ずつ <p>また、基本的手技や個々の手術経験についても、経験目標数が設定されており、代表的な手術については以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳腫瘍手術は20例 ・脳動脈瘤やAVM手術は10例 ・脳内血腫除去術、頭蓋内外バイパス術、頸動脈内膜剥離術は5例 ・その他、戦闘術10例、シャント術10例など <p>それ以外にも、研修期間中に学会発表を2回以上行うことや、論文1編以上（英文和文を問わない）が採択受理されていることなどの基準がありますが、詳しくは、日本</p>

	<p>脳神経外科学会のホームページ (http://jns.umin.ac.jp/residents/training_program) をご覧ください。</p> <p>また、受験資格を得るために、少なくとも4年以上日本脳神経外科学会の正会員であり、所属するプログラム統括責任者に「日本脳神経外科学会専門医認定を受ける資格がある」と認められている必要があります。日本の医師免許証を有しない外国人医師については、少なくとも2年以上日本脳神経外科学会の賛助会員であり、所定の施設で少なくとも2年以上の脳神経外科の臨床に専従し、プログラム責任者に認定を受ける資格があると認められる必要があります。外国において訓練の一部又は全部を受けた者についての受験資格審査は個別に認定委員会が行います。</p>
<p>【学会の連携等の概要】 新研修医制度になってから上記の規定が厳格に適用されており、研修記録帳の記載が必須となっています。</p>	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 脳神経外科

担当者 谷 直樹

 n-tani @ nsurg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ 旧HP : <http://www2.med.osaka-u.ac.jp/nsurg/>
新HP : <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/nsurg/>
(移行期のため新旧のURLを掲載しています)



旧HP

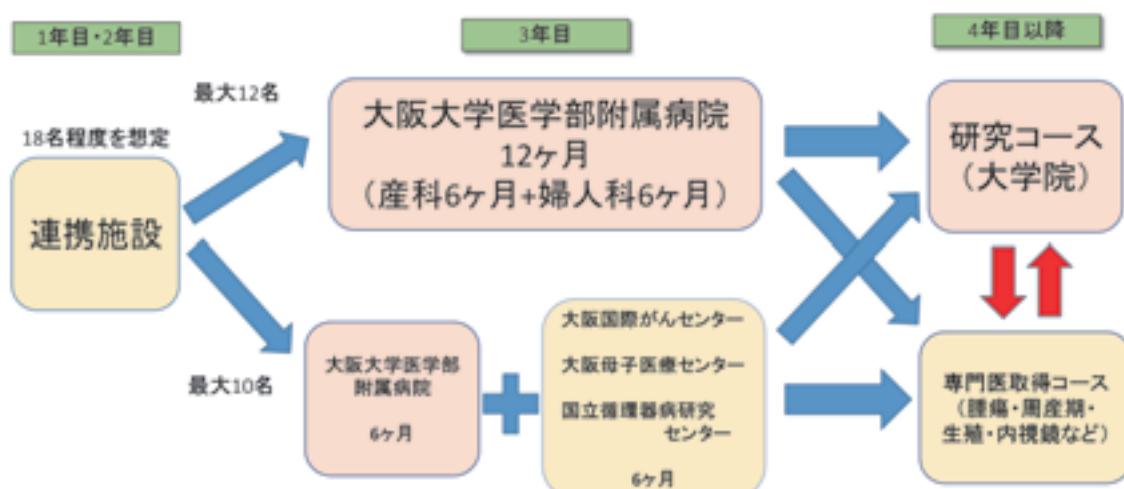
新HP

産婦人科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

最初の3年間をI期とし、2年を一般病院で、1年を大学で過ごし、産科・婦人科・生殖医療の産婦人科3領域を満遍なく経験した上で産婦人科専門医を取得する。II期は、大学での基礎的・臨床的研究または3つのセンター病院での臨床研究を行いながら臨床活動を行うか、地域医療を担う公的医療機関で高いレベルの産婦人科医療の実践を行う。前者は4年間、後者は2年間×2施設を循環することで多様な医療技術を身につける。III期は、総合・地域周産期センター、婦人科腫瘍修練施設でそれぞれの指導医獲得を目指すか、または地域医療を担う公的医療機関で高いレベルの産婦人科医療の実践を行う。各人の医療習得段階と目標に合わせて、多彩な関連病院とセンター病院、大阪大学の間を循環することにより、医師としてのキャリアアップ、スキルアップを図り、総合的な実力と学問的能力を兼ね備えた各分野指導医の輩出を目指す。

大阪大学産婦人科研修プログラム



(2) プログラムの概要 (A:産婦人科専門医、B:婦人科腫瘍専門医、C:周産期(母体・胎児)専門医、D:生殖医療専門医、E:産婦人科内視鏡技術認定医、各資格取得のための指導施設)

コース名： 産婦人科専門医コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部 附属病院	産婦人科	産科・婦人科・ 生殖医療(総合 周産期センタ ー・地域がん拠 点病院) A/B/C/D/E	18名	I期：産婦人科専門医取得の ための総合的研修 II期：専門医取得後のアカ デミックマインドの養成 III期：周産期・腫瘍・生殖 ・内視鏡指導医獲得のため の研修	I期：12人 II期：12人 III期：8人	I期：1年 II期：4年 III期：3年
大阪国際がんセ ンター	婦人科	婦人科(がん拠 点病院) A/B	4名	II期：専門医取得後のアカ デミックマインドを持ちな がら腫瘍指導医獲得のため の研修	II期：4人	II期：4年

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪労災病院	産婦人科	産婦人科(がん 拠点病院) A/B/E	5名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・内視鏡指導医 獲得のための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
関西労災病院	産婦人科	産婦人科 A/B	5名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍指導医獲得のた めの研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
大阪急性期・総 合医療センター	産婦人科	産婦人科 A/B/C/D/E	5名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・内視鏡指導医 獲得のための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
大阪母子医療セ ンター	産科	産科(総合周産 期センター) A/C	8名	II期:専門医取得後のアカ デミックマインドを持ちな がら周産期指導医獲得のた めの研修	II期:4人	II期:4年
国立循環器病研 究センター	産科	産科(地域周産 期センター) A/C	8人	II期:専門医取得後のアカ デミックマインドを持ちな がら周産期指導医獲得のた めの研修	II期:4人	II期:4年
愛染橋病院	産婦人科	産婦人科(総合 周産期センタ ー) A/C	5人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:周産期指導医獲得の ための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
りんくう総合医 療センター・市 立貝塚病院連合	産婦人科	産婦人科(地域 周産期センタ ー) A/B/C/E	12人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・生殖・内視鏡 指導医獲得のための研修 (貝塚)・周産期(泉佐野) 指導医獲得のための研修	I期:4人 III期:4人	I期:2年 III期:3年
市立豊中病院	産婦人科	産婦人科(地域 周産期センタ ー) A/C/E	4人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:周産期・内視鏡指導 医獲得のための研修	I期:3人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
市立伊丹病院	産婦人科	産婦人科 A	3人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 II or III期:地域における 高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期 :2人	I期:2年 II or III期: 原則2年間
大阪警察病院	産婦人科	産婦人科 A/B	5人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 II or III期:都市部におけ る高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期 :2人	I期:2年 II or III期: 原則2年間

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
地域医療機能推進機構 (JCHO) 大阪病院	産婦人科	産婦人科 A/D/E	4人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:都市部における高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
済生会中津病院	産婦人科	産婦人科 A	3人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:都市部における高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
堺市立総合医療センター	産婦人科	産婦人科 A/B/E	5人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:地域における高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
市立吹田市民病院	産婦人科	産婦人科 A	4人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:地域における高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
兵庫県立西宮病院	産婦人科	産婦人科 A	4人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 III期:地域における高度産婦人科医療の実践	I期:3人 III期:2人	I期:3年 III期:原則2年間
日本生命病院	産婦人科	産婦人科 A/E	5人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:内視鏡指導医獲得のための研修	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
阪南中央病院	産婦人科	産婦人科(地域周産期センター) A/C	3人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:地域における高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
ベルランド総合病院	産婦人科	産婦人科(地域周産期センター) A/C	5人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:周産期指導医獲得のための研修	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
箕面市立病院	産婦人科	産婦人科 A/E	5人	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期:内視鏡指導医獲得のための研修	I期:2人 II or III期:2人	I期:2年 II or III期:原則2年間
				受入人数	20人	

(3) プログラムの実績

大阪大学とその関連病院合計してH29年15名、H30年16名、R1年14名、R2年には17名が産婦人科の専攻を開始した。従って毎年この程度の数の新規専攻医が加入すれば、上記のように大学・センター病院のI/II期では1学年数名の医師が、それら以外は1学年1名の医師が各施設でトレーニングすることになる。大阪大学大学院もH29年11名、H30年9名、R1年8名、R2年には10名の医師が入学しており、II期のアカデミックトレーニングも十分に行うことができる。

(4) プログラムの指導状況

各病院には十分な数の産婦人科専門医が勤務しており、後進を指導している。婦人科腫瘍、周産期医療、生殖医療、婦人科内視鏡それぞれの指導医が II 期、III 期を担当する指導医獲得を目指す、と記した病院に勤務している。指導医獲得のためには相当数の学術論文が必要であり、大阪大学産婦人科は年間 40 報程度の英文論文を発表しており、十分な論文産生能力を持つ。

(5) 専門医の取得等

資格名	① 産婦人科専門医（日本産科婦人科学会） ② 周産期（母体・胎児）専門医（日本周産期・新生児医学会） ③ 婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会） ④ 生殖医療専門医（日本生殖医学会） ⑤ 産科婦人科内視鏡技術認定医（日本産科婦人科内視鏡学会）
資格要件	① 3 年間の指導施設での勤務と症例経験、試験など。 ② ①取得後、3 年間の指導施設での勤務、症例、論文、試験。 ③ ①取得後 5 年間の修練施設での勤務、手術症例、論文、試験。 ④ ①取得後 3 年間の修練施設での勤務、症例、論文、試験。 ⑤ ①取得後、症例、論文、ビデオ審査、試験。
【学会の連携等の概要】	
②～⑤の各サブスペシャルティ専門医取得のためには、①の産婦人科専門医の取得が前提となっている。	



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 産婦人科

担当者 富松 拓治

✉ heichi@gyne.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gyne/www/html/kyoku_top.html



小児科専門研修プログラム

(1) 大阪大学小児科専門研修プログラムについて

大阪大学医学部附属病院小児科専門研修プログラムでは、3年間のうち2年を関連市中病院で研修し、1年を大阪大学病院で研修することで、一般小児診療と高度専門医療の両方を経験し習得します。

関連市中病院では、感染症やアレルギー疾患を中心とした一般小児科外来、予防接種や乳児健診などの公衆衛生行政への参加、さらには中等症以上の患者さんに対する入院診療が中心になります。さらに、新生児集中治療や新生児蘇生法などの周産期医療も学びます。大阪大学病院ではそうした common disease 以外に、移植医療や小児がん、様々な希少疾患など非常に専門性の高い疾患を診療し、最先端の臨床研究や治験などの経験も積むことができます。研修途中であっても、自分が興味を持った診療分野について、他の病院で短期的に研修する制度も導入しています。各病院との調整の時間は必要ですが、より幅広い研修をしてもらいたいと思います。

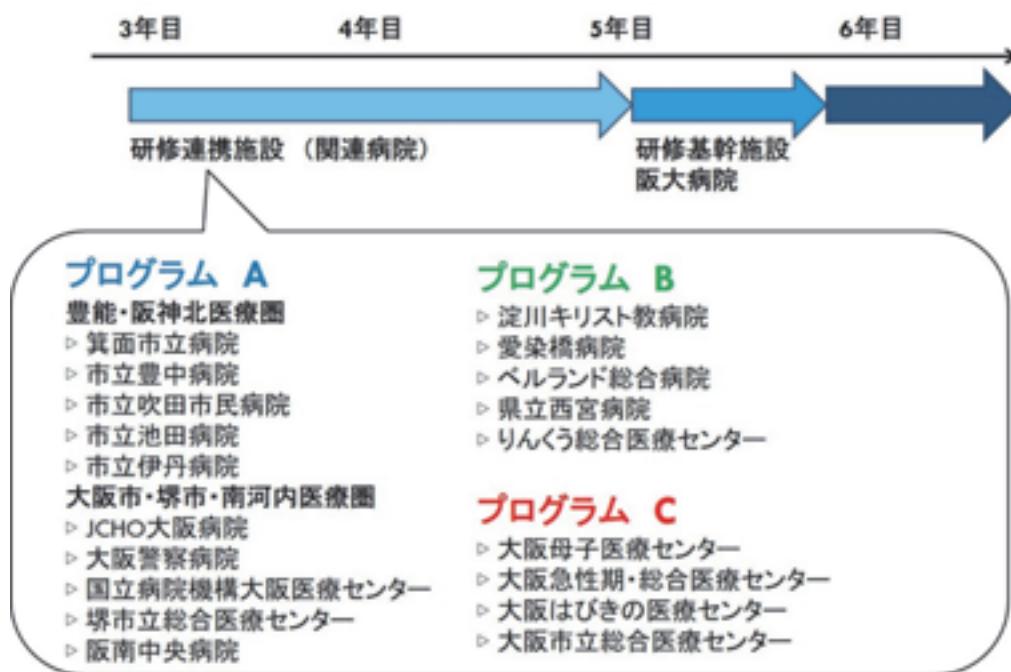
(2) プログラムの内容について

2017年度から、日本小児科学会は新専門医制度に対応しました。大阪大学小児科でも、この研修制度改定に合わせて、3種類のプログラムを準備しました。

プログラム A： 大阪大学関連市中病院を中心とする総合小児科コース

プログラム B： 関連病院の中でも周産期センターに指定された施設で研修する NICU 重点コース

プログラム C： 小児専門医療機関と連携し、サブスペシャルティの早期形成を目指すコース



さらに2020年度からは大阪大学小児科プログラムの特色として、全専攻医対象に「発達障害診療研修制度」を導入しています。こどものこころ分子統御機構研究センターとの共同により、近年ますます重要性の高まっている発達障害診療について、各種発達検査やワークショップを行い、より深く研修することが可能です。

(3) 研修が終わったら

1) 専門医試験を受験し小児科専門医を取得できます

3年間の研修が終われば、小児科専門医を取得できます。論文執筆、症例要約、専門医試験合格という、3つの関門がありますが、大阪大学小児科専門研修プログラムの中では、多くの優れた指導医があり、それぞれを丁寧に指導します。

2) さまざまな進路があります

これまでの大阪大学小児科の卒業生たちも、その後いろいろな道を選んで各方面で活躍しています。

・一般小児診療： 関連市中病院において地域診療の第一線を担います。そのまま病院で働く人、開業する人、他地域の大学病院や専門病院に行く人もおり、進路は自由です。

大阪大学小児科の関連病院は、大阪府内と阪神間の主要基幹病院がほとんどで、都市部にのみ存在しております。多くの上級医や仲間たちとともに、多種多様な症例や、数多くの小児患者さんを診療することができます。

・専門診療： 大学病院やこども病院などでサブスペシャルティの道を究めます。大阪大学小児科には、腎・骨代謝、栄養・消化器、内分泌、血液・腫瘍、循環器、神経・神経代謝・発達、新生児といった、多彩なグループがあり、関連病院には、大阪母子医療センター等こども専門病院もあります。いずれも全国で指導的な役割を担う医師が多数在籍しています。小児科専門医を取得したのち、さらに、小児神経、小児循環器、周産期・新生児、小児血液・がん、血液、内分泌、小児栄養消化器肝臓、臨床遺伝などのサブスペシャルティ専門医を取得することができます。

・基礎研究： 大学院に進学して基礎研究をする人も多くいます。実際の臨床現場では、まだまだ現代医学では未解明な謎や、治せない子供たちが沢山います。病態の解明や新規治療法の開発など、臨床現場を知っている医師研究者は基礎研究においても非常に大切です。まずは博士を取得することが一つの目標ですが、大阪大学小児科では積極的な海外留学をすすめており、多くの先輩が2～3年の海外留学を経験しています。その後、臨床に戻る人だけでなく、そのまま基礎研究の世界で活躍する先輩も多くいます。

（4）終わりに

大阪大学小児科では、どのような希望をもった専攻医にも満足してもらえるような研修システムと進路を準備しています。医局員が多いということはすなわち、多くのロールモデルとなる先輩たちがいて、多彩なキャリアパスを皆さんに提示することができ、かつ医師としての横の広いつながりやコネクションが得られることを意味します。また、多くの女性医師が在籍し、妊娠や出産のあとも、それぞれの専門性や独自性を生かして、ワークライフバランスをとりながら幅広く活躍しています。

見学や進路相談も積極的に行ってています。詳細はHPもご覧ください。子どもに関わる仕事がしたい、子どもの成長をサポートしたいという方は、是非大阪大学小児科に来てください。お待ちしています。



問い合わせ先

■大阪大学大学院医学系研究科小児科学

臨床研修担当委員 石田 秀和

石井 良

✉ ikyoku@ped.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/ped/www/>



泌尿器科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

泌尿器科専門医は2年間の初期臨床研修が終了し、後期専門研修が開始した段階から開始され4年間の研修で育成されます。基本的には4年間のうちの半年から1年間の研修を基幹施設（大阪大学医学部附属病院泌尿器科）で行い、その後2年次、3年次、4年次の研修は連携施設の中でも特に症例の多い拠点病院で行います。

大阪大学泌尿器科専門研修プログラムは、大阪大学医学部附属病院を基幹施設とし、29の連携施設から構成されています。ほとんどの施設が症例の多い拠点病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。ロボット支援手術や腹腔鏡手術などの最先端医療、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャルティ領域の研修も十分に経験できます。さらに、基幹施設である大阪大学医学部附属病院では、臨床研究や基礎研究を行うことができます。また専門研修後には、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。

(2) プログラムの概要

大阪大学泌尿器科専門研修プログラムでは、基本的には4年間のうち一定期間の研修を基幹施設（大阪大学医学部附属病院泌尿器科）で行い、連携施設の中でも特に症例の多い拠点病院で研修を継続します。連携施設はそのほとんどは症例の多い拠点病院であり効率的な研修が可能です。

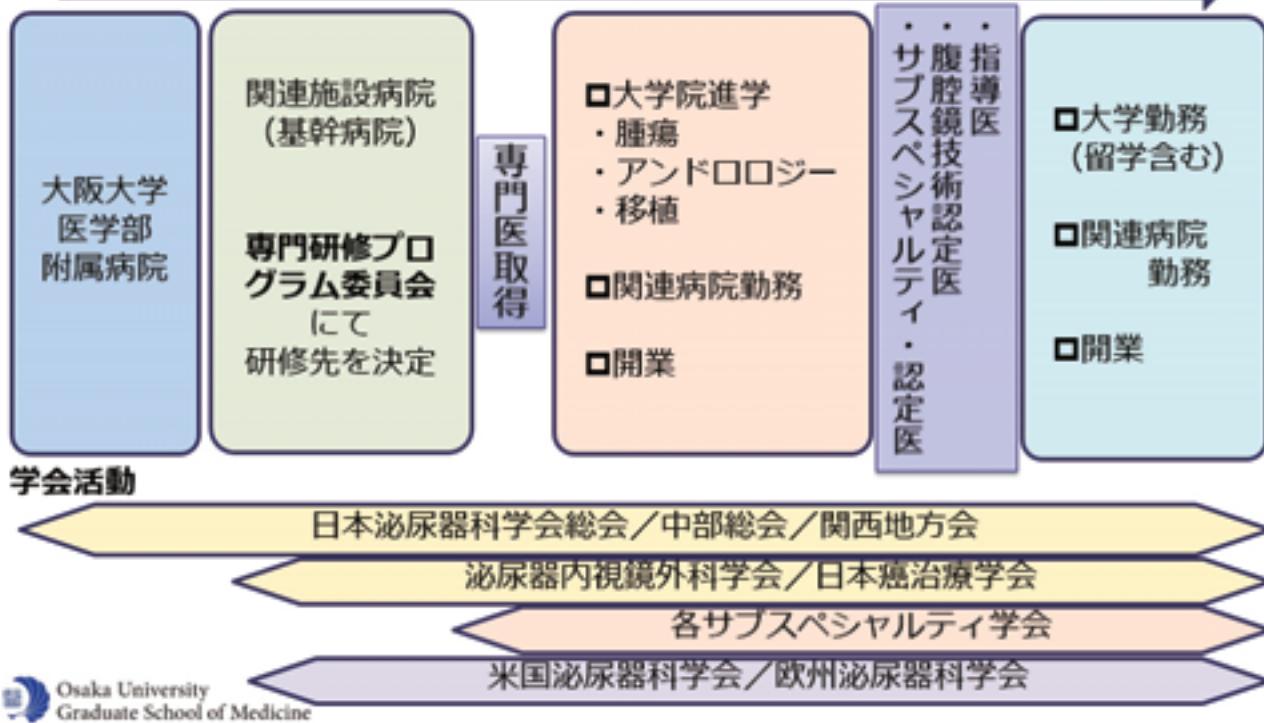
泌尿器科専門研修プログラム

1年目

2-4年目

5-10年目

10年目以降



(3) プログラムの実績

専攻医はロボット支援手術や腹腔鏡手術などの最先端医療、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャルティ領域の研修も十分に経験できます。施設全体での年間手術件数は約9400件にのぼり、量的にも十分な研修が可能です。以下の表に示すように、施設毎に様々な病院機能を有し、一般泌尿器科以外に、泌尿器科特殊専門領域についても診療を行う施設があります。

大阪大学泌尿器科専門研修プログラム基幹・連携施設

施設名	日本泌尿器科学会教育施設	年間手術件数	腹腔鏡手術	ロボット支援手術	体外衝撃波治療	透析	その他
大阪大学	基幹	447	○	○		○	リプロダクションセンター 腎移植
大阪急性期・総合医療センター	基幹	794	○	○	○	○	生殖医療センター 腎移植
大阪労災病院	基幹	678	○	○	○	○	
大阪警察病院	基幹	734	○	○	○	○	女性泌尿器科
兵庫県立西宮病院	基幹	643	○	○	○	○	腎移植
市立豊中病院	基幹	630	○	○	○	○	
市立池田病院	基幹	565	○		○	○	
住友病院	基幹	342	○	○	○	○	
大阪国際がんセンター	基幹	273	○	○			
大阪中央病院	基幹	350	○	○	○		女性泌尿器科
国立病院機構大阪医療センター	基幹	362	○		○	○	
市立東大阪医療センター	基幹	764	○	○	○	○	
箕面市立病院	基幹	428	○	○	○	○	
堺市立総合医療センター	基幹	370	○	○	○	○	
済生会千里病院	基幹	208	○	○	○	○	
近畿中央病院	基幹	260	○		○	○	
JCHO 大阪病院	基幹	102	○		○	○	
日本生命病院	基幹	224	○		○	○	
JCHO 大阪みなと中央病院	基幹	102	○		○	○	
大手前病院	基幹	233	○		○	○	
市立川西病院	基幹	88			○	○	
大阪母子医療センター	基幹	461	○				小児泌尿器科
小松病院	関連	172			○		
友絃会総合病院	関連	41			○		
吹田徳洲会病院	関連	14	○	○	○	○	
おかたに病院	関連	55			○		
関西メディカル病院	関連	--	○				
近畿大学病院	関連	677	○	○	○	○	
近畿大学奈良病院	関連	420	○	○	○		
鳥取大学病院	関連	504	○	○	○	○	低侵襲外科センタ

(4) プログラムの指導状況

大阪大学泌尿器科専門研修プログラムはすべての施設において泌尿器科指導医が常勤しています。施設毎に様々な病院機能を有し、一般泌尿器科以外に、泌尿器科特殊専門領域についても診療を行う施設があります。年2回、9月と3月に、指導医による形成的評価とそれに基づく各地域プログラム管理委員会による評価を実施します。

最終研修年度(専門研修4年目)の研修を終えた4月に研修期間中の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を総合的に評価し、専門的知識、専門的技能、医師として備えるべき態度を習得したかどうかを判定します。また、ローテーション終了時や年次終了時等の区切りで行う形成的評価も参考にして総括的評価のための測定を行います。

(5) 専門医の取得等

学 会：日本泌尿器科学会

資 格：泌尿器科専門医

資格要件：各専門医プログラムの修了(4年間)、日本泌尿器科学会が認定する講習などの受講や論文学会発表による
単位取得、専門医試験(書類審査、筆記試験、口頭試験)の合格。

サブスペシャルティ：泌尿器科専門医取得後、がん治療、生殖医療、移植医療、排尿機能、内視鏡外科、内分泌外科等
各種学会と連携し、各学会の専門医・認定医の取得が可能である。



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 泌尿器科

担当者 河嶋 厚成

✉ kawashima @ uro.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.osaka-urology.jp/8/28.html>



放射線科専門研修プログラム

放射線画像診断・IVR コース／核医学コース／放射線治療コース

（1）プログラムの全体像

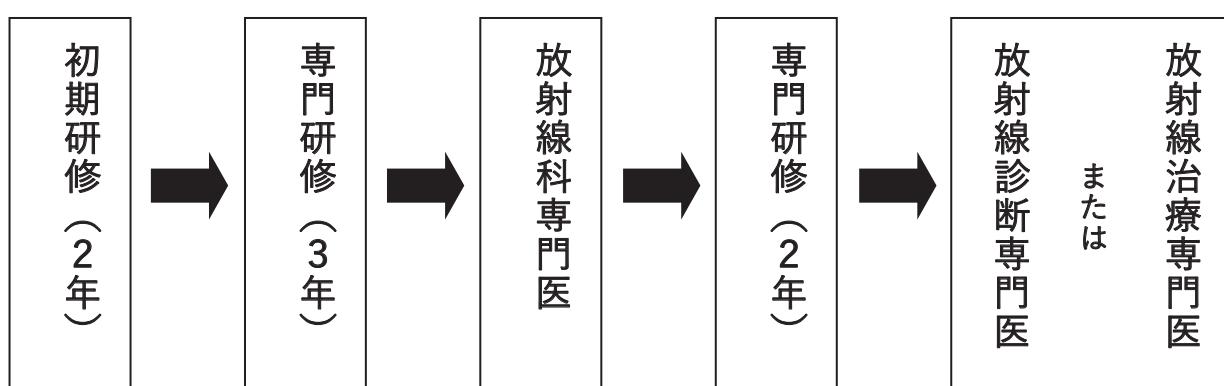
本プログラムは、「基本領域」と「サブスペシャルティ領域」の2段階の専門研修制度で構成されている。すなわち、まず「基本領域」である放射線科専門研修を修了した後に、「サブスペシャルティ領域」として各分野の専門研修を積む流れとなっている。

はじめの放射線科専門研修では、専門研修基幹病院（大阪大学医学部附属病院）および専門研修連携施設において、大阪大学関連病院群放射線科専門研修プログラムに沿って通常3年間の放射線科領域の研修が行われる。放射線科専門医の認定を取得するためにはこの専門研修を修了した上で、放射線科専門医試験に合格する必要がある。

大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学講座は、放射線医学（放射線診断・IVR科）、核医学（核医学診療科）、放射線治療（放射線治療科）の3つの講座（診療科）から構成されているが、いずれの講座に入局しても最初は本プログラムに沿った研修を受けることになっている。そのため、これらの科に入局し専門医の取得を目指す場合は、大阪大学関連病院群専門研修プログラムに応募する必要がある。このプログラムでは最低1年間は専門研修基幹施設である大阪大学医学部附属病院で研修することを原則としている。基幹施設での1年間の研修では、頭部・核医学診療を3か月、胸部診断を3か月、腹部診断・IVRを3か月、放射線治療を3か月でローテーションする。残りの2年間は基幹施設または連携施設において放射線診断・IVR、核医学、放射線治療それぞれの専門を中心とした研修を行う。

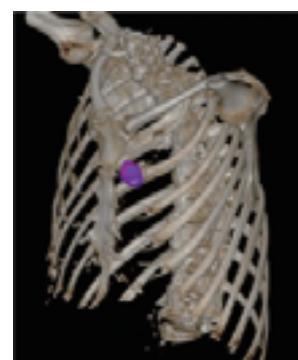
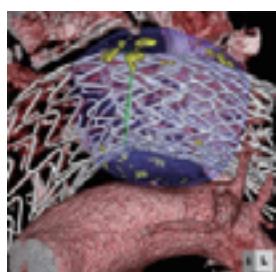
放射線科専門医認定の取得後は、サブスペシャルティ領域の専門研修に移行する。放射線診断・IVR科および核医学診療科では放射線診断専門医（日本医学放射線学会認定）、放射線治療科では放射線治療専門医（日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定）の取得をめざすことになるが、さらに2年間の専門研修を積む必要がある。他のサブスペシャルティの専門医資格としては、PET核医学認定医および核医学専門医（いずれも日本核医学学会認定）などがあり、それぞれ、核医学診療経験が3年以上、教育病院での研修が5年以上などの条件が課せられている。また、IVR専門医（日本IVR学会認定）では、受験資格の取得のために放射線診断専門医取得後、日本IVR学会認定の専門医修練施設において2年以上研修を積む必要がある。

大学院への入学は隨時可能であり、臨床修練と平行して、放射線診断・IVR、核医学、放射線治療に関する臨床または基礎研究に携わり4年間で医学博士の取得をめざす。



(2) プログラムの概要

放射線科コース（基幹病院と連携病院で計5年の研修を行う）						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
基幹病院： 大阪大学医学部附属病院	放射線診断・ IVR科	放射線診断・ IVR	大阪大学医学部附属病院： 29名	放射線診断・ IVR	12名	5年
連携病院： 【総合修練機関】 国立病院機構大阪医療センター、 大阪国際がんセンター、大阪急性期総合医療センター、住友病院、 大阪労災病院、関西労災病院、関西医科大学附属病院	核医学診療科	核医学	連携病院： 各病院あたり1~7名	核医学		
【修練機関】 市立吹田市民病院、市立豊中病院、 八尾市立病院、市立池田病院、阪南 中央病院、箕面市立病院、日本生命 病院、近畿中央病院、西宮市立中央 病院、市立貝塚病院、第二大阪警察 病院（旧NTT西日本大阪病院）、 堺市立総合医療センター、済生会 千里病院、りんくう総合医療セン ター、近畿中央呼吸器疾患センター	放射線治療科	放射線治療		放射線治療		
【特殊修練機関】 都島放射線科クリニック、大阪母子 医療センター						
				受入人数	12名	



(3) プログラムの実績

<放射線診断・IVR>

大阪大学医学部附属病院は超音波・CT・MRI・血管造影・X線TV装置など高度の画像診断装置を備え、2020年度のCT検査は年間45,000件以上、IVRは1,190件の放射線診断および診療を行っており、放射線科専門医の育成のみではなく、放射線科診断専門医及びIVR専門医取得後も臨床経験等を積み重ねるなど生涯教育に貢献している。2021年度には新たに5名の後期研修医（3名は大阪大学、2名は連携施設）が入局し、放射線科専門医を目指して、日々努力を重ねている。

<核医学>

大阪大学医学部附属病院では、最新型のSPECT-CT装置、ガンマカメラを備えており、年間2800件以上の一般核医学診断ならびに放射性医薬品を用いた核医学治療を行っている。また、院内サイクロトロン施設、最新のPET/CT装置は世界有数の稼働率であり、様々なPET製剤を用いた診療を行っている。保険診療として¹⁸F-FDG PETを年間2300件以上、心筋血流・脳血流PETを年間50件以上行っている。最近8年間の実績は、核医学専門医資格取得3名、PET核医学認定医資格取得4名であった。

<放射線治療>

大学及び放射線治療機器を有する連携施設は、いずれもがん診療拠点病院（地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院を含む）であり、がん治療における地域の基幹病院として機能している。これらの施設で年間約6000人、阪大病院では年間約700人の患者さんへ放射線治療を行っている。小線源治療、高精度治療の研修にも対応している。プログラムでは、1年目の大学でのローテーション研修期間中で、専門医取得に必要とされる放射線治療症例数を経験することが可能となっている。将来的に放射線治療専門医を志望する場合は、2年目以降は放射線治療を主体とした研修となる。大学及び、2名以上の常勤放射線治療医を配置している連携施設で、各々1年間（状況によって2年間）の研修期間を予定している。放射線科専門医（治療）取得には、3年間の専攻医研修期間に加えて、引き続き基幹施設・連携施設で2年間の経験・実績を積むことが必要となる。大学院進学については隨時相談に応じている。

過去5年間で7名が放射線治療専門医を取得した。

(4) プログラムの指導状況

<放射線診断・IVR>

大阪大学医学部附属病院及び連携施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関あるいは修練機関、特殊修練機関のいずれかであり、日本IVR学会認定修練施設も含まれている。大阪大学では全身各領域の画像診断及びIVRの専門医による直接指導を行い、放射線科専門医（日本専門医機構認定）および放射線科診断専門医（日本医学放射線学会認定）をめざして指導する。IVR専門医（日本IVR学会認定）の資格取得も可能である。



<核医学>

大阪大学医学部附属病院は、上記に加えて、日本核医学会専門医教育病院の認定も受けている。放射線科専門医（日本専門医機構）、放射線科診断専門医（日本医学放射線学会認定）に加えて、一般核医学、核医学治療およびPET核医学に精通した専門医から直接指導を受けることによって、核医学専門医（日本核医学会）及びPET核医学認定医（日本核医学会）の両資格の取得も可能である。



<放射線治療>

大阪大学及び連携施設は何れも、日本医学放射線学会認定修練機関および日本放射線腫瘍学会認定施設（一部修練協力機関・準認定施設）であり、放射線治療専門医による直接指導を行い、放射線科専門医（日本専門医機構）およびその上級資格である放射線治療専門医（日本医学放射線学会および日本放射線腫瘍学会の共同認定）の両資格取得を目指して指導する。



(5) 専門医の取得等

学会等名	日本専門医機構
資格名	放射線科専門医
資格要件	修練機関で研修3年以上（1年間は基幹施設/総合修練機関での研修）
【学会の連携等の概要】	大阪大学及び関連病院は何れも日本医学放射線学会認定修練施設である。

学会等名	日本医学放射線学会
資格名	放射線診断専門医
資格要件	専門医取得後、修練機関で研修2年以上
【学会の連携等の概要】	大阪大学及び関連病院は何れも日本医学放射線学会認定修練施設である。

学会等名	日本IVR学会
資格名	IVR専門医
資格要件	放射線診断専門医取得済、かつIVR修練施設で研修2年以上
【学会の連携等の概要】	大阪大学及び関連病院の一部は日本IVR学会認定修練施設である。

学会等名	日本核医学会
資格名	核医学専門医
資格要件	教育病院で研修5年以上
【学会の連携等の概要】	大阪大学医学部附属病院は日本核医学会専門医教育病院である。

学会等名	日本核医学会
資格名	PET核医学認定医
資格要件	核医学診断経験が3年以上
【学会の連携等の概要】	大阪大学医学部附属病院は日本核医学会専門医教育病院である。

学会等名	日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会
資格名	放射線治療専門医
資格要件	放射線科専門医取得後、修練機関で研修2年以上
【学会の連携等の概要】	大阪大学及び関連病院は何れも日本医学放射線学会および日本放射線腫瘍学会認定修練機関・施設（一部修練協力機関・準認定施設）である。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 放射線診断・IVR科

担当者 梁川 雅弘

✉ m-yanagawa@radiol.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://radiol-osaka-u.com/>



■ 大阪大学医学部附属病院 放射線治療科

担当者 磯橋 文明

✉ isohashi@radonc.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www2.med.osaka-u.ac.jp/radonc/>

(移行期のため該当 HP が開かなくなる可能性があります。その場合は↓)
「大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学」で検索



■ 大阪大学医学部附属病院 核医学診療科

担当者 渡部 直史

✉ watabe@tracer.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/tracer/>



麻酔科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

＜麻酔科専門医について＞

麻酔科専門医とは、専攻医として定められた水準の研鑽を積み、麻酔科関連の臨床、研究に関する充分な知識と技量を有することを認定された麻酔科関連業務に従事する医師である。同時に専門医は医の倫理を体得していることが求められる。

＜麻酔科専門医新規申請のための要件＞

日本専門医機構認定の麻酔科専門医新規申請の要件は以下の通りである。

- (1) 医師臨床研修終了後、申請する年の3月31日までに満4年以上の機構が定める研修プログラムのもとで週3日以上麻酔科関連業務に従事し、日本専門医機構の定める所定の経験症例数を満たし、研修を修了していること。
- (2) 申請する年の日本麻酔科学会の会費を完納していること。
- (3) 申請する年の5年前の4月1日から申請する年の3月31日までの間に、所定の学術集会等への参加等の実績および研究実績があること。
- (4) 申請する年の5年前の4月1日から申請する年の3月31日までの間に、AHA-ACLS、またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し、実技試験申請時にプロバイダーカードを取得していること。

＜専門研修プログラムとは＞

「専門研修プログラム」とは、一つの基幹施設と複数の関連研修施設で構成される病院群が提供する臨床研修の実施体制のことである。専攻医は研修プログラムを実施する施設で研修を行わなければ、麻酔科専門医の認定審査に必要な資格としての専門臨床研修を行ったとは見なされない。各施設では、専攻医が麻酔科専門医にふさわしい技術を習得するための研修プログラムを提供する。4年間以上の研修プログラムを通して、バランスの取れた多くの症例を経験しながら、心臓血管外科や小児などの必要経験症例を達成できるように、施設のローテーションを研修管理委員会が調整する。

麻酔科専門医になるまでの流れ



<専門研修プログラムの運営方針>

4年以上の研修期間を通して、麻酔科専門医として必要な症例数および特殊麻酔の症例数を達成し、かつ将来的に希望するサブスペシャルティの経験を積むことができるよう、施設をローテーションする。

初めの2年間は、麻酔科医としての基礎を作るため、かつ、集中治療やペインクリニックの基礎にもなる考え方や手技を身に付けるために、おもに手術室での麻酔管理を集中的に研修する。この間に症例の規定数をできる限り達成する。また、集中治療室での短期研修（2～6ヶ月）を実施する。

残りの2年間は、手術室の麻酔科医としてさらなる研鑽を積むとともに、サブスペシャルティとして集中治療とペインクリニックを将来志望する専攻医には、専従期間を長くして集中的に研修できるようにする。

基幹施設である阪大病院には、原則として、研修期間のうち半年以上の勤務を義務とする。

<専攻医の研修プログラムの変更について>

専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを変更することができる。変更の際は、変更元と変更先双方の研修管理委員会の承認を得る必要がある。

(2) プログラムの概要

2022年度のプログラムでは、基幹施設である阪大病院と、23の連携施設が病院群を構成する予定である。プログラム申請時（2021年4月現在）での募集定員数は12名である。

基幹施設である阪大病院は、プログラムの施設の中で症例の多さと多彩さが際立っており、1年間の研修で特殊症例の規定数を、ほぼ達成することが可能である。幅広い経験と臨床分野を有する指導医が多く在籍しており、臨床と研究についてきめ細やかな指導に努めているので、専門医研修の初年度の施設として選択することを強く薦めている。

大阪府の麻酔科専攻医採用枠はシーリングによって制限されている。したがって、12名の募集定員数を削減されることが強く予想される。もし応募者数が採用枠を超えた場合には、地域枠を利用しての採用になることもある。

専門研修基幹施設	大阪大学医学部附属病院	
専門研修連携施設 A	国立病院機構大阪医療センター 大阪警察病院 関西労災病院 大阪府済生会中津病院 市立豊中病院 大阪急性期・総合医療センター 大阪国際がんセンター 国立循環器病研究センター 大阪労災病院 国立成育医療研究センター	日本生命病院 西宮市立中央病院 市立池田病院 箕面市立病院 心臓病センター榎原病院 関西医科大学附属病院 医誠会病院 大阪はびきの医療センター 国立病院機構大阪南医療センター 三重県立総合医療センター
専門研修連携施設 B	大阪母子医療センター 桜橋渡辺病院 大阪刀根山医療センター	

(3) プログラムの実績

2015年度に、日本麻酔科学会の管轄下で麻酔科専門研修プログラムが始められ、2018年度からは日本専門医機構に移管した。2015年度から2021年度までのプログラム形式での麻酔科専門研修において、麻酔科専攻医は73人在籍した（転出・転入を含む）。

専門医機構に移管して以降の専攻医の人数は、2018年度8名、19年度11名、20年度6名、21年度6名である。2020年秋の専門医試験には5名が合格し、2021年度から麻酔科専門医に認定された。

(4) プログラムの指導状況

プログラムを構成する研修施設のいずれも日本麻酔学会が認定する麻酔科指導医が部長を務める日本麻酔科学会に認定病院である。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本麻酔科学会
資格名	麻酔科専門医



問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 麻酔科

担当者 入嵩西 翔

TEL:06-6879-3133

✉ iritake @ anes.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/anes/www/home.htm>



集中治療専門医コース

(1) コースの全体像

集中治療専門医資格を取得するには下記の条件を満たし専門医試験に合格する必要がある。

- ① 指定する学会（日本麻酔科学会、日本救急医学会、日本外科学会、日本心臓血管外科学会、日本呼吸器外科学会、日本小児外科学会、日本消化器外科学会、日本内科学会、日本循環器学会、日本脳神経外科学会、日本小児科学会、日本呼吸器学会）のいずれかの専門医資格を有すること。
- ② 日本集中治療医学会の認定する集中治療専門医研修施設において1年以上の勤務歴があること。
- ③ 上記勤務歴のうち連続して12週間以上専従歴があること。
- ④ 所定の知識・技能研修修了の条件を満たしていること。

さらに専門医の受験申請には集中治療に関する学術論文（申請者が筆頭者であるものを1編以上含めて2編以上）と集中治療に関する学術集会発表（申請者が筆頭者として発表したもの1題を含む2題以上）の業績が必要である。

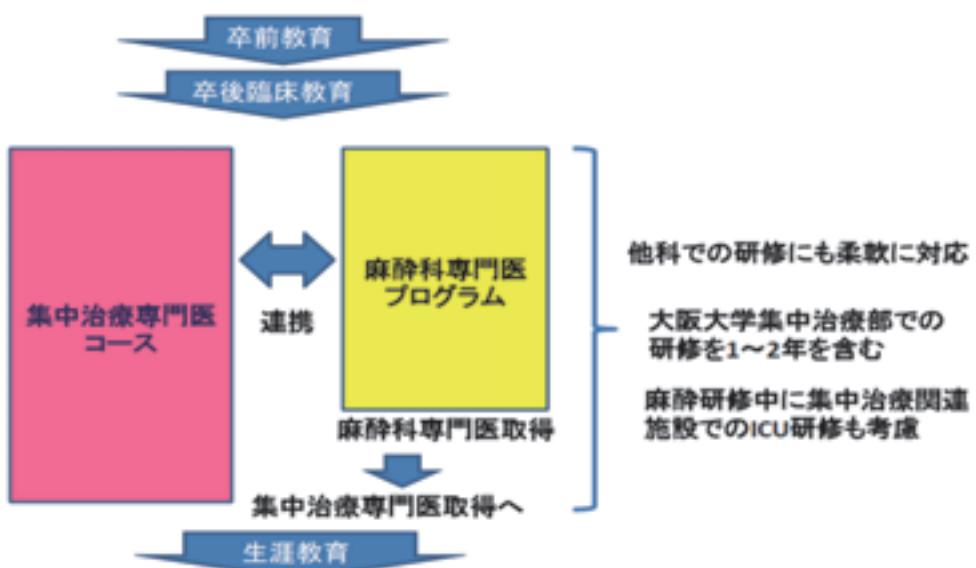
大阪大学医学部附属病院集中治療部（ICU）は、専属の集中治療医がすべての治療をおこなう完全にクローズドな集中治療を提供すると同時に、いつでも専任スタッフによる指導を受けることのできる数少ない施設である。また、学術論文作成や学術集会発表についても多数の実績があり、受験資格に必要な業績を積むことが可能である。

集中治療専門医コースでは大阪大学医学部附属病院 ICU を中心とした4施設で、集中治療研修認定病院での育成プログラムを実施する。これにより現在不足している我が国の集中治療の将来をになう人材を育成することを目指す。

初期臨床研修を修了した医師を対象とし、最低5年間で集中治療の基本技術としての麻酔科専門医資格の取得と集中治療専門医資格取得のために必要とされる集中治療認定施設での最低1年間の研修と所定の知識・技能の取得を行う。研修4施設はそれぞれ異なる特徴を持つため、それぞれの施設をローテートすることでより効果的な研修を提供できる。

麻酔科専門医資格の取得については協力体制にある大阪大学麻酔科専門研修プログラムを参照してほしい。大阪大学麻酔科専門研修プログラムとは密接な協力関係にあり、研修状況などをみた上で研修プログラムを検討できる。また、大阪大学救急専門研修プログラムとも連携可能である。その他の診療科の研修と組み合わせることも可能であるが、診療科により対応が異なるため個別に相談の上、研修プログラムを検討する。

すでに上記①の専門医資格を取得している医師については受験資格に必要な集中治療専門医研修施設において1年以上の勤務歴と学術論文作成や学術集会発表の業績を積むための研修を行う。短期間で所定の知識・技能研修を修了する条件を満たすために基本的には大阪大学医学部附属病院集中治療部（ICU）の1年間から研修を開始し、技能取得などの状況に応じてその後の研修先を決定する。



(2) コースの概要

コース名： 集中治療専門医コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	集中治療部 (ICU)	集中治療	常勤医 9 名 (内集中治療専門医 4 名)	集中治療研修	最大 7 名	最低 1 年間 (2 年以上が望ましい)
大阪大学医学部附属病院	麻酔科	麻酔	常勤医 18 名 (内集中治療専門医 2 名)	麻酔研修	最大 7 名	1 年間
大阪府立病院機構、大阪急性期・総合医療センター	ICU、麻酔科	集中治療・麻酔	常勤医 14 名 (内集中治療専門医 5 名)	集中治療、麻酔研修	最大 3 名	研修者の希望を考慮の上、1 ないし 2 年
大阪府立病院機構、大阪国際がんセンター	ICU、麻酔科	集中治療・麻酔	常勤医 11 名 (内集中治療専門医 1 名)	集中治療、麻酔研修	最大 3 名	研修者の希望を考慮の上、1 ないし 2 年
大阪府立病院機構、大阪母子医療センター	ICU	集中治療・麻酔	常勤医 9 名 (内集中治療専門医 6 名)	特に小児を対象とした集中治療、希望すれば麻酔科研修も可能	最大 3 名	研修者の希望を考慮の上、6 ヶ月以上

(3) コースの実績

これまで個々の研修医の希望により研修を提供してきたが、2007 年度より体系的育成プログラムでの募集を開始し、これまで 2 名が集中治療専門医を取得している。また、大阪大学医学部附属病院 ICU では本プログラム外でも、最近、5 年間では 8 名が集中治療専門医資格を取得しており、本年度は 6 名が集中治療専門医試験を受験の予定である。人工呼吸法については個別に指導する以外に年 2 回、半日間のセミナーを 2002 年から開催している。また、2007 年より集中治療関連のセミナーを年 3-4 回行い、その時々で重要なトピックを取り上げることで各施設の集中治療レベル向上を目指している。

(4) コースの指導状況

現在プログラムに属している 1 名は麻酔科専門医コースにも属しながら集中治療専門医の取得のため一昨年度は大阪大学医学部附属病院 ICU で一年間研修し、昨年度は大阪府立病院機構、大阪母子医療センターにて研修している。本年は大阪大学医学部附属病院 ICU で研修しており、麻酔科専門医試験を受験予定である。本年度から本プログラムを開始した 1 名は麻酔科専門医コースにも属して大阪大学麻酔科で研修中であり、うち 3 か月間は ICU で研修の予定である。なお、人工呼吸器セミナーは参加者を一般にも開放しており例年 400 名程度の参加を得ている。集中治療関連のセミナーも関連施設以外からも参加者を集めている。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本集中治療医学会
資格名	集中治療専門医
資格要件	本文中に記載のとおり

【学会の連携等の概要】

上記の4病院のICUは日本集中治療医学会の集中治療研修認定施設として認定されており、日本麻酔科学会の認定指導施設もある。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 集中治療部

担当者 内山 昭則

✉ auchiyama@hp-icu.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-icu/works.html>



救急科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

救急医療では患者が手遅れとなる前に診療を開始することが極めて重要である。しかし、救急患者に対する医療を開始した段階では、緊急性の程度や罹患臓器も不明なため、患者の生命に対する安全を確保する上では、いかなる病態の緊急性にも対応できる専門医が必要となる。そのために、急病、外傷、中毒など原因や罹患臓器の種類に関わらず、すべての緊急性に対応できる救急科専門医を育成する事が本プログラムの目的となる。

さらに、当プログラムでは救急医療の技術の習得のみならず、救急医療の多様性を学び、病態の高度な解析能力、新たな治療方法の着想と実現方法、救急・災害医療での指導的能力を獲得できるように配慮している。

(2) プログラムの概要

3年(36ヶ月)の研修期間は、1) クリティカルケア診療部門 12ヶ月 (重症救急症例についての病院前診療・初期診療・集中治療)、2) ER 診療部門 12ヶ月 (初期、二次救急診療)、3) 地域医療診療 3~6ヶ月 (地域医療施設での救急診療) に加えて、4) 他科領域研修 (麻酔、集中治療、外科、整形外科、脳神経外科、内視鏡等:希望者) 3ヶ月、5) クリティカルケア診療部門または ER 診療部門 3~6ヶ月より構成される。また、ドクターへリ研修は基幹病院での研修に含まれており、ドクターカー研修が可能な施設もある。

すなわち、下記の5つのモジュールが研修プログラムの基本となる。

- クリティカルケア研修 (基幹研修施設 6ヶ月以上およびドクターへリ研修を含む) 12ヶ月
- ER 研修 12ヶ月
- 地域医療 3~6ヶ月
- 他科領域研修 3ヶ月
- クリティカルケアまたは ER 研修 6ヶ月

地域医療 (3~6M)	他科領域研修 (ICU、麻酔、外科、等) (3M)	クリティカルケア または ER 研修 (3~6M)
ER 研修 (12M)		
クリティカルケア研修 (12M) 基幹病院でのドクターへリ研修を含む		

大阪大学高度救命救急センター



他の専門診療科とチームワークが良好で直ちに高度な治療に入る体制が整っています。

Helicopter Emergency Medical Service Team (Osaka HEMS)



救急科専門医プログラム		
医療機関名	診療科名	主な研修内容
大阪大学医学部附属病院	高度救命救急センター	クリティカルケア・ドクターへリ・MC・災害医療・他科領域研修
大阪急性期・総合医療センター	高度救命救急センターおよびER・総合診療部門	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・ドクターカー・他科領域研修
国立病院機構大阪医療センター	救命救急センター	クリティカルケア・MC・災害医療・他科診療研修
大阪警察病院	救命救急センターおよびER部門	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・他科領域研修
大阪府立中河内救命救急センター	救命救急センター	クリティカルケア・ドクターカー・災害医療
石切生喜病院	救急部	ER・地域医療・他科領域研修
大阪赤十字病院	救命救急センター	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・他科領域研修
日本生命病院	救急診療科	ER・MC
多根総合病院	救急部	ER・地域医療・MC・他科領域研修
加納総合病院	救急部	ER・地域医療・災害医療・他科領域研修
関西労災病院	救急部	ER・MC・災害医療・他科領域研修

(3) 本プログラムで得られること

大阪大学高度救命救急センターは、国立大学で初めての救急部（救急医学講座）として発足し、以降一貫してわが国の救命救急医療をリードしてきたパイオニアであり、年間約1000症例の重症救急症例を収容・治療している。2008年よりはドクターへリの運航を開始、周辺地域に発生した最重症例や災害時医療への対応も可能となり、専門医育成のための環境は十分に整っている。本プログラムで学ぶ者は大阪大学での1年間の研修が必ず含まれる。また、本研修で以下の能力が習得できる。

- 1) 救急における様々な傷病に対して緊急度・重症度を的確に判断し、適切な初期診療を行える。
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
- 3) 重症患者への集中治療が行える。
- 4) 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることが出来る。
- 5) 病院前診療を理解し、的確な対応を行える。
- 6) 病院前救護のメディカルコントロールが行える。
- 7) 災害医療を理解し、指導的役割を発揮できる。
- 8) 救急診療に関する教育指導が行える。
- 9) 救急診療の科学的評価や検証が行える。
- 10) 最新の標準的知識や技術を習得し、プロフェッショナリズムに基づき継続的に学習を行い能力を維持する。
- 11) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
- 12) 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を適切にアセスメントし、安全確保ができる。

(4) プログラムの指導状況

大阪大学・関連救命救急センターには、救急医学会指導医が複数従事しており、専門研修指導に当たっている。専門研修施設群の各施設は、効果的に協力して指導に当たっている。具体的には、各施設に置かれた委員会組織の連携のもとで、専攻医一人一人の研修状況に関する情報を6か月に一度共有し、施設毎の救急症例の分野の偏りを専門研修施設群として補完しあい、各専攻医が必要とする全ての疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等を経験できるように配慮している。併せて、研修施設群の各連携施設は、年度毎に診療実績を基幹施設の救急科領域研修委員会へ報告している。また、本プログラムではすべての施設に、専攻医1名に対して指導医が1名以上在籍しており、十分な指導体制が整備された環境で3年間の研修を進めている。

(5) 専門医の取得等

本プログラム修了により、日本専門医機構が認定する救急科専門医の受験資格が取得できる。また、救急科専門研修プログラムを進めながら、他の専門医として、日本外傷学会外傷専門医、日本熱傷学会熱傷専門医、日本集中治療学会専門医、日本中毒学会クリニカルトキシコロジストなどの取得を目指すことができる。

集中治療専門医コース

詳細は97ページを参照してください。



問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

担当者 中川 雄公

✉️ hisho@hp-emerg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.osaka-u-taccc.com/index.html>

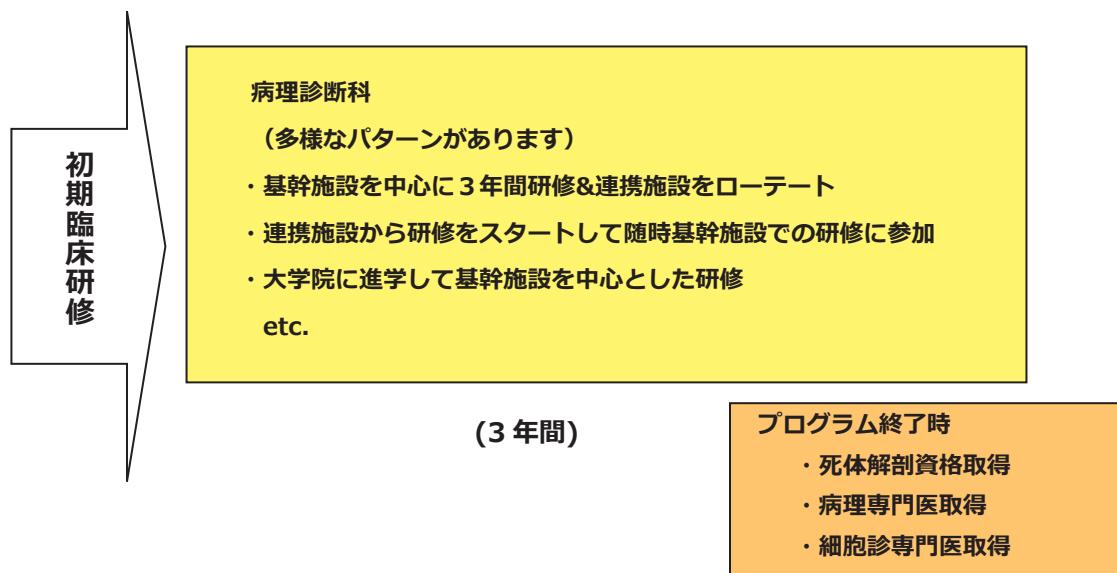


病理専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

医療における病理医の役割は重要で、治療方針の決定に深く関与します。このため病理医の責務は重大で、多数の症例を経験し、臨床医と連携する姿勢を学ぶことが大切です。本プログラムでは、基幹施設と比較的近距離にある多くの連携施設とが密に情報を共有しながら、魅力的で、しかも各研修医のニーズにあった教育を心がけます。大阪大学医学部附属病院病理診断科を基幹型施設とし、多数の専門研修連携施設の中から各研修医にあった適切な施設をローテートして病理専門医資格の取得を目指します。また並行して、細胞診断における研修も行うことにより、細胞診専門医取得も可能となります。

本プログラムに参加する施設の病理専門医が互いに集まり議論する機会も多く、またバーチャルスライドによるディスカッションネットワークの構築も試みており、病理医として成長していくための環境が整っています。また病理診断を支える概念は日々の学術的活動の結果生まれたものです。病理診断を支える病理学の進展に向け、本プログラムでは病理学的研究を行う環境も整えています。



(2) プログラムの研修連携施設

指導医数は、他プログラムとの按分した人数で示しています。

研修施設名	専任病理医数	病理専門医数	病理専門指導医数
大阪大学	17	11	4
大阪警察病院	3	3	2
国立循環器病研究センター	4	3	6/5
ペルランド総合病院	1	1	1
関西労災病院	4	3	5/10
箕面市立病院	1	1	1
市立伊丹病院	2	1	7/10
市立池田病院	1	1	1
近畿中央病院	1	1	7/10

研修施設名	専任病理医数	病理専門医数	病理専門指導医数
兵庫県立西宮病院	1	1	7/10
西宮市立中央病院	1	1	1
市立豊中病院	2	2	7/10
市立吹田市民病院	1	1	0
JCHO 大阪病院	3	2	7/10
国立病院機構大阪医療センター	2	2	1/5
国立病院機構大阪南医療センター	1	1	2/5
住友病院	2	2	1
大手前病院	1	1	7/10
大阪急性期・総合医療センター	3	3	7/10
市立東大阪医療センター	2	2	2
第二大阪警察病院	1	1	1
八尾市立病院	2	1	35/100
大阪はびきの医療センター	2	2	3/10
大阪母子医療センター	1	1	2/5
大阪府済生会富田林病院	2	2	7/10
大阪労災病院	2	2	1
堺市立総合医療センター	2	2	7/10
府中病院	1	1	1
市立貝塚病院	1	1	1
りんくう総合医療センター	2	2	7/10
近畿中央呼吸器センター	1	1	1/5
市立岸和田市民病院	2	2	1/10
日本生命病院	1	1	1
大阪府済生会千里病院	1	1	1
国立病院機構南和歌山医療センター	1	1	1
市立川西病院	1	1	3/10
大阪回生病院	1	1	1
多根総合病院	1	1	2/10
大阪みなと中央病院	0	0	0
愛染橋病院	0	0	0
大阪国際がんセンター	5	5	3/10
大阪市立大学病院	7	7	2/10
愛媛大学	7	5	1/10
千葉大学	7	4	1/10

※ プログラム全体で受け入れ可能人数は、5名／年です。

(3) プログラムの実績

毎年、病理専門医試験に合格して専門医となっている実績があります。

(4) プログラムの指導状況

大阪大学医学部附属病院病理診断科の専門研修施設群は、大阪府内および阪神間の施設で互いの行き来が便利です。施設の中には地域中核病院と地域中小病院が入っています。常勤病理指導医不在の施設でも病理専門医が常勤で所属している施設も多くあります。また常勤病理専門医が不在の施設での診断に関しては、診断の報告前に基幹施設あるいは連携施設の病理専門医がチェックし、その指導の下最終報告を行います。

本研修プログラムの専門研修施設群における解剖症例数の合計は、年平均 350 症例を超えており、病理専門指導医は 25 名以上在籍していますので、15 名（年平均 5 名）の専攻医を受け入れることが可能です。また本研修プログラムでは診断能力に問題ないと判断された専攻医は、地域に密着した中小病院へ非常勤として派遣されることもあります。これにより地域医療の中で病理診断の持つべき意義を理解した上で診断する重要さ、および自立して責任を持って行動することを学ぶ機会になります。

本研修プログラムでは連携型施設に派遣された際にも、年 10 回以上は基幹施設である大阪大学医学部附属病院病理診断科において、各種カンファレンスや勉強会に参加することで研修を充実させています。

(5) 専門医の取得等

学会等名	1) 日本病理学会, 2) 日本臨床細胞学会
資格名	1) 病理専門医, 2) 細胞診専門医, 3) 死体解剖資格
資格要件	<p>1)・病理専門医受験申請時に、厚生労働大臣の指定を受けた臨床研修 病院における臨床研修（医師法第16条の2第1項に規定）を修了している こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本病理学会認定施設において3年以上人体病理学研修を行っている こと。 ・出願時3年以上継続して日本病理学会正会員であること。 ・人体病理学に関する原著論文・学会報告が3編以上あること。 ・死体解剖資格を取得していること。 ・病理解剖経験数 30例以上かつ剖検講習会受講 ・組織診断経験症例数 5000件以上 ・細胞診断経験症例数 1000件以上 ・術中迅速診断経験症例数 50例以上 ・CPC報告書 2症例以上 ・病理組織診断、分子病理診断および細胞診に関する講習受講 ・筆記、実地、面接試験の合格 <p>2)・医師資格取得後5年以上の者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本法人および関連学会において、原則3年間以上にわたり細胞診断学の研修を受けた者 。 ・細胞診断学ならびに細胞病理学に関する論文3編以上をもち、その内1編は筆頭者である こと。発表論文の中で少なくとも1編は論文査読制の執られている学会誌で発表してい ること。 ・本法人活動の顕著な実績および教育委員会の主催するセミナー参加は細胞診専門医委員 会の審議を経て論文1編に該当すると見なす。 ・病理専門医など基盤領域学会専門医は、本法人における細胞診断学の研修2年間以上を もって受験申請可とする。 ・筆記試験の合格 <p>3)次のいずれかに該当する者で、死体解剖資格の認定を受けようとする者</p> <p>(1) 医学又は歯学に関する大学等で、免許取得後2年以上解剖に関する研究・教育業務 に従事し、かつ直近の5年以内に20体以上の解剖経験を有する医師、歯科医師</p> <p>(2) 医学又は歯学に関する大学の解剖学、病理学、法医学の専任講師（これと同等と認 められる者を含む。）の職にある者であって、5年以上解剖に関する研究・教育業務に従 事し、かつ直近の5年以内に50体以上（主執刀25体以上）の解剖経験を有する者</p>

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 病理診断科

担当者 松井 崇浩

森井 英一

✉ boshu @ molpath.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/molpath/index.html>

臨床検査専門研修プログラム

(1) 全体像

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせない。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。そのような専門医を育成すべく、大阪大学臨床検査専門研修プログラムにおいては指導医が皆さんの教育・指導にあたる。本専門研修プログラムでの研修後は、臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元に医師をはじめ他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することになる。

本専門研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。基幹施設である大阪大学医学部附属病院で多くの研修を行うが、連携施設での研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫している。

なお、初期臨床研修修了直後または修了間もない方には下記のプログラム制を適用しますが、基本領域専門医（認定内科医など相応のものも含む）または特別な事情（義務年限、出産育児など）がある方にはカリキュラム制を適用します。

(2) 概要

コース名： 臨床検査専門研修プログラム						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部 附属病院 および 隈病院	臨床検査部	臨床検査医学	1名	臨床検査医学全般の 研修	1名	3年以上

1年目は甲状腺専門医施設である隈病院（連携施設）にて、頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診の研修と甲状腺疾患を中心とした患者の診療およびそれに伴う検査結果の使い方について集中的に研修を行う。

★頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診集中研修時（隈病院）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	診療における 検査結果の使 用法	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科カンフ アランス	診療における 検査結果の使 用法	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科カンフ アランス	診療における 検査結果の使 用法・ 臨床科勉強会		
午後	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	超音波検査・ 穿刺吸引細胞 診研修	臨床科カンフ アランス・ 勉強会	臨床検査科カ ンファラン ス・ 勉強会		
夕方	自己学習	自己学習	自己学習	自己学習	自己学習		

★頸部超音波検査・穿刺吸引細胞診研修修了後（大阪大学医学部附属病院）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	指導医による 指導・ 自己学習	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務		
午後	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	検査室研修・ 検体検査診断 業務	指導医による 指導・ 自己学習	検査室研修・ 検体検査診断 業務		
夕方	自己学習 または RCPC	臨床検査科力 ンファラン ス・ 勉強会	研究カンファ ランス	自己学習 または RCPC	自己学習 または RCPC		

(3) 実績

4名が臨床検査専門医（および甲状腺学会専門医）の資格を取得した。

(4) 指導状況

大阪大学医学部附属病院は日本臨床検査医学会の認定研修施設である。臨床検査専門医・指導医が臨床検査部の技師と協力して指導にあたる。

(5) 専門医の取得

研修の修了が認定されたら専門医認定試験の受験資格が与えられる。この試験に合格すると、「臨床検査専門医」となる。臨床検査専門医には、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって現在は数少ない臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育研究を担うことが期待される。

また、外来診療することにより、臨床医の目線で臨床検査部を改善していくことも臨床検査専門医には求められる。そこで本専門研修プログラムは、「甲状腺学会専門医」の資格も取得できるプログラムになっている。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 臨床検査部

担当者 日高 洋

✉ hidaka @ hp-lab.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-lab/rinkenhome/index.html>



リハビリテーション科専門研修プログラム

（1）大阪大学リハビリテーション科専門研修プログラムについて

大阪大学リハビリテーション科専門研修プログラム（以下 PG）は、将来の日本のリハビリテーション医療や介護・福祉領域を含めた地域包括ケアシステムにおけるリーダーシップを果たす人材を育てるため、幅広い経験を、経験豊富な指導医により教育するシステムをポリシーとしています。診療のみならず、リハビリテーションに関する研究や医師や多職種チームに対する教育にも貢献できる人材を育成します。

基幹研修施設である大阪大学医学部附属病院にはリハビリテーション医学講座はないものの、整形外科医や神経内科医がリハビリテーション専門医の資格を取得して、質の高いリハビリテーション医療を提供してきた実績があり、2015年から診療科としてもリハビリテーション科が独立しました。関西の中心地に位置するため、近畿圏だけでなく中国・四国・北陸・中部方面からの交通の便もよく、全国からの専攻医を受け入れ、日本全国をリードするリハビリテーション医の育成を目指した研修環境を整備しています。また大学病院として研究にも力を入れており、臨床を行なながら研究活動に参画することもできます。

関連研修施設には、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院や総合病院、脊髄損傷・切断・摂食嚥下・小児など専門性の高い研修を行うことができるリハビリテーション専門病院、総合病院、肢体不自由児施設が幅広く揃っています。また、地域包括ケアシステムに貢献する生活期リハビリテーションの研修機会も十分用意しています。このため研修プログラムの3年間で、大学病院における急性期リハビリテーションの研修、回復期病床における回復期の研修、専門性のあるリハビリテーション医療の研修、の3本柱からなる研修を可能としています。また関連施設では維持期（生活期）のリハビリテーション、障害者福祉などを経験することができます。

（2）リハビリテーション科専門研修はどのようにおこなわれるのか

1) 研修段階の定義

リハビリテーション科専門医は初期臨床研修の2年間と専門研修（後期研修）の3年間の合計5年間の研修で育成されます。

- 初期臨床研修2年間に、自由選択でリハビリテーション科を選択する場合もあると思いますが、この期間をもつて全体での5年間の研修期間を短縮することはできません。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と日本リハビリテーション医学会が定める「リハビリテーション科専門研修カリキュラム（別添資料参照：以下、研修カリキュラムと略す）」にもとづいてリハビリテーション科専門医に求められる知識・技術の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮します。
- 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能ですが、大学病院において診療登録を行い、臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであれば、その期間は専門研修として扱われます。しかし基礎的研究のために診療業務に携わらない期間は、研修期間とはみなされません。
- 研修 PG の修了判定には以下の経験症例数が必要です。日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている経験すべき症例数を以下に示します。

（1）脳血管障害・外傷性脳損傷など：15例

（2）脊椎脊髄疾患・脊髄損傷：10例

（3）骨関節疾患・骨折：15例

（4）小児疾患：5例

（5）神経筋疾患：10例

（6）切断：5例

(7) 内部障害：10例

(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）：5例

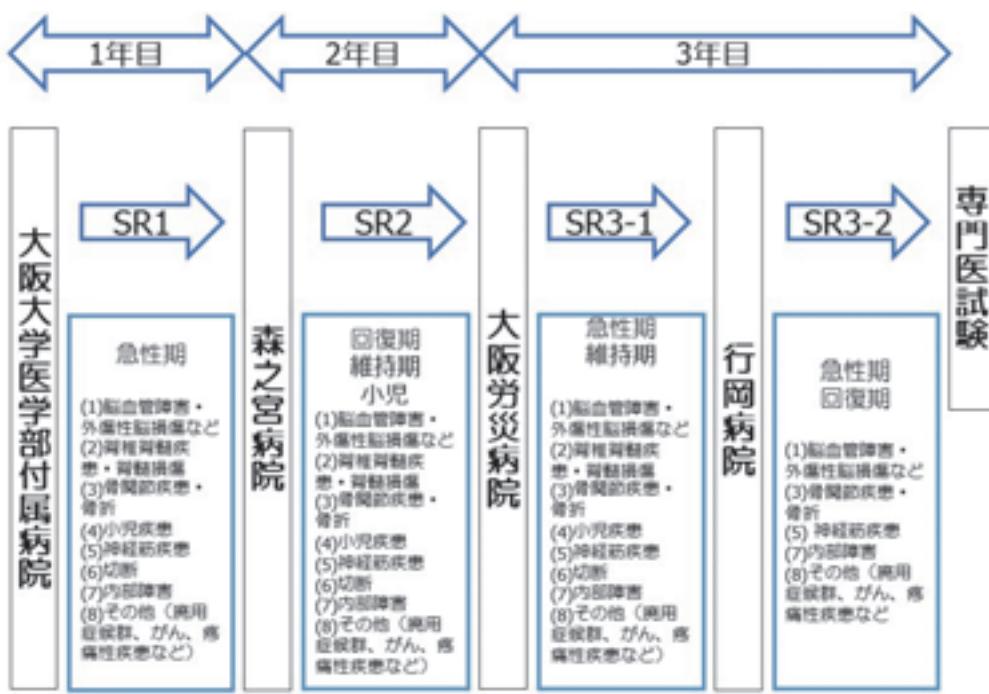
以上の75例を含む100例以上を経験する必要があります。

2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。しかし実際には、個々の年次に勤務する施設には特徴があり、その中でより高い目標に向かって研修することが推奨されます。

3) 施設群における専門研修コースについて

図1に大阪大学リハビリテーション科研修 PG の1コース例を示します。SR1 は基幹施設、SR2, SR3-1, SR3-2 は連携施設 A での研修です。1年目は基幹研修施設である大阪大学医学部附属病院、2年目は回復期リハビリテーション病床などリハビリテーション科病床で主治医となることのできる関連施設、3年目は小児、高齢者、切断、神経筋疾患など特徴のある関連施設に勤務します。各施設の勤務は半年から1年を基本としています。特に大学での研修は6ヶ月、回復期リハビリテーション病棟での受け持ち6ヶ月は、確保でされることが求められています。症例等で偏りの無いように、専攻医の希望も考慮して決められます。



(図1)

大阪大学リハビリテーション科専門研修 PG の研修期間は3年間としています。修得が不十分な場合は修得できるまでの期間を延長することになります。一方で、subspecialty 領域専門医取得を希望される専攻医には必要な教育を開始し、また大学院進学希望者には、臨床研修と平行して研究を開始することを奨めます。

(3) 研修 PG の施設群について

大阪大学リハビリテーション科研修 PG の施設群を構成する病院は以下の通りです。連携施設 A は診療実績基準を満たしており、半年から 1 年間のローテート候補病院で、研修の際には雇用契約を結びます。連携施設 B は短期間の見学実習を行う施設となり、雇用契約は結びません。ローテート例は表 1 を参考にしてください。

専門研修基幹施設

大阪大学医学部附属病院リハビリテーション科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

連携施設の認定基準は下記に示すとおり 2 つの施設に分かれます。2 つの施設の基準は、日本専門医機構のリハビリテーション科研修委員会にて規定されています。

●連携施設 A

リハビリテーション科専門研修指導責任者と同指導医（指導責任者と兼務可能）が常勤しており、リハビリテーション研修委員会の認定を受け、リハビリテーション科を院内外に標榜している病院または施設です。

- ・ 社会医療法人大道会 森之宮病院
- ・ 社会医療法人行岡医学研究会 行岡病院
- ・ 箕面市立病院
- ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター
- ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院
- ・ 社会福祉法人愛徳福祉会 南大阪小児リハビリテーション病院
- ・ 独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター
- ・ 北大阪ほうせんか病院
- ・ 姫路赤十字病院
- ・ 社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
- ・ 千里中央病院

●連携施設 B

指導医が常勤していない急性期病院、回復期リハビリテーション施設、介護老人保健施設、等、連携施設 A の基準を満たさないものをいいます。指導医が定期的に訪問するなど適切な指導体制を取る必要がある施設です。

- ・ 独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院
- ・ 堺市立総合医療センター
- ・ 国家公務員共済組合連合会 大手前病院
- ・ 社会医療法人きつこう会多根脳神経リハビリテーション病院
- ・ 兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター
- ・ ボバース記念病院

専門研修施設群

大阪大学医学部附属病院リハビリテーション科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

(表1) プログラムロード例

*2年～3年目のうち半年以上は、回復期リハビリテーション病棟に勤務

1年目	2年目	3年目
通年	通年	各施設半年～1年
基幹研修施設 大阪大学医学部附属病院	連携施設 A 森之宮病院（回復期） 行岡病院（回復期） 箕面市立病院（回復期） 星ヶ丘医療センター（回復期） 多根脳神経リハビリテーション 病院（回復期） 北大阪ほうせんか病院（回復期）	連携施設 A 大手前病院（脳血管障害・神経筋） JCHO 大阪病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害） 南大阪小児リハビリテーション病院（小児） 森之宮病院（脳血管障害・神経筋） 大阪刀根山医療センター（神経筋・小児・内部障害） 姫路赤十字病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害・廃用・がん） ベレランド総合病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・切断・内部障害・廃用・がん）
連携施設 A 森之宮病院（回復期） 行岡病院（回復期） 箕面市立病院（回復期） 星ヶ丘医療センター（回復期） 多根脳神経リハビリテーション 病院（回復期） 北大阪ほうせんか病院 （回復期）	基幹研修施設 大阪大学医学部附属病院	連携施設 B 大阪労災病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害）

専門研修施設群：大阪大学医学部附属病院リハビリテーション科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 リハビリテーション部

担当者 佐原 亘

✉ sahara-wataru-hr@alumni.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/departments/rehabilitation_medicine.html

総合診療専門研修プログラム

(1) プログラムの理念、全体的な研修目標

3年間を通して、研修カリキュラムに定められた総合診療領域全般にわたる研修を行い、標準的かつ全人的な総合診療的医療の実践に必要な知識と技能とを修得する。研修終了後には、総合診療専門医試験の受験資格を得る。

プログラムは、地域や職務形態が異なる研修施設を内包する。各研修施設は地域が異なるうえ、院内での役割も異なる。そのため、専攻医はその地域の実情に合わせた医療を実践し、その病院において必要とされる知識・技量を新たに習得し、適応することを求められる。本研修を終えた医師は、様々な環境において、様々な働き方が出来る、高度な可塑性を持つgeneralityと医師としてのprofessionalismを獲得することが期待される。

各研修病院はそれぞれの特色を持っている。各専攻医の希望に応じ、研修先の病院の選択が行われることとなる。

(2) 研修概要

総合診療I、総合診療II、内科、小児科、救急の研修が必修となる。

総合診療Iは小規模～中規模の医療施設、総合診療IIは中規模～大規模病院の総合内科/総合診療科での研修である。

総合診療I、IIはそれぞれ6か月以上、合わせて18か月以上の研修が必要である。

内科は12か月、小児科、救急はそれぞれ3か月の研修が必要である。

専攻医は下記病院の中から各領域の研修を行う病院を選択することとなる。その際、出産や育児など、個人の事情に配慮しながら、指導医と相談の上で決定する。

(3) 研修施設 各研修責任者は末尾参照

大阪大学医学部附属病院	(内科、総合診療 II、救急)
天理よろづ相談所病院（奈良県）	(内科、総合診療 II、小児科、救急)
市立池田病院	(内科、総合診療 II、小児科、救急)
大阪府立急性期・総合医療センター	(内科、総合診療 II、小児科、救急)
りんくう総合医療センター	(内科、総合診療 II)
済生会千里病院	(内科、総合診療 II、小児科、救急)
八尾徳洲会総合病院	(内科、総合診療 I、救急)
本田診療所（尼崎市）	(総合診療 I)
名瀬徳洲会病院（鹿児島県奄美大島）	(総合診療 I)
徳之島徳洲会（鹿児島県奄美諸島）	(総合診療 I)

(4) 研修パターン

研修形態は各研修医の希望に応じ、様々なパターンがあり得る。例を下記に示す。

① 地域医療・高齢者医療重視型

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大阪大学医学部附属病院(内科)											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
市立池田病院(総合診療II6・救急3・小児科3)											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
名瀬徳洲会病院(総合診療I)											

② ホスピタリスト型（感染症・急性期診療重視）

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大阪府急性期医療センター（内科）											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大阪府急性期医療センター（救急3・小児科3）						八尾徳洲会病院（総合診療I）					
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
八尾徳洲会病院（総合診療I）						大阪大学医学部附属病院（総合診療II）					

（5）指導体制

定められた研修目標を達成できるよう、定期的に指導医による面接が行われ、研修手帳を用いて研修の進捗状況の確認が行われる。

（6）指導責任者

大阪大学医学部附属病院	槻木宏実 (内科) 小倉裕司 (救急)	中神太志 (総合診療 II)
天理よろづ相談所病院	八田和大 (総合診療 II) 田口善夫 (内科) 泉知里 (救急)	石丸裕康 (総合診療 II) 土井拓 (小児科)
市立池田病院	村上慎一郎 (総合診療 II) 今井康陽 (内科) 伊藤基敏 (救急)	梶原信之 (総合診療 II) 尾崎義和 (小児科)
大阪府立急性期総合医療センター	大場雄一郎 (総合診療 II、 内科)	高野智子 (小児科)
りんくう総合医療センター	倭正也 (総合診療 II)	
済生会千里病院	寺田浩明 (総合診療 II) 瀬戸眞澄 (小児科)	鈴木都男 (内科) 林靖之 (救急)
八尾徳洲会病院	高原良典 (総合診療 I) 岩井敦志 (救急)	瓜生恭章 (内科)
名瀬徳洲会病院	平島修 (総合診療 I)	
徳之島徳洲会病院	水田博之 (総合診療 I)	
本田診療所	森敬良 (総合診療 I)	

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 総合診療科

担当者 中神 太志

✉ fnakagami@hp-gm.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/geriat/general/index.html>





資料



阪大病院 専門研修プログラムにて取得可能な専門医・認定医資格一覧

プログラム/コース名	基本領域	基本領域に加えて要件により受験可能な専門医						要件により受験可能な認定医など
		循環器専門医	超音波専門医	不整脈学会専門医	透析専門医	腎臓専門医	内科専門医	
内科プログラム	循環器内科コース	内科専門医	腎臓専門医	超音波専門医	不整脈学会専門医	透析専門医	腎臓専門医	認定内科医 移植認定医(心) イシタベーション学会認定医
	腎臓内科コース	内科専門医	腎臓専門医	腎臓専門医	透析専門医	透析専門医	腎臓専門医	認定内科医 移植認定医(腎)
	消化器内科コース	内科専門医	消化器専門医	消化器専門医	消化器内視鏡専門医	消化器専門医	消化器専門医	認定内科医
	糖尿病・内分泌・代謝内科コース	内科専門医	糖尿病専門医	糖尿病専門医	内分泌代謝専門医	肥満症専門医	内分泌代謝専門医	認定内科医
	呼吸器内科コース	内科専門医	呼吸器専門医	呼吸器専門医	呼吸器専門医	呼吸器専門医	呼吸器専門医	認定内科医
	免疫内科コース	内科専門医	リウマチ専門医	リウマチ専門医	アレルギー専門医	アレルギー専門医	アレルギー専門医	がん治療認定医
	血液・腫瘍内科コース	内科専門医	血液専門医	血液専門医	血液専門医	血液専門医	血液専門医	認定内科医
	神経内科・臨卒中科院コース	内科専門医	神経内科専門医	神経内科専門医	ハビリテーション科専門医	脳卒中専門医	脳卒中専門医	認知症学会専門医
	老年・総合内科コース	内科専門医	老年病専門医	循環器専門医	腎臓専門医	糖尿病専門医	透析専門医	高血圧専門医 認知症専門医 日本病院総合診療 医学会認定医
	心臓血管外科コース	外科専門医	心臓血管外科専門医	心臓血管外科専門医	心臓血管外科専門医	心臓血管外科専門医	心臓血管外科専門医	認定内科医
外科プログラム	呼吸器外科コース	外科専門医	呼吸器外科専門医	呼吸器外科専門医	呼吸器外科専門医	呼吸器外科専門医	呼吸器外科専門医	がん治療認定医
	消化器外科コース	外科専門医	消化器外科専門医	消化器外科専門医	消化器外科専門医	消化器外科専門医	消化器外科専門医	がん治療認定医
	乳腺コース	外科専門医	乳腺専門医	乳腺専門医	乳腺専門医	乳腺専門医	乳腺専門医	内視鏡外科学会技術認定
	小児外科コース	外科専門医	小児外科専門医	小児外科専門医	小児外科専門医	小児外科専門医	小児外科専門医	
	眼科プログラム	眼科専門医	眼科専門医	眼科専門医	眼科専門医	眼科専門医	眼科専門医	
耳鼻咽喉科プログラム	耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科専門医	アレルギー専門医	内分泌外科専門医	頭頸部がん専門医	気管食道科専門医	がん治療認定医
	整形外科プログラム	整形外科専門医	整形外科専門医	整形外科専門医	整形外科専門医	整形外科専門医	整形外科専門医	
	皮膚科プログラム	皮膚科専門医	皮膚科専門医	皮膚科専門医	皮膚科専門医	皮膚科専門医	皮膚科専門医	
	形成外科プログラム	形成外科専門医	形成外科専門医	形成外科専門医	形成外科専門医	形成外科専門医	形成外科専門医	
	精神科プログラム	精神科専門医	精神科専門医	精神保健指定医	精神科専門医	精神科専門医	精神科専門医	
	脳神経外科プログラム	脳神経外科専門医	脳神経外科専門医	脳神経外科専門医	脳神経外科専門医	脳神経外科専門医	脳神経外科専門医	
	産婦人科プログラム	産婦人科専門医	産婦人科専門医	産婦人科専門医	産婦人科専門医	産婦人科専門医	産婦人科専門医	産科婦人科内視鏡技術認定医
	小児科プログラム	小児科専門医	小児科専門医	小児科専門医	小児科専門医	小児科専門医	小児科専門医	小児栄養・消化器肝臓認定医
	泌尿器科プログラム	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医	がん治療認定医
	放射線科プログラム	放射線科専門医	放射線科専門医	放射線科専門医	放射線科専門医	放射線科専門医	放射線科専門医	PEI核医学認定医
麻酔科プログラム	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科専門医	麻酔科認定医
	救急科プログラム	救急科専門医	救急科専門医	救急科専門医	救急科専門医	救急科専門医	救急科専門医	
	病理プログラム	病理専門医	病理専門医	病理専門医	病理専門医	病理専門医	病理専門医	死体解剖資格
	臨床検査プログラム	臨床検査専門医	臨床検査専門医	臨床検査専門医	臨床検査専門医	臨床検査専門医	臨床検査専門医	
	リハビリテーション科プログラム	リハビリテーション科専門医	リハビリテーション科専門医	リハビリテーション科専門医	リハビリテーション科専門医	リハビリテーション科専門医	リハビリテーション科専門医	
	総合診療科プログラム	総合診療専門医	総合診療専門医	総合診療専門医	総合診療専門医	総合診療専門医	総合診療専門医	
	集中治療コース	集中治療専門医	集中治療専門医	集中治療専門医	集中治療専門医	集中治療専門医	集中治療専門医	

基本19領域専門医

機構認定済みサブスペシャルティ23領域

大阪大学医学部附属病院 専門研修プログラム 連携施設・連携施設・連携診療科 一覧

2022年4月時点

No.	施設名 (50音順・敬称略)	内科系科 サブスペシャリティ領域		外科系科 サブスペシャリティ領域	
		内科系科	サブスペシャリティ	外科系科	サブスペシャリティ
1	ア行	豊洲病院			
2		淡路山病院			
3		市立百舌鳥病院			
4		尼崎中央病院			
5		市立池田病院			
6		石切生善病院			
7		和歌丘病院			
8		医師会病院			
9		市立伊丹病院			
10		伊丹天神川病院			
11		相模病院			
12		大阪医療センター			
13		大阪回生病院			
14		大阪急性期・総合医療センター			
15		大阪警察病院			
16		大阪国際がんセンター			
17		大阪さやま病院			
18		大阪市立総合医療センター			
19		大阪赤十字病院			
20		大阪中央病院			
21		大阪力がん山医療センター			
22		大阪精神科病院			
23		大阪はいきの医療センター			
24		大阪城十字病院(旧結核病院大阪病院)			
25		大阪府立精神医療センター			
26		大阪レースクリニック			
27		大阪母子医療センター			
28		大阪南医療センター			
29		大阪労災病院			
30		大手前病院			
31		おかだに病院			
32	カ行	市立貝塚病院			
33		加藤総合病院			
34		河崎病院			
35		川崎病院			
36		河内総合病院			
37		市立川西病院			
38		関西医大カナル病院			
39		関西医大さいたま病院			
40		市立岸和田市民病院			
41		岸和田総合病院			
42		北大阪ほせんか病院			
43		紀香病院			

大阪大学医学部附属病院 専門研修プログラム 連携施設・連携診療科 一覧

2022年4月時点

大阪大学医学部附属病院 専門研修プログラム 連携施設・連携診療科 一覧

2022年4月時点

大阪大学医学部附属病院 専門研修プログラム 連携施設・連携診療科 一覧

No.	施設名	内科系科 サブスペシャリティ領域		外科系科 サブスペシャリティ領域	
		内科系科	サブスペシャリティ	外科系科	サブスペシャリティ
130	質面神経ナトリウム	消化器内科	胃腸内視鏡科	呼吸器内科	代謝内分泌科
131	美原病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	呼吸器内科	代謝内分泌科
132	自体結合病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
133	都島放射線科クリニック	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
134	豊田眼科病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
135	守口敬仁会病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
136	森之宮病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
137	や行	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
138	八尾市立病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
139	やまと精神医療センター	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
140	友誼会総合病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
141	行徳病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
142	吉林病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
143	淀川リリスト教病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
144	ラ行	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
145	りんくう総合医療センター	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
146	連携大学 爱知医科大学病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
147	愛媛大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
148	大分大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
149	大阪市立大学 医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
150	大阪医科大学附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
151	近畿大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
152	江崎大学医学部奈良病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
153	高知大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
154	国際医療福祉大学	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
155	千葉大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
156	東邦大学佐倉病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
157	獨協医科大学	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
158	獨協医科大学埼玉医療センター	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
159	鳥取大学	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
160	福井大学病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
161	新潟大学医学部総合病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
162	兵庫医科大学	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
163	福井大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
164	三重大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
165	宮崎大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
166	琉球大学医学部附属病院	消化器内科	胃腸内視鏡科	心臓血管外科	心臓血管外科
	(診療科別連携施設数)	16	36	16	25
		30	17	15	7
		20	12	14	37
		32	26	32	26
		19	30	21	21
		21	19	29	24
		3	10	43	1
		3	3	17	9

※ 本リストは「本院が運営施設となっているプログラム」における連携状況を示すリストです。(大阪病院が連携施設として参加している他院プログラムにおける連携状況は反映されておりません)。

専門研修関連サイト

大阪大学医学部附属病院 卒後教育開発センター

： <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-kensyu/>



大阪大学医学部附属病院 : <https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/>



日本専門医機構

： <https://jmsb.or.jp>



厚生労働省 医師専門医制度 :

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/rinsyo/index_00011.html





令和3年5月発行
大阪大学医学部附属病院 卒後教育開発センター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号
Tel.06-6879-5050
e-mail senmoni@hp-kensyu.med.osaka-u.ac.jp
<https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-kensyu/>
